GR DIGITAL

RICOH

GR DIGITAL Ⅲ

使用説明書 カメラ編

本製品のシリアル番号は、本体底面に記載されています。

準備編

お使いになる前に必ずお読みください。

カメラ本体の各部名称や、カメラの基本的な操作方法を説明しています（P.7-14）。

基本編

はじめてお使いのときは必ずお読みください。

電源を入れる、撮影する、再生するなど、はじめてこのカメラをお使いの方でも一通り操作できるようになります（P.15-44）。

応用編

目的に応じて必要なときにお読みください。

いろいろな撮影機能や再生機能の他、カメラのカスタマイズ、プリントの方法、パソコンを利用する方法など、このカメラのすべての機能が記載されています（P.45-203）。

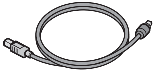
リチャージャブルバッテリーは、使用する前に充電する必要があります。ご購入時のバッテリーは、充電されていません。

パッケージを確認する

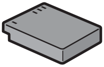
パッケージを開けたら同梱品を確認しましょう。



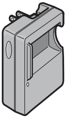
GR DIGITAL III
シリアル番号は、本体底面に記載されています。



USB ケーブル（miniB タイプ）
カメラをパソコンやプリンターと接続するときに使用します。



リチャージャブルバッテリー（DB-65）



バッテリーチャージャー（BJ-6）



ホットシューカバー
カメラ本体に装着されています。

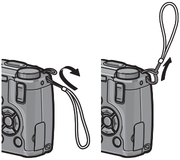


AV ケーブル
テレビで画像を見るときに使用します。

- **CD-ROM**
  ソフトウェアと『使用説明書（ソフトウェア編）』などが含まれています。
- **使用説明書（カメラ編）（本書）**
- **安全上のご注意**
- **ハンドストラップ**

メモ --

ハンドストラップの付けかた
ストラップの先端をカメラのストラップ取り付け部に通して取り付けます。



お客様登録のお願い

この度は、リコー製品をお買い求めいただきありがとうございます。リコーは、ご購入商品に関する適切なサポートやサービスを提供するために、お客様登録をお願いしております。

お客様登録は、以下の弊社 Web サイトからお願い致します。

http://www.ricoh.co.jp/dc/regist/

なお、ご登録いただいた方には、E メール（ファームウェアなどのサポート情報掲載）の配信を行っております。

はじめに

この使用説明書には、本カメラを使って撮影や再生機能を利用する方法や使用上の注意について記載してあります。
本カメラの機能を十分にご活用いただくため、ご使用の前に、本書を最後までお読みください。本書が必要になったとき、すぐに利用できるよう、お読みになった後は、必ず保管してください。

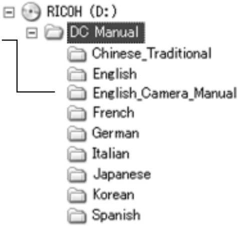
株式会社リコー

安全上のご注意について	安全に正しくお使いいただくために、操作の前には必ず別冊の「安全上のご注意」をお読みください。
テスト撮影について	必ず事前にテスト撮影をして正常に記録されていることを確認してください。
著作権について	著作権の目的になっている書籍、雑誌、音楽などの著作物は、個人的または家庭内およびこれに準ずる限られた範囲内で使用する以外、著作者に無断で複写、改変などすることは禁じられています。
ご使用に際して	万一、本カメラなどの不具合により記録や再生されなかった場合、記録内容の補償については、ご容赦ください。
保証書について	本カメラは国内仕様です。保証書は日本国内において有効です。外国で万一、故障、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。
電波障害について	他のエレクトロニクス機器に隣接して設置した場合、お互いに悪影響を及ぼすことがあります。特に、近くにテレビやラジオなどがある場合、雑音が入ることがあります。その場合は、以下のようにしてください。 ・テレビやラジオなどからできるだけ離す ・テレビやラジオなどのアンテナの向きを変える ・コンセントを別にする 〈電波障害自主規制について〉 この装置は、クラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。 使用説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。 VCCI-B

本書の内容に関しては将来予告なく変更することがあります。
本書は内容について万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気付きのことがありましたら、巻末をご覧の上ご連絡ください。
Microsoft、Windows、Windows Vista®、Internet Explorer は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
Macintosh、Mac OS は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。
Adobe、Adobe ロゴ、Reader は、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。
会社名、および製品名はそれぞれ各社の商標または登録商標です。

使用説明書の構成について

GR DIGITAL III には、以下の 2 種類の使用説明書が付属しています。

<table>
<tr><td rowspan="2"></td><td>『使用説明書（カメラ編）』（本書）</td></tr>
<tr><td>カメラの使い方や機能を説明しています。また、付属ソフトウェアをパソコンに入れる（インストール）方法についても説明しています。
※英語版の『使用説明書（カメラ編）』は PDF ファイルで、付属の CD-ROM に収録されています。</td></tr>
<tr><td rowspan="2"></td><td>『使用説明書（ソフトウェア編）』（PDF ファイル）</td></tr>
<tr><td>カメラの画像をパソコンに取り込む方法について説明しています。
『使用説明書（ソフトウェア編）』は、付属 CD-ROM 内の以下のフォルダに収録されています。
英語版の『使用説明書（カメラ編）』（PDF ファイル）
各言語の『使用説明書（ソフトウェア編）』が、該当する言語名のフォルダに収録されています。
使用説明書をハードディスクにコピーするにはそれぞれのフォルダから PDF ファイルをハードディスクにドラッグしてください。
</td></tr>
</table>

本カメラには、パソコン内の画像を表示したり、編集したりできるソフトウェア Irodio Photo & Video Studio が付属しています。Irodio Photo & Video Studio の使い方については、Irodio Photo & Video Studio のヘルプを参照してください。Irodio Photo & Video Studio についてのご質問・ご相談は、下記ユーザーサポートセンターまでお問い合わせください。

株式会社ピクセラ　ユーザーサポートセンター

ナビダイヤル：0570-02-3500
TEL：06-6633-2990（PHS やナビダイヤルをご利用できない場合）
FAX：06-6633-2992
〒 556-0011
大阪府大阪市浪速区難波中 2-10-70 パークスタワー 25F
受付時間：月曜日～日曜日　10：00 ～ 18：00
（年末年始、祝日、弊社指定休日は除く）
また以下のページで、Irodio Photo & Video Studio の最新情報が閲覧できます。
http://www.pixela.co.jp/oem/irodio/j/irodio_digitalphoto_videostudio/

もくじ

6 画像をパソコンに取り込む 164

7 付録 180

各部名称編

カメラ本体の各部名称や基本的な操作方法を説明します

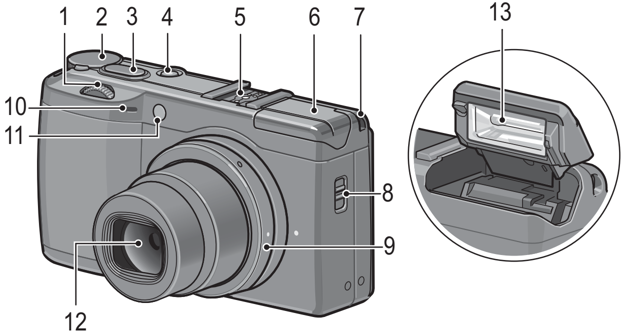
はじめに

ご使用の前に、この使用説明書をよくお読みになってから正しくお使いください。お読みになった後は、いつでも見られるところに保管してください。

カメラ各部の名称

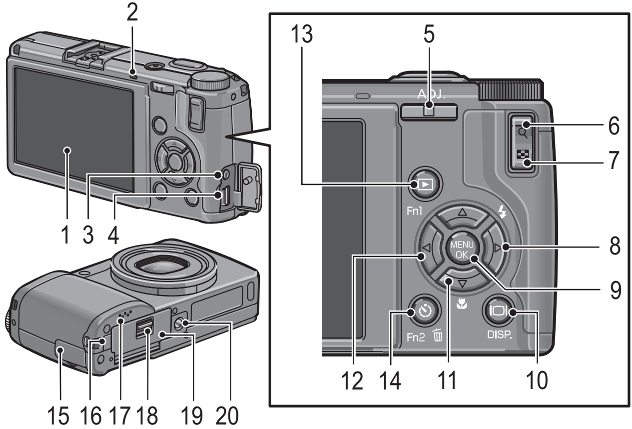
カメラ本体

前面



1	アップダウンダイヤル........P.11	8	⚡OPEN（フラッシュオープン）スイッチ.............P.30
2	モードダイヤル P.10	9	リングキャップ P.194
3	シャッターボタン..................P.23	10	マイク.. ー
4	POWER（電源）ボタン P.21	11	AF 補助光.......................P.32、152
5	ホットシュー ....P.195、198	12	レンズ...P.23
6	フラッシュカバー..................P.30	13	フラッシュ発光部..................P.30
7	ストラップ取り付け部...表紙裏		

背面

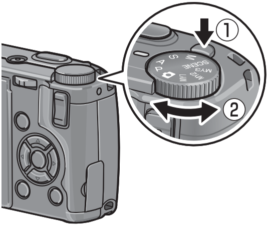


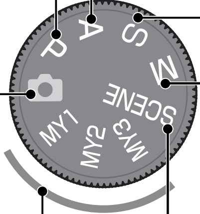
1	画像モニター P.12
2	オートフォーカス／フラッシュランプ .... P.21、24、31
3	AV 出力端子 P.123
4	USB 端子 .... P.173、174、177、195
5	ADJ. レバー .... P.11、141
6	Q（拡大表示）ボタン .... P.28、37、146
7	▦（サムネイル表示）ボタン .... P.28、37、146
8	▶ ／ ⚡（フラッシュ）ボタン P.30
9	MENU/OK ボタン .... P.53、61、107、132
10	IOI（DISP.）ボタン P.42
11	▼ ／ ✿（マクロ）ボタン .. P.29
12	◀ ／ Fn（ファンクション）1 ボタン P.143
13	▶（再生）ボタン ... P.35、107
14	🗑(削除)／ ⏲(セルフタイマー) ／ Fn2 ボタン .. P.32、39、143
15	端子カバー ... P.123、126、173、174、177
16	電源（DC 入力）ケーブルカバー P.196
17	スピーカー P.106
18	解除レバー .... P.18、19、196
19	バッテリー／カードカバー .... P.18、19、196
20	三脚ネジ穴 P.190

モードダイヤルの使い方

静止画撮影や動画撮影などのカメラの操作は、モードダイヤルを切り替えてから行います。

モードダイヤルはロックボタンを押しながら（①）回します（②）。





A：絞り優先モード（P.48）

絞り値を手動で設定でき、その絞り値に合わせて自動的にシャッタースピードが設定されます。

P：プログラムシフトモード（P.46）

絞り値とシャッタースピードの組み合わせを変更できます。

S：シャッタースピード優先モード（P.49）

シャッタースピードを手動で設定でき、そのシャッタースピードに合わせて自動的に絞り値が設定されます。

📷：オート撮影モード（P.24）

被写体によって、最適な絞り値とシャッタースピードをカメラが自動的に決めます。

M：マニュアル露光モード（P.50）

絞り値とシャッタースピードを手動で設定できます。

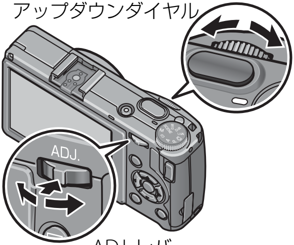
MY1、MY2、MY3：マイセッティングモード（P.60）

［マイセッティング登録］で登録した設定で撮影します。

SCENE：シーンモード（P.52）

撮影シーンに適した設定を選択できます。また、動画も撮影できます。

アップダウンダイヤル／ADJ. レバーの使い方



アップダウンダイヤルの使い方

アップダウンダイヤルを左右に回すと、▲▼ ボタンの代わりとして使用できます。また､絞り値（F 値）やシャッタースピードを変更したり、絞り値とシャッタースピードの組み合わせを変更する場合などにも使用します。

ADJ. レバーの使い方

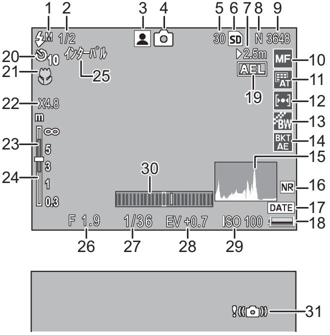
ADJ. レバーは､中央を押すか､左右にたおして使用します。ADJ. レバーにあらかじめ撮影設定メニューを登録しておくと、中央を押して簡単に機能を呼び出せます（ADJ. モード ☞P.142）。また、◀▶ ボタンの代わりや、シャッタースピードを設定する場合などにも使用します。

メモ

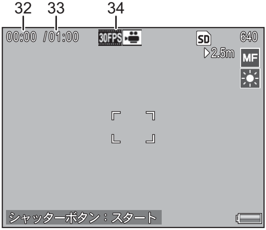
セットアップメニューの [再生モード ダイヤル設定] ／ [M モード ダイヤル設定] ／で、アップダウンダイヤルと ADJ. レバーの機能を変更できます（☞P.147）。

画像モニターの表示

撮影するときの画面



静止画モード



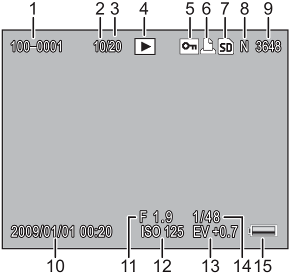
動画モード

1	フラッシュのモード............P.30
2	フラッシュ調光補正／フラッシュマニュアル発光量............P.87、88
3	シーンモード／連写...P.52、80
4	撮影モードの種類／＋通常撮影....................P.10、57
5	残り記録枚数....................P.192
6	記録先....................P.19
7	スナップ時フォーカス距離....P.73
8	画質....................P.65
9	画像サイズ....................P.65
10	フォーカスモード／フルプレス スナップ....................P.67、74
11	ホワイトバランスモード／ホワイトバランス補正...P.94、98
12	測光モード....................P.76
13	画像設定....................P.77
14	ブラケット撮影...P.83、84、85
15	ヒストグラム表示................P.44
16	ノイズリダクション............P.90
17	日付入れ撮影....................P.92
18	電池マーク....................P.14
19	AE ロック....................P.144
20	セルフタイマー....................P.32
21	マクロ撮影....................P.29
22	デジタルズームの倍率........P.28
23	被写界深度....................P.68
24	フォーカスバー....................P.68
25	インターバル撮影................P.91
26	絞り値....................P.48、50
27	シャッタースピード...P.49、50
28	露出補正....................P.93
29	ISO 感度....................P.100
30	水平インジケーター...P.34、155
31	手ブレ注意マーク................P.26
32	記録時間....................P.192
33	残り記録時間....................P.192
34	フレームレート....................P.105

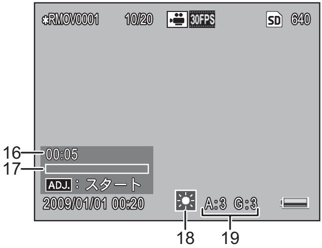
メモ

- 残り記録枚数は、実際に撮影できる枚数と異なる場合があります。
- 静止画の記録可能枚数や動画の記録時間は、記録先（内蔵メモリーまたはメモリーカード）の容量や撮影条件などによって異なることがあります。
- 残り記録枚数が 1 万枚以上のときは「9999」と表示されます。

再生するときの画面



静止画モード



動画モード

1	ファイル番号 .... –	11	絞り値 .... P.48、50
2	再生ファイル数 .... –	12	ISO 感度 P.100
3	総ファイル数 .... –	13	露出補正 P.93
4	モードの種類 .... –	14	シャッタースピード....P.49、50
5	プロテクト P.109	15	電池マーク P.14
6	DPOF P.112	16	記録時間または経過時間 ...... –
7	再生元 P.36	17	インジケーター .... –
8	画質 P.65	18	ホワイトバランスモード...P.94
9	画像サイズ P.65	19	ホワイトバランス補正........P.98
10	撮影した日付 ....P.92、163		

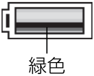
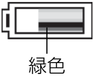
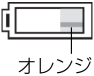
メモ

- 使用中、操作やカメラの状態に関するメッセージが表示されることがあります。
- DISP. ボタンを押すと、撮影時の詳細情報を表示できます（☞P.42）。



電池の残量

画像モニターの右下に、電池の残量を示すマークが表示されます。残量がなくなる前に充電してください。

電池マーク	説明
	電池の残量はまだ十分あります。
	電池の残量が減りはじめました。充電または新しい電池に交換することをお勧めします。
	電池の残量がわずかになりました。充電または新しい電池に交換してください。

メモ

- 単四形ニッケル水素電池をご使用の場合、電池の種類や条件によっては残量表示が正しく表示されないことがあります。
- AC アダプターをご使用の場合、 が表示されることがありますが、故障ではありません。そのまま引き続きご使用ください。

基本編

はじめてお使いのときは必ずお読みください

準備をする

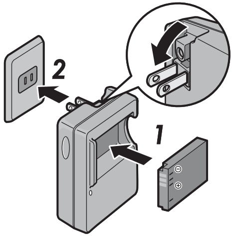
電源を入れて撮影できるように準備します。

リチャージャブルバッテリーを充電する

付属のリチャージャブルバッテリーは、使用する前に充電する必要があります。**ご購入時のバッテリーは充電されていません。**

1 バッテリーの⊕⊖印とバッテリーチャージャーの⊕⊖印を合わせてセットする

- この時、バッテリーの印刷面は上になっています。
- 充電には専用バッテリーチャージャー（BJ-6）をご使用ください。



注意 ----------

⊕と⊖を逆にセットしないでください。

2 コンセントにバッテリーチャージャーを差し込む

- 充電が始まります。充電ランプの表示は下表のとおりです。充電が終了したら、バッテリーチャージャーをコンセントから抜いてください。

充電ランプ	説明
点灯	充電開始
消灯	充電完了
点滅	バッテリーチャージャーまたはバッテリーに異常があります。バッテリーチャージャーをコンセントから抜いて、バッテリーをバッテリーチャージャーから取り外してください。

- バッテリーの残量により充電時間は異なります。バッテリーが空の場合、約 2 時間で充電が完了します（25℃の場合）。

電池について

GR DIGITAL III では、以下のバッテリーが使用できます。

- リチャージャブルバッテリー DB-65（付属）
（リチャージャブルバッテリー DB-60 もご使用になれます）
- 単四形アルカリ乾電池（市販）
- 単四形ニッケル水素電池（市販）

記録可能枚数

- 記録可能枚数（電池の持続）の目安

電池の種類	通常時の枚数
リチャージャブルバッテリー（DB-65）	約 370 枚
単四形アルカリ乾電池（市販）	約 25 枚

- 撮影枚数は CIPA 規格に準拠した測定条件によるものです（温度 23℃、画像モニターオン、30 秒ごとに撮影、2 回に 1 回フラッシュ発光、10 枚撮影するごとに電源をオフ／オンを繰り返し）。
- 単四形アルカリ乾電池の記録可能枚数は、パナソニック株式会社製の単四形アルカリ乾電池を使用したときの枚数です。
- 枚数はあくまでも目安です。長時間ご使用になる場合は、予備電池の携帯をお勧めします。

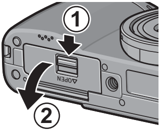
注意

- リチウムイオン電池は、純正品（DB-65 ／ DB-60）をご使用ください。当社指定のリチャージャブルバッテリー以外は使用しないでください。
- 市販のニッケル水素電池はご購入時には充電されていません。ご使用の前に充電してお使いください。
- ニッケル水素電池の場合、ご購入直後や 1 ヶ月以上使用しないと“不活性状態”となっている場合があり、電池本来の性能が発揮されません。2 ～ 3 回充電を繰り返してから再度ご使用ください。
- 単四形アルカリ乾電池の場合、電池の銘柄、製造日からの保存期間により電池寿命が短い場合があります。また、アルカリ乾電池はその特性上、低温時には使用時間が極端に短くなります。
- マンガン乾電池およびニッカド電池は、ご使用になれません。
- 使用直後の電池は高温になることがあります。電池の取り外しはカメラの電源を切り、温度が下がるのを待ってから行ってください。
- 長い期間カメラをご使用にならない場合には、電池を抜いてカメラを保管してください。

バッテリーをセットする

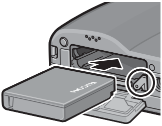
バッテリーをセットする前や取り出す前には、カメラの電源がオフになっていることを確認してください。

1 解除レバーを「OPEN」側にスライドさせ、バッテリー／カードカバーを開ける

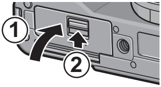


2 リチャージャブルバッテリーを挿入する

- バッテリー側面でロックツメを挿入部の外側に押しながら奥まで入れます。
- バッテリーをセットすると、ロックツメでロックされます。



3 バッテリー／カードカバーを閉じ、解除レバーを「OPEN」と反対側にスライドさせてロックする

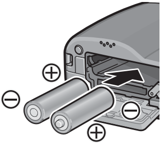


リチャージャブルバッテリーを取り出すには

解除レバーを「OPEN」側にスライドさせ、バッテリー／カードカバーを開けます。ロックツメを押しながらずらすとバッテリーが押し出されるので、つまんで取り出します。このときバッテリーが落下しないよう十分に注意してください。

単四形アルカリ電池（市販）を使用する場合

電池の向きに気をつけて、図のように挿入します。指で電池の入った箇所をふたの上から押さえながら、解除レバーをスライドしてバッテリー／カードカバーを閉じてください。取り出すときは解除レバーを「OPEN」側にスライドさせ、バッテリー／カードカバーを開けます。



注意

- バッテリー／カードカバーを閉めるときは、解除レバーをスライドさせて、確実にロックしてください。
- 長時間カメラをご使用にならない場合は、電池を抜いてカメラを保管してください。抜いた電池は涼しい場所に保管してください。

メモリーカードをセットする

メモリーカード（市販）をセットする前や取り出す前には、カメラの電源がオフになっていることを確認してください。

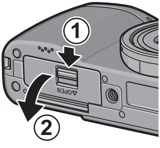
使用可能なメモリーカードについて ------------------------------------

本カメラでは、市販の SD メモリーカード、または SDHC メモリーカードが使用できます。本書では、これらのカードを「メモリーカード」と表記します。

記録先について ---

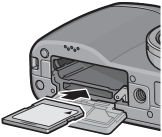
メモリーカードをセットしていないときは内蔵メモリーに記録され、セットしているときはメモリーカードに記録されます。内蔵メモリーに記録された画像は、メモリーカードにコピーできます（☞P.116）。

1 解除レバーを「OPEN」側にスライドさせ、バッテリー／カードカバーを開ける

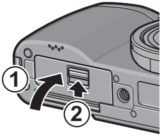


2 SD メモリーカードの向きに気を付けて、「カチッ」と音がするまで SD メモリーカードを奥へ挿入する

- 先にリチャージャブルバッテリーをセットしてもかまいません。



3 バッテリー／カードカバーを閉じ、解除レバーを「OPEN」と反対側にスライドさせてロックする



メモリーカードを取り出すには

解除レバーを「OPEN」側にスライドさせ、バッテリー／カードカバーを開けます。
メモリーカードを一度押し込んで指を静かにはなすとメモリーカードが押し出されるので、つまんで取り出します。

メモリーカード（市販）について

記録データは、カメラ本体に内蔵されているメモリーか、メモリーカード（市販）に記録されます。内蔵メモリーの容量は、約 88MB です。

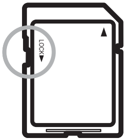
静止画・動画をたくさん撮りたい場合や、高画質で撮りたい場合には、容量の多いメモリーカードを使うと便利です。

注意

- メモリーカードがセットされているときは、メモリーカードの容量がいっぱいになっても、内蔵メモリーには記録されません。再生時のメモリーカードと内蔵メモリーの切り替えについては、P.36 をご覧ください。
- メモリーカードの金属端子部を汚さないようにしてください。

誤って記録データを消さないようにするには

メモリーカードの書き込み禁止スイッチを「LOCK」にしておくと、記録データの削除や初期化ができなくなります。大切なデータを記録したときには、「LOCK」にしておきましょう。



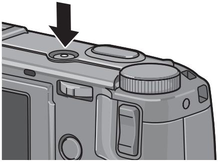
「LOCK」の状態にするとカードへの書き込みが禁止され、撮影ができなくなります。撮影時にはスイッチを元の位置に戻して「LOCK」を解除してください。

メモ

- 静止画の記録可能枚数や動画の記録時間は、メモリーカードの容量によって異なります（☞P.192）。
- 新しいメモリーカードを使用する場合は、本カメラで初期化してからお使いください（☞P.149）。
- 本カメラ以外で使用したメモリーカードを使用する場合は、必要なデータを保存の上、初期化してからお使いください（☞P.149）。

電源をオン／オフする

電源をオン／オフにするには、POWER（電源）ボタンを押します。



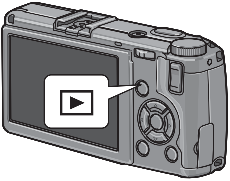
オンにすると POWER（電源）ボタンが点灯し、起動音が鳴ってオートフォーカス／フラッシュランプが数秒間点滅します。

オンの状態で POWER ボタンを押すと、その日の記録枚数が表示され、電源がオフになります。日時設定をしていない場合は、［0］と表示されます。日時設定を変更した場合は、設定変更後の記録枚数が表示されます。



再生モードで使うときには

- ▶（再生）ボタンを約 1 秒以上押し続けると、再生モードの状態で電源がオンになり、再生モードで使用できます。
- ▶ ボタンで電源をオンにした場合、もう一度 ▶ ボタンを押すと記録モードになり、撮影が可能になります。



注意 --

- フラッシュを使用する設定になっている場合は、電源をオンにしてから撮影可能状態になるまでの時間が、フラッシュを使用しない設定の場合よりも長くかかる場合があります。
- 以下の機能は、電源をオフにすると設定値が初期値に戻ります。それ以外の機能は、設定値が保持されます。

機能	初期値	参照
連写	OFF	P.80
インターバル撮影	0 秒	P.91
セルフタイマー	セルフ オフ	P.32

- マイセッティングモード（☞P.60）で撮影設定メニューやセットアップメニュー項目の設定を変更しても、電源をオフにするとマイセッティング登録時に設定した値に戻ります。

オートパワーオフについて --

- 一定時間カメラを操作しないと、節電のために自動的に電源がオフになります（オートパワーオフ）。
- オートパワーオフの設定時間は変更可能です（☞P.151）。

日時を合わせる

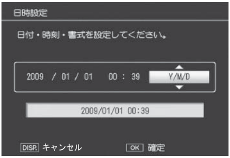
はじめて電源をオンにしたときは、日時の設定画面に進みます。

1 年・月・日・時・分・書式を設定する

- ▲▼ で数値を変更し、◀▶ で項目を移動します。
- DISP. ボタンで設定をキャンセルできます。



出荷時の設定



2 画面の表示を確認し、MENU/OK ボタンを押す

- 確認画面が表示されます。

3 MENU/OK ボタンを押す

- 日時が設定されます。

メモ --

- 電池を取り出してから約 1 週間経過すると、設定した日時がリセットされます。
- 日時を保持させるためには、充分に残量のある電池をカメラに 2 時間以上セットしてください。
- 設定した日時は変更できます（☞P.163）。
- 日時を入れて撮影できます（☞P.92）。

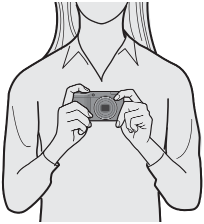
撮影する

準備ができたら、さっそく撮影してみましょう。

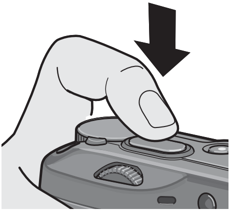
カメラの構えかた

カメラは以下のように正しく構えて撮影しましょう。

1 カメラを両手でしっかりと持ち、両ひじを軽く身体につける



2 シャッターボタンに指を当てる

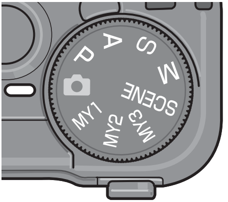


注意 --

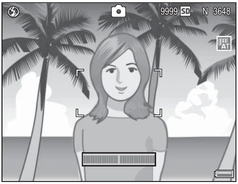
指や髪、ストラップなどがレンズやフラッシュ発光部にかからないように注意してください。

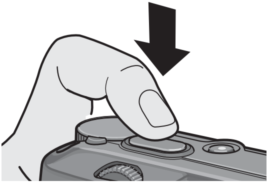
撮影する

1 電源をオンにして、モードダイヤルを 📷 に合わせる

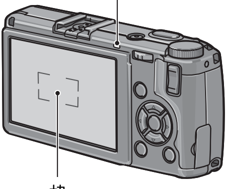


2 シャッターボタンを半押しする





- ピント合わせが行われ、露出が固定されます。
- ピントが合わない場合は、画像モニター中央部に赤い枠が点滅し、オートフォーカス／フラッシュランプが緑色に点滅します。
- 最大 9 点で測距し、ピントが合っている位置を緑の枠で表示します。



3 シャッターボタンをそのまま静かに押しきる

- 撮影した画像が画像モニターに表示され、内蔵メモリーまたはメモリーカードに保存されます。

シャッターボタンの半押しについて

シャッターボタンは、2 段階になっています。シャッターボタンを軽く押し、抵抗を感じたらそのまま指を止めます。これを「シャッターボタンを半押しする」といいます。

そのまま深く押しきるとシャッターが切れます。

ピント合わせについて

- ピント合わせの状態は、画像モニター中央の枠の色とオートフォーカス／フラッシュランプで確認できます。

ピント合わせの状態	枠の色	オートフォーカス／フラッシュランプ
ピント合わせ前	白	消灯
ピントが合った時	緑	緑点灯
ピントが合わなかったとき	赤（点滅）	緑点滅

- 以下のような被写体は、ピントを合わせられないことや、枠の色が緑になっていてもピントが合っていないことがあります。
  - コントラストのないもの（空、白壁、自動車のボンネットなど）
  - 横線だけで、凹凸のないもの
  - 動きの速いもの
  - 暗いところのもの
  - 強い逆光および反射光があるもの
  - 蛍光灯などのちらつきのあるもの
  - 光源が点状のもの（電球、スポットライト、点光源 LED など）

  このような被写体を撮影するときは、撮影したい被写体と同じ距離にある、違う被写体にピントを固定してから撮影してください（フォーカスロック ☞P.26）。

手ブレを防ぐには

- シャッターボタンを押したときにカメラが動いてしまうと、静止画が鮮明に撮れません（手ブレ）。手ブレを防ぐために、シャッターボタンを押すときは、静かに押してください。
- マークが表示された場合は、手ブレしやすい状態を表しています。カメラを固定するようにしっかりと構えて、再度ピント合わせを行ってください。また、以下の方法を試してください。
  - フラッシュを［AUTO］または［強制発光］にする（☞P.30）
  - ISO 感度を上げる（☞P.100）
  - セルフタイマーを使う（☞P.32）
- 以下のような場合には、手ブレが起きやすいので注意してください。
  - フラッシュを使わずに暗い場所で撮影する
  - デジタルズームを使って撮影する（☞P.28）

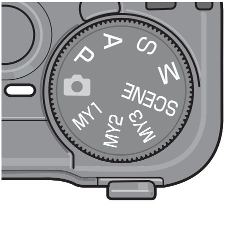
メモ

- フラッシュ発光時は、AE の精度を補助するため、予備発光します。
- 撮影後、画像モニターに画像が表示される時間を設定できます。また、次にシャッターボタンを半押しするまで画像を表示し続ける、撮影後は画像を表示しないなどの設定もできます（☞P.153）。
- オート撮影モードの場合、F11 相当の明るさまで露出制御されます（オート撮影モードの場合のみ、F8.0 ～ F11 表示のときは、絞りと内蔵 ND フィルターを併用して露出制御されます）。

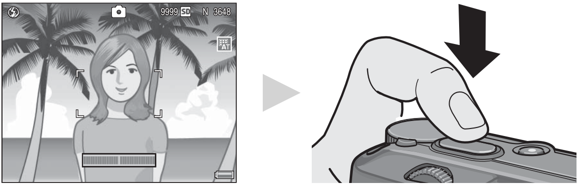
被写体にピントを合わせた状態で構図を変えるには

オートフォーカスで適切なピント合わせができない場合や、被写体が構図の中央にない場合には、シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせた後に構図を決めて撮影します（フォーカスロック）。

1 電源をオンにして、モードダイヤルを 📷 に合わせる

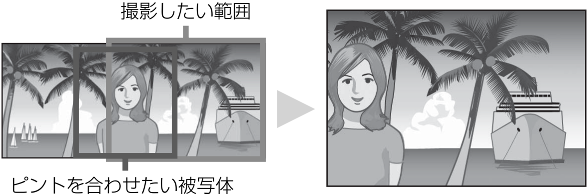


2 画像モニターの中央に被写体をあわせ、シャッターボタンを半押しする



ピント合わせが行われ、露出が固定されます。

3 半押しのままカメラを動かして構図を決める



4 シャッターボタンをそのまま静かに押しきる

- 撮影した画像が画像モニターに表示され、内蔵メモリーまたはメモリーカードに保存されます。

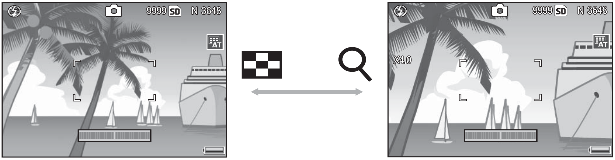
注意 --

フォーカスロック時には被写体との距離を変更しないでください。フォーカスロック後、被写体との距離が変更された場合は、一度シャッターボタンを離してフォーカスロックを解除し、再度半押しをしてフォーカスロックをしてください。

デジタルズームを使って撮影する

セットアップメニューで［ズームボタン設定］を［デジタルズーム］に設定すると（☞P.146）、Q/▦ ボタンでデジタルズームが使用できます。

Q（拡大表示）ボタンを押すと、範囲を狭めて被写体を大きく撮影できます（最大 4.0 倍まで）。▦（サムネイル表示）ボタンを押すと、被写体を小さくして広い範囲を撮影できます。

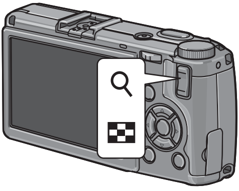


1 セットアップメニューで［ズームボタン設定］を［デジタルズーム］に設定する

- 操作方法は P.146 を参照してください。

2 撮影できる状態で、Q ボタンや ▦ ボタンを押す

- 画像モニターにデジタルズームの倍率が表示されます。



3 構図を決めてシャッターボタンを半押しする

4 シャッターボタンを押しきる

メモ --

- ［画質・サイズ］を［F3648(10M)］または［N3648(10M)］に設定している場合は、［デジタルズーム切替］で［オートリサイズ］を選択することもできます（☞P.160）。
- ［画質・サイズ］が RAW モードの場合（☞P.66）やダイナミックレンジダブルショット（☞P.52）の場合は、デジタルズームは使用できません。

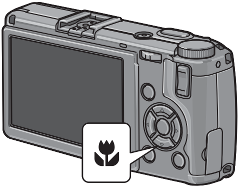
接写で撮影する（マクロ撮影）

（マクロ）ボタンを使うと、レンズを被写体に接近させて撮影できます。

レンズ先端より最短約 1cm（撮影範囲：約 26 × 19mm）まで近づけることができるので、小さな被写体の撮影に便利です。

1 撮影できる状態で、ボタンを押す

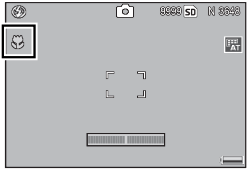
- 画像モニター中央に一瞬が大きく表示された後、上部にが表示されます。



2 構図を決めてシャッターボタンを半押しする

3 シャッターボタンを押しきる

- マクロモードを解除するには、もう一度ボタンを押します。



メモ --

マクロモードでは、[フォーカス]（☞P.67）が［マルチ AF］／［スナップ］／［∞］に設定されている場合でも、[スポット AF］として動作します。

フラッシュを使って撮影する

フラッシュを使うときは、⚡OPEN（フラッシュオープン）スイッチを下側にスライドさせて、フラッシュカバーを上げます（ポップアップ）。ポップアップしないと、フラッシュは発光しません。

ポップアップした状態で、⚡（フラッシュ）ボタンを押すと、フラッシュモードを切り替えられます。ご購入時の初期設定は［AUTO］です。

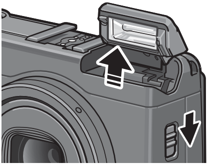
メモ --

ISO 感度が［AUTO］の場合、フラッシュの光が届く範囲はレンズ先端より約 20cm 〜 3.0m です。

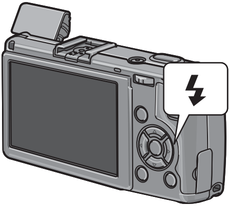
フラッシュモードの種類

	発光禁止	フラッシュを発光しません。
	AUTO	逆光や被写体が暗いときには、自動的にフラッシュを発光します。
	赤目軽減	人物の目が赤く写る赤目現象を軽減します。
	強制発光	必ずフラッシュを発光します。
	スローシンクロ	シャッタースピードを遅くして発光します。人物を入れた夜景の撮影に適します。手ブレしやすいので、三脚の使用をお勧めします。
	マニュアル発光	フラッシュの発光量を撮影設定メニューの［フラッシュマニュアル発光量］で設定できます（☞P.88）。

1 撮影できる状態で、⚡OPEN スイッチを下側にスライドして、フラッシュをポップアップする



2 ⚡ボタンを押して、フラッシュモードを切り替える



- 画像モニター中央に、一瞬フラッシュモードマークが大きく表示された後、左上にフラッシュモードマークが表示されます。
- フラッシュ充電中は、オートフォーカス／フラッシュランプが点滅します。充電が完了すると消灯し、撮影が可能になります。

メモ

- フラッシュを使用しない場合は、フラッシュカバーを閉じます。
- ⚡ボタンで設定を変更するまで、フラッシュモードの設定内容は保持されます。
- 動画、連写、オートブラケット、ホワイトバランスブラケット、カラーブラケット、ダイナミックレンジダブルショットでは発光禁止になります。
- 単四形アルカリ乾電池、ニッケル水素電池をお使いの場合、フラッシュ充電中は画像モニターがオフになります。
- フラッシュ発光時は、AE の精度を補助するため、予備発光します。

注意

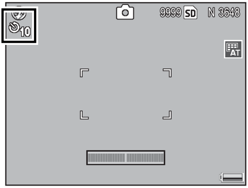
- 外部フラッシュをご使用の場合は（☞P.198）、カメラの内蔵フラッシュを使用できません。
- コンバージョンレンズおよびフードをご使用の場合は、カメラの内蔵フラッシュを使用できません。
- フラッシュモードが［マニュアル発光］の場合、発光量は自動的に調整されません。
- 目の近くでフラッシュを発光したり（特に乳幼児）、運転者などに向かってフラッシュを発光したりしないでください。

セルフタイマーを使う

セルフタイマーは、10 秒後、2 秒後から選択できます。手ブレを防ぎたいときには 2 秒に設定すると便利です。

1 撮影できる状態で、（セルフタイマー）ボタンを押す

- セルフタイマーのマークが表示されます。
- マークの右側にある数字は、シャッターボタンを押してから撮影するまでの秒数を表しています。



- ボタンを押すと、［10 秒］→［2 秒］→［セルフ オフ］の順に設定が切り替わります。

2 シャッターボタンを押しきる

- ピントが固定され、セルフタイマーがスタートすると AF 補助光が発光します。

メモ --

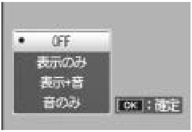
- 撮影した後もセルフタイマーは解除されません。セルフタイマーを解除するには、ボタンで［セルフ オフ］に切り替えます。
- ［2 秒］の場合は AF 補助光は発光しません。
- ボタンは Fn（ファンクション）2 ボタンとしても使用します。Fn1 ボタン設定または Fn2 ボタン設定（☞P.143）でセルフタイマー以外を登録している場合、セルフタイマーは使用できません。

水平のとれた画像を撮影する

撮影する画像が水平かどうかを水平インジケーターや水準器音で確認しながら撮影できます。

風景や建物など、水平のとれた画像を撮影したい場合に使用します。地平線の入った構図などで特に有効です。

設定項目	内容
OFF	水平インジケーターは表示されません。
表示のみ	水平インジケーターが表示されます。
表示+音	水平インジケーターが表示され、カメラが水平のときに、水準器音が一定間隔で鳴り続けます。
音のみ	カメラが水平のときに、水準器音が一定間隔で鳴り続けます。水平インジケーターは表示されません。

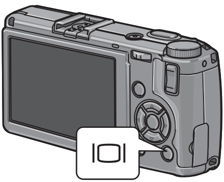


1 撮影できる状態で、DISP. ボタンを長押しする

- 約 2 秒でメニューが表示されます。

2 ▲▼ ボタンで設定を選択する

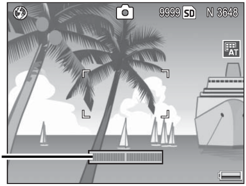
3 MENU/OK ボタンを押す

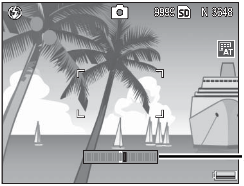


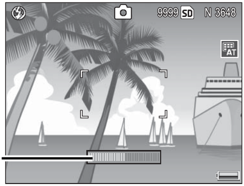
メモ

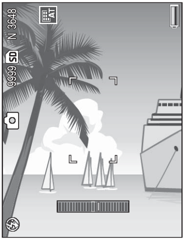
- 水平インジケーターは、マーク表示とヒストグラム表示のときに表示されます（☞P.42）。
- カメラを左右に傾けすぎている場合は、水平インジケーターの目盛りが赤くなり、カメラの傾きと反対側の端を指します。
- カメラを縦にしている場合も、水平になっているかどうかを水準器で確認できます。
- 水平インジケーターは、セットアップメニュー（☞P.155）からも設定できます。
- ［操作音音量設定］（☞P.152）を［□□□］（なし）に設定している場合、［水準器設定］を［表示+音］または［音のみ］に設定しても、水準器音は鳴りません。

水平インジケーターの表示

緑色

水平の場合


オレンジ
右に傾いている場合

赤色

水平かどうか検知できなかった場合


カメラを縦にしている場合

注意 --

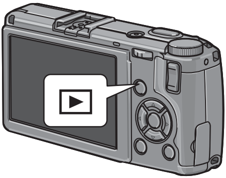
- カメラを前後方向に傾けすぎている場合、またはカメラが水平かどうか検知できなかった場合は、水平インジケーターが赤くなります。
- グリッドガイド表示、表示なし、画像モニターオフのときは（☞P.42）、水平インジケーターは表示されません。［水準器設定］を［表示＋音］に設定している場合は、水準器音のみ鳴ります。
- カメラを上下逆さま（シャッターボタンが下向きになっている）にしている場合や、動画記録中、インターバル撮影中は、水準器は動作しません。
- 乗り物の中などのゆれている場所にいる場合や、カメラがゆれている場合は、水準器の精度が低くなります。
- この機能は、本カメラで撮影する画像が水平かどうかを確認するための目安としてご使用ください。カメラ自体を水準器として使用した場合の精度は保証できません。

再生する

撮影した静止画を確認しましょう。一度に表示する枚数を変えたり、拡大表示もできます。

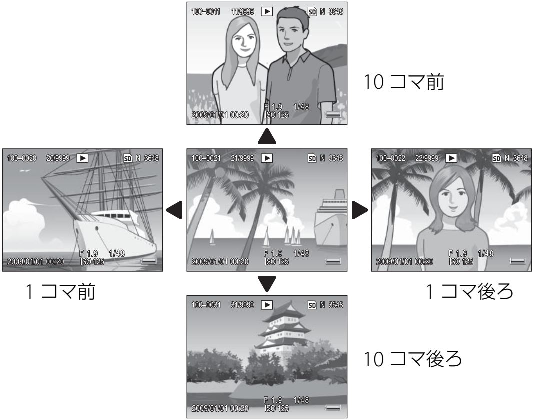
撮影した静止画を見る

撮影モードで ▶（再生）ボタンを押すと、再生モードに切り替わり、最後に表示した静止画が表示されます。



電源がオフの状態で ▶ ボタンを約 1 秒以上押し続けると、再生モードの状態で起動し、最後に再生した静止画が表示されます。

▲▼◀▶ ボタンを押すと、以下の順番でファイルが表示されます。
◀▶ ボタンを長押しすると、高速でファイルが切り替わります。



再生モードから撮影モードに戻るには、再度 ▶ ボタンを押します。

再生モードで再生される画像

以下の場合は最後に撮影された画像が表示されます。

- 撮影した後に再生モードにした場合
- メモリーカードを交換した場合

注意 --

［画質・サイズ］を RAW モードに設定して撮影した場合（☞P.66）、DNG ファイルと関連付けられた JPEG ファイルが同時に記録されます。JPEG ファイルをパソコンなどで削除してしまった場合、カメラでは DNG ファイルのサムネイルは表示されますが、拡大できません。

メモ --

［画質・サイズ］を RAW モードに設定して撮影した画像（RAW3648/RAW3:2/RAW1:1）を再生すると、同時記録された JPEG ファイルが表示されます。画面には、RAW モードを示すマークが表示されます。

撮影モードでの画像確認について --

撮影モードでは、静止画を撮影した直後に、確認のために撮影した画像が表示されます。確認時間はセットアップメニューの［画像確認時間］で変更することができます（☞P.153）。

再生元について --

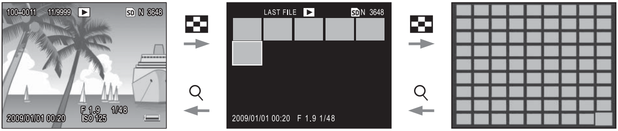
メモリーカードをセットしていない場合は内蔵メモリーの画像を、セットしている場合はメモリーカードの画像を再生します。

縦横自動回転再生について --

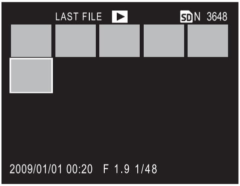
セットアップメニューの［縦横自動回転再生］を［ON］に設定している場合（☞P.154）、カメラの向きに応じて画像が自動回転されます。

一覧表示する

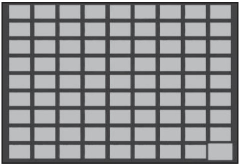
再生画面は 20 枚または 81 枚の一覧表示にできます。



再生モードで ⊞（サムネイル表示）ボタンを押すと、20 コマ表示に変わります。



20 コマ表示時に再度 ⊞ ボタンを押すと、画面が 81 コマ表示に変わります。



一覧表示では、▲▼◀▶ ボタンで静止画を選択できます。

1 枚表示にするには

- 20 コマ表示の場合：🔍（拡大表示）ボタン、または ADJ. レバーを押します。
- 81 コマ表示の場合：🔍 ボタンを 2 回、または ADJ. レバーを押します。

静止画を拡大表示する

Q（拡大表示）ボタンを押す、またはアップダウンダイヤルを回すと、表示している静止画を拡大表示できます。また、ADJ. レバーを押すと［ワンプッシュ拡大表示倍率］（☞P.153）で設定した倍率に拡大して表示します。

拡大表示で表示できる最大倍率は、選択している画像サイズ（☞P.65）によって異なります。

画像サイズ	拡大表示 (最大倍率)
3648 × 2736 ～ 2048 × 1536	16 倍
1280 × 960	6.7 倍
640 × 480	3.4 倍

画像拡大時の動作	
Q ボタン /⊞ ボタン	画像を 1 段階拡大 / 縮小します。▲▼◀▶ ボタンで画面内の表示箇所を移動できます。
MENU/OK ボタン	静止画をセットアップメニューの［ワンプッシュ拡大表示倍率］で設定した倍率で拡大して表示します。最大倍率で表示されているときは、1 枚表示に戻します。
アップダウンダイヤル	右に回すと拡大、左に回すと縮小します。
ADJ. レバー	ADJ. レバーをたおすと、拡大表示したまま前／次の画像が表示されます。

メモ --

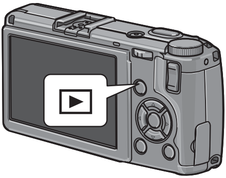
- 拡大表示した状態で ADJ. レバーを左右にたおしても、動画、S 連写、M 連写を表示すると等倍に戻ります。
- セットアップメニューの［再生モードダイヤル設定］を［設定 2］に設定すると（☞P.147）、画像拡大時に ADJ. レバーとアップダウンダイヤルで画面内の表示箇所を移動できます。



削除する

不要なファイルを、メモリーカードまたは内蔵メモリー内から削除できます。

1 ファイルを削除する



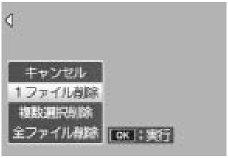
1 ▶（再生）ボタンを押す

2 ◀▶ ボタンで削除したいファイルを表示する

3 🗑（削除）ボタンを押す

4 ▲▼ ボタンで［1 ファイル削除］を選択する

- ◀▶ ボタンで削除するファイルを変更できます。



5 MENU/OK ボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、削除が完了すると、手順 4 の画面に戻ります。

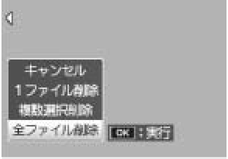
すべてのファイルを削除する

1 ▶（再生）ボタンを押して 🗑 ボタンを押す

2 ▲▼ ボタンで［全ファイル削除］を選択する

3 MENU/OK ボタンを押す

- 削除の確認画面が表示されたら、▶ ボタンで［はい］を選択し、MENU/OK ボタンを押します。

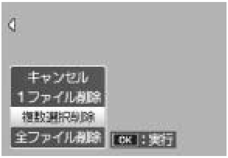


複数のファイルを一度に削除する

複数のファイルを一度に削除できます。削除するファイルを 1 つずつ指定する方法と、削除するファイルの範囲を指定する方法があります。

いずれの場合も、再生モードで 🗑（削除）ボタンを押して、メニュー項目を表示してください。

途中で DISP. ボタンを押すとキャンセルできます。



削除するファイルを 1 つずつ指定する場合

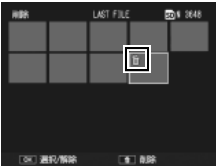
1 ▲▼ ボタンで［複数選択削除］を選んで MENU/OK ボタンを押す

- 一覧表示にしている場合は、この手順は不要です。

2 ▲▼ ボタンで［1 枚ずつ指定］を選んで MENU/OK ボタンを押す

3 ▲▼◀▶ ボタンで削除したいファイルを選択し、MENU/OK ボタンを押す

- ファイルの左上にゴミ箱のマークが表示されます。
- 間違えて選択したときには、再度 MENU/OK ボタンを押すと解除できます。



- ADJ. レバーを押すと、範囲を指定する画面に切り替わります。

4 🗑 ボタンを押す

5 ◀▶ ボタンで［はい］を選択し、MENU/OK ボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、削除が完了すると、一覧の画面に戻ります。



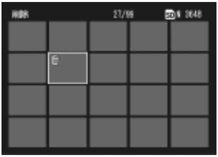
削除する範囲を指定する場合

1 ▲▼ ボタンで［複数選択削除］を選んで MENU/OK ボタンを押す

- 一覧表示にしている場合は、この手順は不要です。

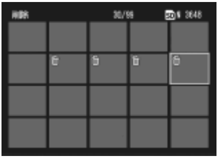
2 ▲▼ ボタンで［範囲を指定］を選んで MENU/OK ボタンを押す

3 ▲▼◀▶ ボタンで削除したい範囲の始点になるファイルを選択し、MENU/OK ボタンを押す



- ファイルの左上にゴミ箱のマークが表示されます。
- 始点になるファイルの選択を間違えた場合、DISP. ボタンを押すと始点を選択する画面に戻ります。
- ADJ. レバーを押すと、1 枚ずつ指定する画面に切り替わります。

4 ▲▼◀▶ ボタンで削除したい範囲の終点になるファイルを選択し MENU/OK ボタンを押す



- ファイルの左上にゴミ箱のマークが表示されます。

5 手順 3 と 4 を繰り返して、削除したいファイルの範囲をすべて指定する

- 間違えて選択したときは、ADJ. レバーを押して 1 ファイルずつ指定する画面に戻り、ファイルを選択して MENU/OK ボタンを押すと解除できます。

6 🗑 ボタンを押す

7 ◀▶ ボタンで［はい］を選択し、MENU/OK ボタンを押す

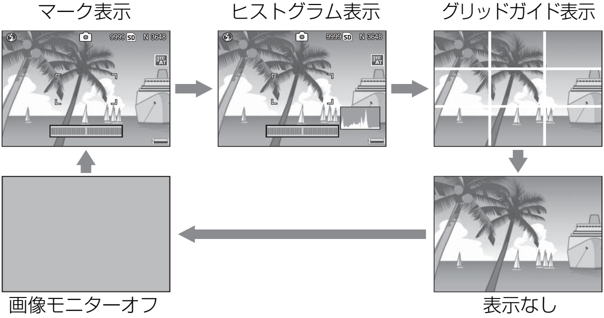
- 処理中のメッセージが表示され、削除が完了すると、一覧の画面に戻ります。

DISP. ボタンで画面表示を切り替える

DISP. ボタンを押すと、マークの表示／非表示を切り替えるなど、画面の表示状態を変更できます。

撮影モード時

DISP. ボタンを 1 回押すごとに以下のように切り替わります。



グリッドガイド表示 --

- 画像モニターに、撮影時の補助線を表示します。実際の画像には記録されません。
- グリッドの種類はセットアップメニューの［グリッドガイド表示設定］で選べます（☞P.155）。

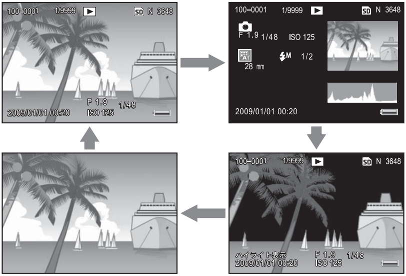
メモ --

- ［水準器設定］を［表示のみ］または［表示＋音］に設定している場合は（☞P.155）、マーク表示とヒストグラム表示のときに水平インジケーターが表示されます（☞P.34）。
- 画像モニターオフ時でも、以下の操作をした場合は画像モニターがオンになります。
  - ADJ. レバー、MENU/OK ボタン、DISP. ボタン、▶（再生）ボタンを押した場合
  - ［ズームボタン設定］が［OFF］以外（☞P.146）で Q/▦ ボタンを押した場合
  - マニュアルフォーカス中（☞P.67）に ▲▼ ボタンを押した場合

再生モード時

DISP. ボタンを 1 回押すごとに以下のように切り替わります。

マーク表示　　ヒストグラムと詳細情報表示



表示なし　　ハイライト表示

ハイライト表示

ハイライト部分が黒く点滅します。ハイライトとは、被写体の特に明るい部分が真っ白に写り、色の濃淡を表す階調がなくなる状態です。階調がなくなると、撮影後に画像の修正ができません。直射日光を避ける、露出を－側に補正する（☞P.93）などして、撮り直すことをお勧めします。

メモ

ハイライト表示は、あくまでも目安です。

ヒストグラム表示

ヒストグラムは、明るさの分布を示したグラフです。縦軸は画素数、横軸は左からシャドー（暗い）、中間調、ハイライト（明るい）という明るさの階調を示しています。ヒストグラムを活用することによって、まわりの明るさによる画像モニターの見えかたに影響されることなく、画像の明るさを判断できます。また、画像の白飛びや黒つぶれを防ぐ助けになります。

ヒストグラムで、右側だけにグラフの山が盛り上がり、ほかには何もない場合、ハイライト部だけの画素数が多い露出オーバーの画像です。左側だけにグラフの山がある場合、シャドー部だけの画素数が多い露出がアンダーの画像ということになります。露出補正（☞P.93）時の参考にお使いください。



露出オーバーの例



露出アンダーの例

メモ

- ヒストグラム表示はあくまでも目安です。
- 撮影後に、ヒストグラムを確認しながら画像の明度、コントラストを補正できます（☞P.119）。
- フラッシュを使用したときや、周囲が暗いときなど、撮影の状況によってはヒストグラムに表示された露出と撮影した画像が異なることがあります。
- 露出補正の範囲には限りがあります。そのため、調整しきれないことがあります。

応用編

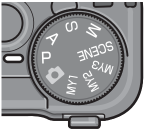
目的に応じて必要なときにお読みください

絞り値とシャッタースピードの組み合わせを変更して撮影する（P：プログラムシフトモード）

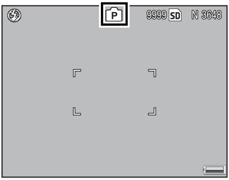
モードダイヤルをP（プログラムシフトモード）に合わせると、絞り値とシャッタースピードの組み合わせを変更して撮影できます。

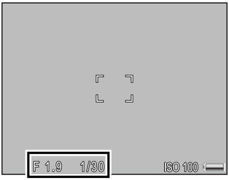
プログラムシフトモードでの設定は､アップダウンダイヤルを使います。

1 モードダイヤルをPに合わせる



- 画像モニターにモードのマークが表示されます。



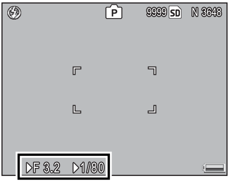


2 シャッターボタンを半押しする

- 画面に現在の絞り値とシャッタースピードの組み合わせが表示されます。

3 シャッターボタンから指を離す

4 アップダウンダイヤルを回して、絞り値とシャッタースピードの組み合わせを変更する



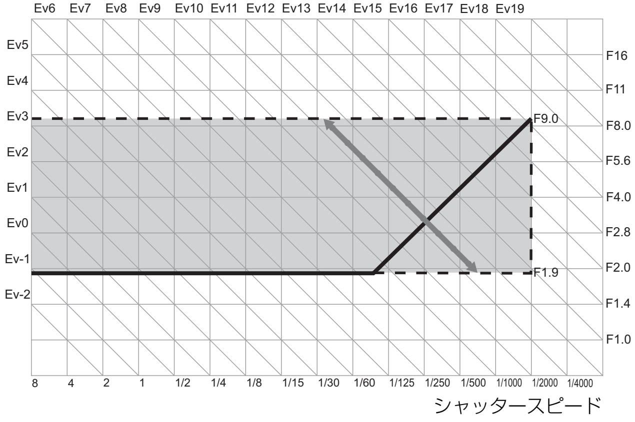
- 絞り値とシャッタースピードの組み合わせは、10秒間表示されます。その間にアップダウンダイヤルで値を変更します。

5 シャッターボタンを押して撮影する

メモ --

プログラム線図は以下のとおりです。

- フラッシュを［発光禁止］、ISO 感度を［ISO100］に設定した場合の例です。
- グレーの部分はシフト可能な範囲の目安です。Ev（露出値）によって変化します。

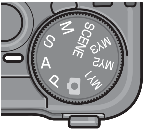


絞り値を設定して撮影する（A：絞り優先モード）

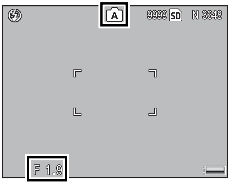
モードダイヤルを A（絞り優先モード）に合わせると、絞り値を手動で設定できます。絞り値を設定すると、カメラが自動的に適正なシャッタースピードを設定して撮影します。

絞り値の設定は、アップダウンダイヤルを使います。

1 モードダイヤルを A に合わせる



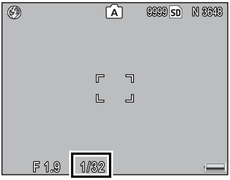
- 画像モニターにモードのマークが表示され、現在の絞り値がオレンジ色で表示されます。



2 アップダウンダイヤルを回して、絞り値を変更する

3 シャッターボタンを半押しする

- シャッタースピードが決定され、画面に表示されます。



4 シャッターボタンをそのまま静かに押しきる

絞り値について

絞り値を小さくする（絞りを開く）と、背景をぼかして被写体をハッキリ強調させることができます。絞り値を大きくする（絞りを閉じる）と、手前から奥までクッキリと写した奥行きのある画像が撮影できます。絞り動作は、シャッターボタンを押しきったときに行われます。

メモ

撮影設定メニューの［絞り自動シフト］を［ON］にすると（☞P.102）、カメラが自動的に適正露出が得られるように絞り値を調整します。

シャッタースピードを優先して撮影する（S：シャッタースピード優先モード）

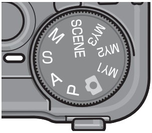
モードダイヤルを S（シャッタースピード優先モード）に合わせると、シャッタースピードを手動で設定できます。シャッタースピードを設定すると、カメラが自動的に適正な絞り値を設定して撮影します。

シャッタースピードについて---

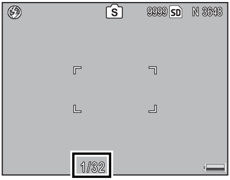
シャッタースピードを速くすると、動きの速い被写体が、一瞬止まったように撮影できます。シャッタースピードを遅くすると、動きを流れるように表現でき、動く被写体の軌跡を撮影できます。

シャッタースピードの設定は、アップダウンダイヤルを使います。

1 モードダイヤルを S に合わせる



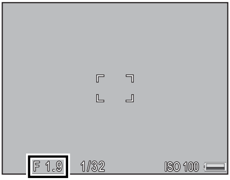
- 画像モニターにモードのマークが表示され、現在のシャッタースピードがオレンジ色で表示されます。



2 アップダウンダイヤルを回して、シャッタースピードを変更する

3 シャッターボタンを半押しする

- 絞り値が決定され、画面に表示されます。



4 シャッターボタンをそのまま静かに押しきる

メモ---

シャッタースピードを長時間に設定しているときは、被写体が暗くても、設定によっては絞り値が最小（開放 F 値）にならない場合があります。

絞り値とシャッタースピードを設定して撮影する（M：マニュアル露光モード）

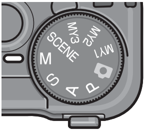
モードダイヤルを M（マニュアル露光モード）に合わせると、絞り値とシャッタースピードを手動で設定して撮影できます。シャッタースピードは、1/2000 ～ 180 の間から選択できます。

メモ --

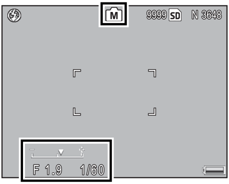
絞り値によって、設定できないシャッタースピードもあります。

絞り値の設定にはアップダウンダイヤルを、シャッタースピードの設定には ADJ. レバーを使います。

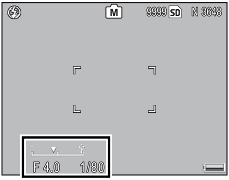
1 モードダイヤルを M に合わせる



- 画像モニターにモードのマークが表示され、現在の絞り値、シャッタースピード、露出値のインジケーターが表示されます。

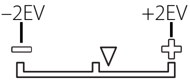


2 露出値のインジケーターを確認しながら、アップダウンダイヤルで絞り値を、ADJ. レバーでシャッタースピードを変更する



- セットアップメニューの［M モード ダイヤル設定］で（☞P.147）でアップダウンダイヤルと ADJ. レバーの機能を入れ替えられます。機能を入れ替えた場合、アップダウンダイヤルでシャッタースピード、ADJ. レバーで絞り値を変更します。
- インジケーターが中央にある場合は適正露出です。
- インジケーターが＋側にある場合は露出オーバー、－側にある場合は露出アンダーであることを表しています。

- 露出値が –2EV から +2EV の範囲にあるときは、露出値に応じて画像モニターが変化します。



- 露出値が –2EV から +2EV の範囲を超えると、インジケーターがオレンジ色になり、画像モニターは変化しません。

3 シャッターボタンを半押しする

4 シャッターボタンをそのまま静かに押しきる

メモ

- 露光時間を長くしたいときは、シャッタースピードを遅く設定します。その場合、手ブレを起こすことがあります。カメラを両手でしっかり固定させるか、三脚などを使用して撮影してください。
- シャッタースピードを遅く設定して撮影した場合、撮影中は画像モニターがオフになります。
- マニュアル露光モードで ISO 感度を［AUTO］または［AUTO-HI］に設定した場合、ISO100 に固定されます（☞P.100）。
- セットアップメニューの[M モードワンプッシュ動作]の設定により、絞り値やシャッタースピードを自動的に適正値付近に近付けられます（☞P.148）。
- セットアップメニューの［ズームボタン設定］を［露出補正］に設定している場合（☞P.146）、マニュアル露光モードで Q/▦ ボタンを押しても、露出補正の設定画面は表示されず、適正露出付近（露出値インジケーターの中央部付近）に近づけるよう自動的に値を設定します。適正露出付近から露出値を変更したい場合などに便利です。
- セットアップメニューの［Fn1 ボタン設定］または［Fn2 ボタン設定］で Fn（ファンクション）1 または Fn2 ボタンに［AE ロック］を登録しても、マニュアル露光モードでは AE ロックされません。Fn1 または Fn2 ボタンを押すと、適正露出付近（露出値インジケーターの中央部付近）に近づけるよう自動的に値を設定します。適正露出付近から露出値を変更したい場合などに便利です。

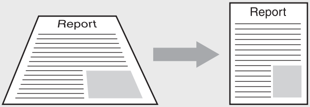
注意

シャッタースピードを 10 秒以上に設定した場合、画像のノイズを除去する機能が働きます。そのため、画像の記録完了までに、設定したシャッタースピードの約 2 倍の時間がかかります。

撮影シーンに合わせて撮影する（SCENE：シーンモード）

モードダイヤルを SCENE に合わせると、以下のモードを選択でき、自動的にシーンに適した設定で撮影できます。

シーンモードで選択できる項目は以下の通りです。

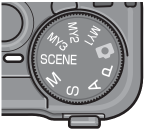
DR ダイナミックレンジ	明暗差の大きい日向と日陰を同時に撮影する場合などでも、明るい部分から暗い部分までなめらかに再現し、人の目で見た印象と近い画像が記録できます (☞P.54)。ご使用の際は必ず三脚を使用してください。動きのある被写体は、鮮明に撮影できません。
斜め補正	掲示板や名刺などの四角い被写体を斜め方向から撮影した場合に、撮影した画像を正面から撮影したように補正して変換します (☞P.58)。
文字	会議でホワイトボードに書かれたメモを撮影するときなどに使用します。白黒で記録され、文字の濃淡も変更できます (☞P.59)。
動画	音声付き動画を撮影します (☞P.103)。

メモ

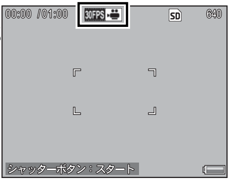
シーンモード時の撮影設定メニュー項目については、P.63 を参照してください。

シーンモードの選択方法

1 モードダイヤルを SCENE に合わせる



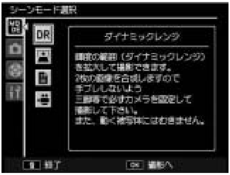
- 撮影できる状態になり、選択されているシーンモードの種類が画像モニター上部に表示されます。



2 MENU/OK ボタンを押す

- シーンモード選択画面が表示されます。

3 ▲▼ ボタンでシーンモードを選択する

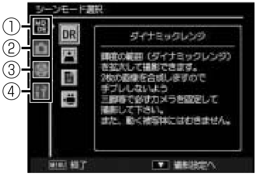


4 MENU/OK ボタンを押す

- 画像モニター上部にシーンモードの種類が表示されます。

シーンモードでのメニューの切り替えについて ---------------------

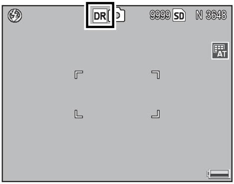
シーンモードで撮影設定メニューやセットアップメニューの設定項目を変更したい場合は、撮影モードで MENU/OK ボタンを押し、◀ ボタンで［MODE］タブを選択してください。その後 ▼ ボタンを 1 回押すと撮影設定メニュータブ、2 回押すとキーカスタム設定タブ、3 回押すとセットアップタブが表示されます。各項目の設定方法は P.61、P.133、P.134 を参照してください。

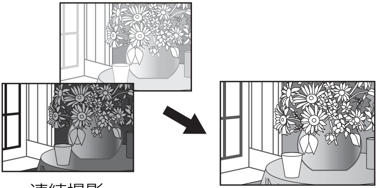


① [MODE] タブ
② 撮影設定メニュータブ
③ キーカスタム設定タブ
④ セットアップタブ

ダイナミックレンジダブルショットとは

ダイナミックレンジダブルショットモードでは、露出を変化させて 2 枚の静止画を連続撮影し、それぞれの適正露出部分を合成して記録します。明暗差の大きい日向と日陰を撮影する場合など、明るい部分が白とびして、撮影した画像が実際の印象と異なってしまう場合に便利です。





連続撮影　　合成して保存

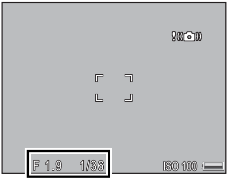
メモ --

ダイナミックレンジダブルショットでは、他のモード時と比べて撮影時間が長くなるので、必ず三脚を使用してください。 マークは常に表示されます。

1 カメラを三脚に固定する

2 シャッターボタンを半押しする

- ピント合わせが行われ、露出、ホワイトバランスが固定されます。



3 シャッターボタンをそのまま静かに押しきる

- 2 枚連続で撮影され、合成された画像のみが保存されます。



メモ

三脚に固定しても、シャッターボタンを押したときにカメラが動いてしまうことがあります。このような場合、セルフタイマー（☞P.32）やケーブルスイッチ CA-1（別売り品）のご使用をお勧めします。

注意

- ［画質・サイズ］（☞P.65）で RAW モードは選択できません。
- デジタルズームは無効となります。
- フラッシュは発光禁止になります。
- 撮影場所が明るすぎたり暗すぎたりする場合、ダイナミックレンジダブルショットの効果が出ない場合があります。
- 動きのある被写体は、鮮明に撮影できません。
- 蛍光灯の下で撮影する場合、ちらつき（フリッカー）により、色や明るさが正しく記録できない場合があります。

ダイナミックレンジとは

デジタルカメラの「ダイナミックレンジ」とは、カメラが処理できる輝度の範囲を指します。

明暗差の大きい日向と日陰を同時に撮影する場合などは、明るい部分が白とびしてしまい、撮影した画像が実際の印象と異なってしまう場合があります。これは、カメラが処理できる輝度の範囲が、人の目よりも狭いためです。

ダイナミックレンジダブルショットでは、明るい部分から暗い部分までなめらかに再現し、人の目で見た印象と近い画像が記録できます。

ダイナミックレンジ拡大効果

ダイナミックレンジダブルショットの拡大効果を選択できます。拡大効果を強くするほど、カメラが処理できる輝度の範囲が広がります。

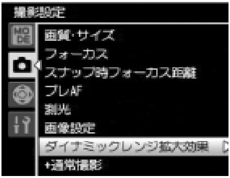
1 シーンモードのダイナミックレンジダブルショットモードでMENU/OK ボタンを押す

2 ◀ ボタンで［MODE］タブを選択し、▼ ボタンで撮影設定メニューを表示して ▶ ボタンを押す

- 撮影設定メニューが表示されます。

3 ▲▼ ボタンで［ダイナミックレンジ拡大効果］を選択し、▶ ボタンを押す

- 設定項目が表示されます。



4 ▲▼ ボタンで設定を選択し、MENU/OK ボタンを押す、または ◀ ボタンを押して MENU/OK ボタンを押す



通常撮影画像の付加

ダイナミックレンジを拡大した画像に加え、通常撮影での画像を付加し、合計 2 枚の画像を記録します。

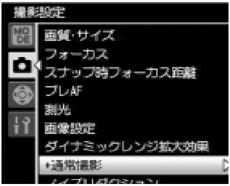


ダイナミックレンジ拡大画像　　通常撮影での画像

1 シーンモードのダイナミックレンジダブルショットモードでMENU/OK ボタンを押す

2 ◀ ボタンで［MODE］タブを選択し、▼ ボタンで撮影設定メニューを表示して ▶ ボタンを押す

- 撮影設定メニューが表示されます。

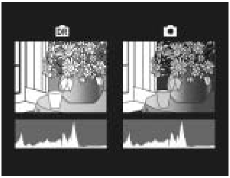


3 ▲▼ ボタンで［＋通常撮影］を選択し、▶ ボタンを押す

4 ［ON］を選択し、MENU/OK ボタンを押す

5 シャッターボタンを押して撮影する

- 通常画像とダイナミックレンジ拡大画像を並べた、確認画面が表示されます。



メモ --

手順 5 の確認画面では、両画像のヒストグラムが表示されます。［画像確認時間］を［HOLD］に設定すると（☞P.153）、確認画面を保持してヒストグラムを確認できるので、画像を比較しやすくなります。

斜め補正モードを使うには

1 シーンモードの斜め補正モードでシャッターボタンを押して撮影する

- 処理中のメッセージが表示されます。補正対象として最大 5 つのエリアが認識され、オレンジの枠で表示されます。
- エリアが検出できなかった場合は、エラーメッセージが表示されます。

2 補正エリアを ▶ ボタンで選択する

- オレンジの枠を移動して、補正エリアを選択します。
- 変換をキャンセルする場合は、▲ ボタンを押します。

3 MENU/OK ボタンを押す

- 選択した枠のエリアの斜め補正が行われ、枠外の部分はトリミングされます。

注意 --

［斜め補正］に設定した場合は、以下の点にご注意ください。

- 被写体全体が画像モニターの表示になるべく大きく入るような構図で撮影してください。
- 以下のようなときには被写体を認識できないことがあります。
  - ピンボケの画像
  - 被写体の 4 辺がはっきり見えない
  - 被写体と背景の区別がつきにくい
  - 背景が複雑な構図
- 斜め補正された画像は、別画像として記録されます。記録可能枚数が 2 枚未満の場合には、撮影できません。

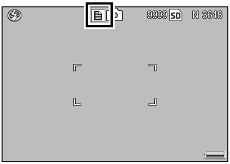
メモ --

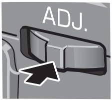
撮影済みの静止画を斜め補正することもできます（☞P.117）。

文字モードで文字濃度を変えるには

1 シーンモードの文字モードで ADJ. レバーを押す

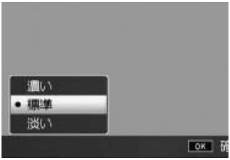
- 文字濃度のメニューが表示されます。





2 ▲▼ ボタンで濃度を選択する

- 濃淡は［濃い］、［標準］、［淡い］から選択できます。



3 ADJ. レバーまたは MENU/OK ボタンを押す

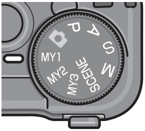
- 文字濃度の設定値は画面上には表示されません。

メモ --

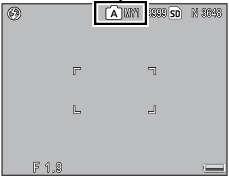
設定の変更は、撮影設定メニューからも行えます（☞P.64）。

自分好みの設定で撮影する（MY1 ～ MY3：マイセッティングモード）

モードダイヤルを MY1 ～ MY3 に合わせると、あらかじめ登録した設定で撮影できます。MY1、MY2、MY3 の設定は、セットアップメニューのキーカスタム設定タブにある［マイセッティング登録］で登録します（☞P.135）。



［マイセッティング登録］で登録した撮影モードのマーク



MY1、MY2、MY3 は、それぞれ［マイセッティング登録］の［MY1］、［MY2］、［MY3］の設定になります。

メモ --

マイセッティングモード時に、撮影設定メニューやセットアップメニュー項目の設定を変更することができます。モードを切り替えるか電源をオフにすると、もとの MY1 ～ MY3 の設定に戻ります。

マイセッティングモード時の撮影モード切り替え ------------------

撮影設定メニューの［撮影モード切替］（☞P.102）でモードダイヤルを回さずに撮影モードを変更できます。［マイセッティング登録］の内容がシーンモードの場合は［撮影モード切替］は表示されません。

撮影設定メニューについて

撮影モードで MENU/OK ボタンを押すと、撮影設定メニューが表示されます。

撮影設定メニューの操作方法

各設定項目の設定方法は以下の通りです。

1 撮影モードで MENU/OK ボタンを押す

- 撮影設定メニューが表示されます。
- シーンモードの場合、◀ボタンで［MODE］タブを選択します。その後▼ボタンを 1 回押すと、撮影設定メニューが表示されます。



表示している画面の範囲を示しています。

2 ▲▼ボタンで設定する項目を選択する

- 一番下の項目で▼ボタンを押すと次の設定画面が表示されます。



3 ▶ボタンを押す

- 設定項目の選択肢が表示されます。

4 ▲▼ボタンで選択肢を選択する



5 MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押して MENU/OK ボタンを押す

- 設定が確定し、撮影設定メニューが消え、撮影できる状態になります。

モードダイヤルが SCENE 以外のとき

設定項目	初期設定値	参照先
画質・サイズ	N3648(10M)	P.65
フォーカス	マルチ AF	P.67
スナップ時フォーカス距離	2.5m	P.73
フルプレス スナップ	ON	P.74
プレAF	OFF	P.75
測光	マルチ	P.76
画像設定	スタンダード	P.77
連写	OFF	P.80
オートブラケット	OFF	P.83
フラッシュ調光補正	0.0	P.87
フラッシュマニュアル発光量	1/2	P.88
フラッシュシンクロ設定	先幕	P.89
ノイズリダクション	OFF	P.90
ノイズリダクション ISO 設定	ISO401 以上	P.90
インターバル撮影	—	P.91
日付入れ撮影	OFF	P.92
露出補正*1	0.0	P.93
ホワイトバランス	マルチパターン AUTO	P.94
ホワイトバランス補正	A:0,G:0	P.98
ISO 感度	AUTO	P.100
撮影設定初期化*2	—	P.101
絞り自動シフト*3	OFF	P.102
撮影モード切替 *4	—	P.102

＊1　モードダイヤルが M のときは表示されません。
＊2　モードダイヤルが のときのみ表示されます。
＊3　モードダイヤルが A のときのみ表示されます。
＊4　モードダイヤルが MY1 ～ MY3 のときのみ表示されます。

シーンモードで［動画］のとき

設定項目	初期設定値	参照先
動画サイズ	640	P.105
フレームレート	30 コマ／秒	P.105
フォーカス	マルチ AF	P.67
スナップ時フォーカス距離	2.5m	P.73
プレAF	OFF	P.75
ホワイトバランス	AUTO	P.94
ホワイトバランス補正	A:0,G:0	P.98

シーンモードで［ダイナミックレンジダブルショット］のとき

設定項目	初期設定値	参照先
画質・サイズ	N3648(10M)	P.65
フォーカス	マルチ AF	P.67
スナップ時フォーカス距離	2.5m	P.73
プレAF	OFF	P.75
測光	マルチ	P.76
画像設定	スタンダード	P.77
ダイナミックレンジ拡大効果	弱	P.56
＋通常撮影	OFF	P.57
ノイズリダクション	OFF	P.90
ノイズリダクション ISO 設定	ISO401 以上	P.90
日付入れ撮影	OFF	P.92
露出補正	0.0	P.93
ホワイトバランス	マルチパターン AUTO	P.94
ホワイトバランス補正	A:0,G:0	P.98
ISO 感度	AUTO	P.100

シーンモードで［斜め補正］のとき

設定項目	初期設定値	参照先
画質・サイズ	N1280（1M）	P.65
フォーカス	マルチ AF	P.67
スナップ時フォーカス距離	2.5m	P.73
フルプレス スナップ	ON	P.74
プレAF	OFF	P.75
測光	マルチ	P.76
画像設定	スタンダード	P.77
フラッシュ調光補正	0.0	P.87
フラッシュシンクロ設定	先幕	P.89
日付入れ撮影	OFF	P.92
露出補正	0.0	P.93
ホワイトバランス	マルチパターン AUTO	P.94
ISO 感度	AUTO	P.100

シーンモードで［文字］のとき

設定項目	初期設定値	参照先
文字濃度	標準	P.59
サイズ	3648(10M)	P.65
プレAF	OFF	P.75
日付入れ撮影	OFF	P.92

メモ

撮影設定メニューからセットアップメニューを表示できます(☞P.132)。

画質モード／画像サイズを選択する（画質・サイズ）

撮影設定メニュー（☞P.61）の［画質・サイズ］では、画質モードと画像サイズを設定できます。

撮影した静止画のファイルの大きさは、画質モードと画像サイズの組み合わせによって決まります。動画の場合は動画サイズを選択します。

静止画の場合

設定項目	画像サイズ	画質モード	主な使用用途
RAW(10M)*1	3648 × 2736	RAW	• パソコンに取り込んで高度な画像補正・編集を行う
RAW3:2(9M)*1 *2	3648 × 2432		
RAW1:1(7M)*1 *3	2736 × 2736		
F3648(10M) N3648(10M)	3648 × 2736*4	F (Fine) N (Normal)	• 大きくプリントする • パソコンに取り込んでトリミングなどの加工を行う
F3:2(9M)*2 N3:2(9M)*2	3648 × 2432	F (Fine) N (Normal)	
F1:1(7M)*3 N1:1(7M)*3	2736 × 2736	F (Fine) N (Normal)	
N3264(8M)	3264 × 2448	N (Normal)	
N2592(5M)	2592 × 1944	N (Normal)	• プリントする
N2048(3M)	2048 × 1536*4	N (Normal)	
N1280(1M)*5	1280 × 960	N (Normal)	• 枚数を多く撮影する
N640(VGA)*5	640 × 480	N (Normal)	• 枚数を多く撮影する • メールに添付する • Web 用画像として使う

＊1 シーンモードの［ダイナミックレンジダブルショット］の場合、選択できません。

＊2 撮影範囲に合わせて、画像モニターの上下が黒く表示されます。

＊3 撮影範囲に合わせて、画像モニターの左右が黒く表示されます。

＊4 シーンモードの［文字］の場合、画像サイズは 3648 × 2736（［3648(10M)］）または 2048 × 1536（［2048(3M)］）のみになります。

＊5 シーンモードの［斜め補正］の場合、設定項目は［N1280(1M)］または［N640(VGA)］のみになります。

メモ

- 内蔵メモリー／メモリーカードに記録できる枚数は、［画質·サイズ］によって異なります（☞P.65）。
- 画質モードは Normal モード（N）、Fine モード（F）、RAW モードの 3 種類があります。

Normal モード	画像の圧縮率は高く、ファイルサイズは小さくなります。
Fine モード	Normal モードより高画質ですが、画像の圧縮率は低く、ファイルサイズは大きくなります。
RAW モード	撮影したままの生データが RAW 形式ファイル（.DNG ファイル）として保存されます。同時に JPEG 形式のファイルも記録されます。 DNG ファイル形式に対応した画像ソフトを使用して、パソコンで表示・加工できます。 Windows の場合は、付属の Irodio Photo & Video Studio で加工できます。Macintosh の場合は、市販の DNG ファイルを加工できるソフトウェアをご使用ください。

RAW モードで撮影する

- JPEG 形式はファイルサイズが小さいかわりに、圧縮のため画質が劣化してしまいます。RAW モードで撮影した場合、ファイルサイズは大きくなりますが、圧縮されずに画像の劣化が防げます。
- RAW モードで撮影する場合は、以下の点にご注意ください。
  - RAW モードでは、一部の撮影機能は使用できません。詳しくは各機能の項目を参照してください。
  - ［日付入れ撮影］を設定した場合、DNG ファイルに日付は入りません。同時記録される JPEG ファイルには、日付が入ります。
  - 撮影メニューで設定した [画像設定] は、同時記録される JPEG ファイルにのみ反映されます。
  - RAW モードで [連写］を設定した場合、[ノイズリダクション]（☞P.90）の設定により連続撮影できる枚数が異なります。[OFF] の場合は 5 枚まで、[弱] または [強] の場合は 4 枚までとなります。
  - RAW モード時に同時記録される JPEG ファイルは、セットアップメニューの［RAW 同時記録設定］で画質・サイズを変更できます（☞P.159）。
  - カメラで表示されるのは、同時記録された JPEG ファイルです。

ピント合わせの方式を変える（フォーカス）

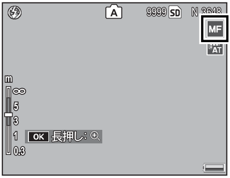
撮影設定メニュー（☞P.61）の［フォーカス］では、ピント合わせの方式を設定できます。

ピント合わせの方式を初期設定のまま撮影すると、オートフォーカス（AF）でピント合わせが行われます。

ピント合わせ（フォーカス）の方式には、以下の 5 種類があります。

設定項目	内容
マルチ AF	9 箇所の AF エリアから測距し、最も近い位置にピントを合わせます。中抜けを防止し、ピンボケの少ない撮影ができます。
スポット AF	AF エリアを画像モニター中央の 1 箇所に固定し、ピントを合わせます。
MF MF（マニュアルフォーカス）	手動でピントを合わせるときに使います。
S スナップ	近距離にピントを固定します。スナップ距離は撮影設定メニューの［スナップ時フォーカス距離］（☞P.73）で設定できます。
∞ ∞（無限遠）	無限遠にピントを固定します。無限遠は、遠くの風景などを撮影するときに使います。

［MF］、［スナップ］、［∞］を選択した場合は、画面にマークが表示されます。

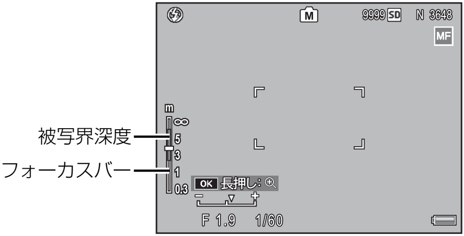


メモ

- ［Fn1 ボタン設定］または［Fn2 ボタン設定］で［AF/MF］を設定する（☞P.144）と、Fn（ファンクション）1 または Fn2 ボタンでオートフォーカスとマニュアルフォーカスを切り替えられます。
- ［Fn1 ボタン設定］または［Fn2 ボタン設定］で［AF/ スナップ］を設定する（☞P.144）と、Fn1 または Fn2 ボタンでオートフォーカスとスナップを切り替えられます。

被写界深度（ひしゃかいしんど）とフォーカスバー----------------

- [MF]、[スナップ]、[∞] を選択した場合、撮影モードによって被写界深度とフォーカスバーが表示されます。



撮影モード	画面表示
マニュアル露光モード 絞り優先モード	画面に被写界深度が表示されます。被写界深度はフォーカスバーの内側に緑色で表示され、絞り値に連動して伸び縮みします。
プログラムシフトモード	シャッターボタン半押し後のみ（絞り値が表示されている間のみ）被写界深度が表示されます。
オート撮影モード シャッタースピード優先モード シーンモード	被写界深度は表示されません。

- 被写界深度はあくまでも目安です。

被写界深度（ひしゃかいしんど）とは--------------------------------

被写界深度とは、ピントが合っているように見える距離の範囲のことです。絞り値を大きくする（絞りを閉じる）ほど、ピントの合う範囲が広くなり、絞り値を小さくする（絞りを開く）ほど狭くなります。

手動でピントを合わせて撮影する（MF）

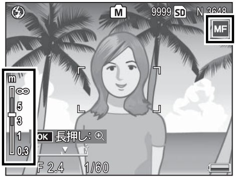
オートフォーカスでピントが合わないときには、手動でピントを合わせられます（MF：マニュアルフォーカス）。

マニュアルフォーカスでは、撮影距離を固定して撮影できます。

メモ

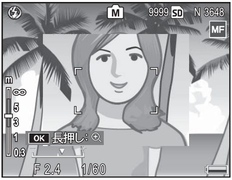
- シーンモードの［文字］の場合は、マニュアルフォーカスは使用できません。
- マニュアルフォーカスでは、マクロモードにしなくても、マクロ撮影が可能な距離の被写体にピントを合わせられます。
- ［Fn1 ボタン設定］または［Fn2 ボタン設定］で［AF/MF］を設定する（☞P.144）と、Fn（ファンクション）1 または Fn2 ボタンでオートフォーカスとマニュアルフォーカスを切り替えられます。

1 撮影設定メニューの［フォーカス］で［MF］を選択する



- 画面に［MF］が表示されます。
- 画面にフォーカスバーが表示されます。モードによっては被写界深度（☞P.68）が表示されます。
- フォーカスバーに表示される距離と被写界深度は、あくまでも目安です。

2 ▲▼ ボタンでピントを合わせる



- ▲ ボタンで遠距離方向に、▼ ボタンで近距離方向に移動します。
- MENU/OK ボタンを長押しすると、画面中央部のみ拡大表示されます。
- 再度 MENU/OK ボタンを長押しすると、拡大表示から通常表示に戻ります。

3 シャッターボタンを押して撮影する

AE/AF ターゲットを移動して露出やピントの位置を調整する

カメラを動かさずにカメラのボタン操作だけで、被写体の特定の部分を測光して露出を決める AE ターゲットやフォーカスロックができる AF ターゲット移動機能が使用できます。三脚を使った撮影時に便利です。

設定	内容
AE/AF	AE がスポット AE、AF がスポット AF となり、ターゲットを同時に移動できます（スポット AE とスポット AF のターゲットは同じ位置になります）。
AF	AF がスポット AF となり、ターゲットを移動できます。測光は撮影設定メニューの [測光] (☞P.76) で選択した設定になります。
AE	AE がスポット AE となり、ターゲットを移動できます。フォーカスは撮影設定メニューの［フォーカス］（☞P.67）で選択した設定になります。
OFF	AE/AF ターゲットを使用しません。

1 ADJ. レバーを押す

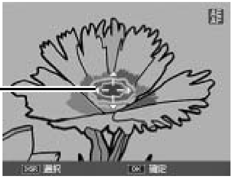
2 ADJ. レバーを左右にたおして を選択する

- メニューが表示されます。



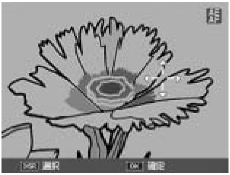
3 ▲▼ボタンで項目を選択し、MENU/OK ボタンを押す

- ターゲット移動画面が表示されます。



ターゲット

4 ▲▼◀▶ ボタンでターゲットを移動する



- DISP. ボタンを押すと、手順 2 の画面に戻ります。

5 MENU/OK ボタンを押す

6 シャッターボタンを半押しする

- ［AE/AF］を選択している場合は、スポット AE とスポット AF の位置が表示されます。
- ［AF］を選択している場合は、スポット AF の位置が表示されます。
- ［AE］を選択している場合は、スポット AE の位置とピント合わせの枠が表示されます。

7 シャッターボタンを押しきる

メモ

- AF ターゲットを移動すると、解除するまで設定した位置でピント合わせが行われます。
- シーンモードでは、マクロモード時に ADJ. レバーを押して ✿ を選択すると、マクロターゲットを移動できます（☞P.72）。✿ 選択後の操作手順は、P.72 の手順 3 以降を参照してください。
- Fn（ファンクション）1 または Fn2 ボタンでマクロターゲット移動機能を実行し（☞P.72）、その後解除していない場合は、ADJ. レバーを押しても AF/AE ターゲットは使用できません。
- ［フォーカス］を［MF］に設定している場合（☞P.67）は、AE/AF ターゲット移動機能は使用できません。
- ターゲットを移動した後に、以下の操作を行うと、移動したターゲットの位置は中央に戻ります。
  - ［AE］、［AF］、［AE/AF］の設定を変更する
  - ［フォーカス］を［MF］に設定する

マクロターゲットを移動してピントの位置を調整する

カメラを動かさずにカメラのボタン操作だけで、フォーカスロックができる AF ターゲット移動機能を使用したマクロ撮影ができます。三脚を使った撮影時に便利です。

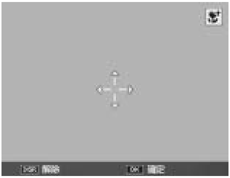
［マクロターゲット］を使用するには、Fn（ファンクション）1 または Fn2 ボタンに［マクロターゲット］を登録しておく必要があります。

1 セットアップメニューで［Fn1 ボタン設定］または［Fn2 ボタン設定］に［マクロターゲット］を登録する

- 登録方法は P.143 を参照してください。

2 撮影できる状態で、Fn1 または Fn2 ボタンを押す

- マクロターゲット移動画面が表示されます。



3 ▲▼◀▶ ボタンでターゲットを移動する

4 MENU/OK ボタンを押す

- DISP. ボタンを押すと、マクロターゲット移動機能が解除されます。

5 シャッターボタンを半押しする

- 十字の位置にピント合わせが行われます。

6 シャッターボタンを押しきる

- 🌷（マクロ）ボタンを押すと、マクロターゲット移動機能が解除されます。

メモ --

ADJ. レバーで AE/AF ターゲット移動機能を実行し（☞P.70）、解除していない場合は、Fn1 または Fn2 ボタンを押してもマクロターゲット移動は使用できません。

スナップ時のフォーカス距離を変更する（スナップ時フォーカス距離）

撮影設定メニュー（☞P.61）の［スナップ時フォーカス距離］では、［フォーカス］（☞P.67）で［スナップ］を選択した場合や、フルプレス時のピントを固定する距離を設定できます。

設定項目			
1m	2.5m	5m	∞

メモ

［フォーカス］で［スナップ］選択時や［フルプレス スナップ］で［OFF］以外を選択している場合は、▲ボタンを押しながらアップダウンダイヤルを回すと、スナップ距離を変更できます。

シャッターを一気に切ったとき、所定のピント位置で撮影する（フルプレス スナップ）

フルプレスとは、［フォーカス］で［マルチ AF］または［スポット AF］を選択している場合（☞P.67）に、シャッターを一気に押して（フルプレス）撮影する機能です。撮影設定メニュー（☞P.61）の［フルプレス スナップ］（☞P.73）で［OFF］以外を選択すると、フルプレス時に［スナップ時フォーカス距離］で設定した距離にピントを合わせて撮影できます。

設定項目	内容
OFF	通常の AF 撮影と同じ動作です。
ON	フルプレス時に、自動的に［スナップ時フォーカス距離］で設定した距離にピントを合わせます。
ON ISO AUTO HI	フルプレス時に、自動的に［スナップ時フォーカス距離］で設定した距離にピントを合わせます。また、ISO 感度は、［ISO 感度］で設定している値ではなく、自動的に［AUTO-HI］（☞P.100）となります。

注意 --

- フォーカスモードが［MF］、［スナップ］、［∞］の場合、フルプレス スナップ撮影はできません。
- マクロ撮影時はフルプレス スナップ撮影はできません。
- フルプレス スナップ撮影時は、手ブレに注意してください。

メモ --

［フルプレス スナップ］が［ON］の場合でも、シャッターボタンを半押しすればオートフォーカスでピントが合わせられます。

被写体を追いかけてピントを合わせる（プレAF）

撮影設定メニュー（☞P.61）の［プレAF］を［ON］に設定すると、［フォーカス］で［マルチ AF］または［スポット AF］を選択している場合（☞P.67）に、シャッターを半押ししなくてもカメラが自動的にピントを合わせる動作を行います。被写体の動きを検出すると動作するため、ピントが合う速度が速くなる場合があります。

注意 --

- フォーカスモードが［MF］、［スナップ］、［∞］の場合はプレAF は使用できません。
- ［プレAF］を［ON］にすると、［OFF］の場合よりも電池の消耗が早くなります。

メモ --

プレAF 機能では、通常のオートフォーカス時よりもスキャン範囲が狭くなります。

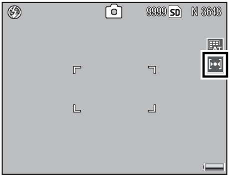
測光モードを変える（測光）

撮影設定メニュー（☞P.61）の［測光］では、露出値を決めるときの測光モード（どの範囲で測光するか）を変更できます。

測光モードには、以下の 3 種類があります。

設定項目	内容
（マーク表示なし） マルチ	撮影範囲全体を 256 に分割して、それぞれで測光して総合的に判断します。
中央	中央部分に重点を置きつつ、全体を測光して判断します。中央と周辺の明るさが異なるときに使います。
スポット	中央部分を測光して判断します。中央の明るさに強制的に合わせたいときに使います。逆光やコントラストの差が著しいときなどに役立ちます。

［中央］、［スポット］を選択した場合は、画面にマークが表示されます。



画質と色を設定する（画像設定）

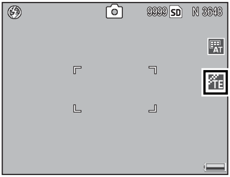
撮影設定メニュー（☞P.61）の［画像設定］では、彩度、コントラスト、シャープネス、色など画像の画質を変更できます。

画質は以下の 6 種類を選択できます。

設定項目	内容
ビビッド	コントラスト、シャープネスを［スタンダード］より高めに、彩度を最高にすることによって、硬い感じの画質にします。
（マーク表示なし）スタンダード	通常の画質です。
白黒	白黒の画像です。［コントラスト］、［シャープネス］をそれぞれ 5 段階で設定できます。
白黒 (TE)*	白黒画像に色味をつけられます。［調色］、［彩度］、［コントラスト］、［シャープネス］を設定できます。 ［彩度］、［コントラスト］、［シャープネス］はそれぞれ 5 段階で設定できます。 ［調色］は［セピア］、［レッド］、［グリーン］、［ブルー］、［パープル］が選択できます。
設定 1 ／設定 2	［彩度］、［コントラスト］、［シャープネス］、［個別色設定］を設定してオリジナルの画質を設定できます。 ［彩度］、［コントラスト］、［シャープネス］はそれぞれ 5 段階で設定できます。 ［個別色設定］には［色相］と［彩度］があり、それぞれ［オレンジ］、［グリーン］、［スカイブルー］、［レッド］、［マゼンタ］が選択できます。これらの項目はそれぞれ 5 段階で設定できます。

＊Toning effect の略

［スタンダード］以外を選択した場合は、画面にマークが表示されます。



メモ

［ダイナミックレンジダブルショット］の場合、［コントラスト］の設定は反映されません。

コントラストやシャープネスなどの各項目を設定する

［白黒］、［白黒 (TE)］、［設定 1］または［設定 2］を選択した場合、さらに各項目の内容を設定します。

すでに値を設定している場合は、値が保存されています。

1 撮影設定メニューで［画像設定］を選択し、▶ ボタンを押す

2 ［白黒］、［白黒 (TE)］、［設定 1］または［設定 2］から項目を選択し、▶ ボタンを押す

3 ▲▼ ボタンで項目を選択して、◀▶ ボタンで値を設定する



白黒



白黒 (TE)



設定 1 ／設定 2

- 白黒 (TE) の［調色］は、▶ ボタンを押してから ▲▼ ボタンで項目を選択し、◀ ボタンで確定します。
- 設定 1 ／設定 2 の［個別色設定］で ▶ ボタンを押すと、右の画面が表示されます。▲▼ ボタンで項目を選択し、◀▶ ボタンで値を設定します。MENU/OK ボタンで確定します。

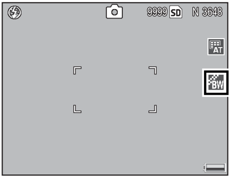


4 MENU/OK ボタンを押す

- 設定が完了し、撮影設定メニューに戻ります。

5 MENU/OK ボタンを押す、または ◀ ボタンを押して MENU/OK ボタンを押す

- 設定が確定して画面にマークが表示されます。



ADJ. レバーで設定する

セットアップメニューの［ADJ. レバー設定 1/2/3/4］に［画像設定］を登録しておくと（☞P.141）、ADJ. モードで画像設定を設定できます。

1 撮影モードで ADJ. レバーを押す

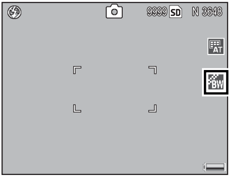
2 画像設定が表示されるまで ADJ. レバーを左右にたおすか ◀▶ ボタンを押す

3 ▲▼ ボタンで設定を選択する

- この状態でシャッターボタンを押して撮影することもできます。

4 ADJ. レバーまたは MENU/OK ボタンを押す

- 撮影画面に戻り、画面にマークが表示されます。

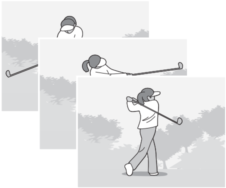


連写で撮影する（連写／ S 連写／ M 連写）

連写に設定すると、連続撮影ができます。連写の種類は、撮影設定メニュー（☞P.61）の［連写］で設定します。

連写には、以下の 3 種類があります。

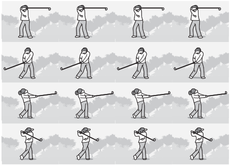
連写



シャッターボタンを押している間、連続撮影ができます。静止画は通常の撮影時と同じように、1 枚ずつ記録します。

連写で撮影した静止画を再生するには、再生モードにして（☞P.35）、◀▶ ボタンで再生したい静止画を選択します。

S 連写（ストリーム連写）

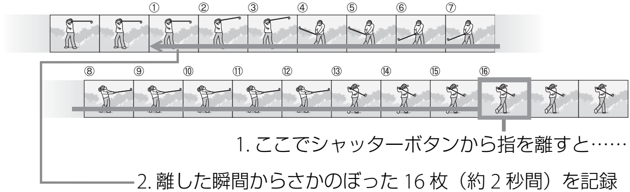


シャッターボタンを押しきった瞬間から撮影間隔 1/7.5 秒で 16 枚（約 2 秒間）連続撮影します。

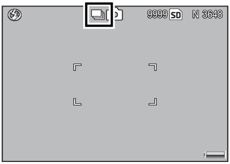
16 枚の静止画を 1 組にして、1 つの画像ファイル（3648 × 2736 ピクセル）として記録します。

M 連写（メモリー逆戻り連写）

シャッターボタンを押している間、連続撮影を行います。シャッターボタンを離した瞬間からさかのぼった 16 枚（約 2 秒間）の静止画を 1 組にして、1 つの画像ファイル（3648 × 2736 ピクセル）として記録します。



連写を設定すると、画面にマークが表示されます。



通常の撮影に戻したいときは、撮影設定メニュー（☞P.61）の［連写］で［OFF］を選択して MENU/OK ボタンを押します。

注意 --

- S 連写／ M 連写のときは、セットアップメニューの［デジタルズーム切替］を［オートリサイズ］に設定していても、デジタルズームが有効になります。
- 連写／ S 連写／ M 連写のときは、［ホワイトバランス］（☞P.94）を［マルチパターン AUTO］に設定していても、[AUTO］になります。
- 連写の設定は、電源をオフにすると解除されます。

メモ --

- S 連写／ M 連写のときは、ISO 感度を［ISO 64］、［ISO 100］に設定しても［AUTO］になります。
- M 連写では、シャッターボタンを押しはじめてから 2 秒以内にシャッターボタンを離した場合は、シャッターボタンを押してから離すまでの間が連続撮影され、記録される撮影枚数は 16 枚より少なくなります。
- フラッシュは発光禁止になります。
- 連写時は、フォーカスと露出値が固定されます。
- 連写を使って撮影するときの連続記録可能枚数は、画像サイズにより異なります。
- ［カード連続 NO.］を［ON］に設定している場合（☞P.162）、連写撮影中にファイル番号の下 4 桁が「9999」を超えると、メモリーカード内に別フォルダが作成されて連写が継続されます。

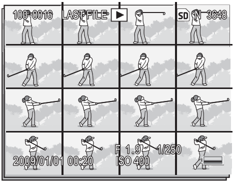
S 連写／ M 連写した静止画を拡大して見る

S 連写、M 連写で撮影した静止画（16 枚 1 組になった画像ファイル）を表示している際、16 枚の中の 1 枚（コマ）を拡大表示できます。拡大表示後は、1 コマずつコマ送りすることもできます。

1 ▶（再生）ボタンを押す

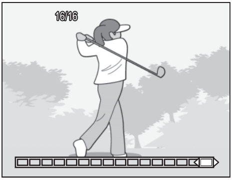
- 最後に撮影したファイル、または最後に表示したファイルが表示されます。

2 S 連写または M 連写で撮影した静止画を表示する



3 🔍（拡大表示）ボタンを押す

- 連写した先頭の 1 コマが拡大表示されます。画像モニターの下部にはコマ位置を示すバーが表示されます。
- ◀▶ ボタンを押すと、コマを移動できます。16 枚の表示に戻すには、MENU/OK ボタンを押します。



メモ --

DISP. ボタンを押すたびに、画像モニター下部のバーの表示、グリッドガイド表示、表示なしが切り替わります（☞P.42）。

1 いろいろな撮影（撮影設定メニュー）

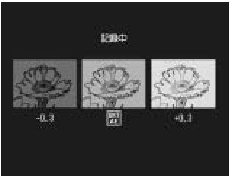
露出／ホワイトバランス／カラーを変化させて連続撮影する（オートブラケット）

撮影設定メニュー（☞P.61）のオートブラケットは、自動的に露出値やホワイトバランス、カラーを変化させながら 3 枚連続して撮影する機能です。

選択できるモードは以下の種類です。

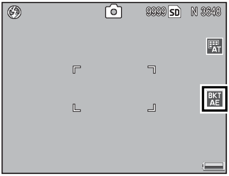
設定項目	内容
BKT AE ON ± 0.3	露出差を「–0.3EV、± 0、+0.3EV」の 3 段階で撮影します。
BKT AE ON ± 0.5	露出差を「–0.5EV、± 0、+0.5EV」の 3 段階で撮影します。
BKT WB WB-BKT	設定されているホワイトバランスの値よりも、赤みがかった画像、現在の設定値、青みがかった画像の 3 枚が自動的に記録されます。
BKT CL CL-BKT	白黒、カラーの 2 枚、または白黒、カラー、白黒 (TE) の 3 枚の画像を自動的に記録します。

露出値を変化させて連続撮影する



［ON ± 0.3］または［ON ± 0.5］を選択すると、設定した露出差で 3 枚の画像を撮影します。

露出を変化させて撮影する場合に使用すると便利です。



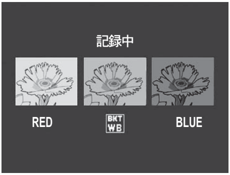
オートブラケットを設定すると、画面にはマークが表示されます。

メモ

- 連写を設定している場合は使用できません。
- フラッシュは発光禁止になります。
- ［ホワイトバランス］（☞P.94）が［マルチパターン AUTO］に設定されている場合でも、［AUTO］として動作します。

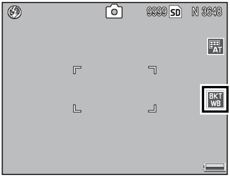
ホワイトバランスを変化させて連続撮影する（WB-BKT：ホワイトバランスブラケット）

［WB-BKT］を選択すると、画面にマークが表示され、撮影すると設定されているホワイトバランス値を基準に、赤みがかった画像、現在の設定値の画像、青みがかった画像で 3 枚記録されます。



適切なホワイトバランスが判断できない場合に使用すると便利です。

ホワイトバランスブラケットを設定すると、画面にはマークが表示されます。



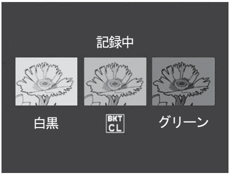
メモ

- ［画質・サイズ］が RAW モードの場合は使用できません。
- 連写を設定している場合は使用できません。
- フラッシュは発光禁止になります。
- ［画像設定］を［白黒］または［白黒 (TE)］に設定している場合、ホワイトバランスブラケットは動作しません。
- ホワイトバランスは撮影設定メニューで変更できます（☞P.94）。

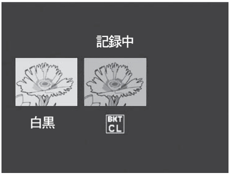
色を変えて連続撮影する（CL-BKT：カラーブラケット）

［CL-BKT］を選択すると、白黒、カラーの 2 枚、または白黒、カラー、白黒 (TE) の 3 枚の画像を自動的に記録します。

白黒、カラー、白黒 (TE) を記録する場合は、セットアップメニューの［CL-BKT 白黒 (TE)］（☞P.158）を ON にするか、撮影設定メニューの［画像設定］（☞P.77）で［白黒 (TE)］を選択します。

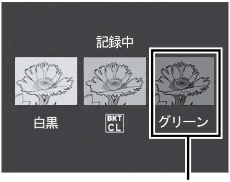


白黒、カラーを記録する場合は、セットアップメニューの［CL-BKT 白黒 (TE)］（☞P.158）を OFF にします。



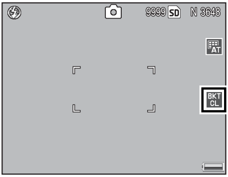
記録される白黒 (TE) の画像について

白黒 (TE) で記録される色は、撮影設定メニューの［画像設定］の［白黒 (TE)］（☞P.77）で設定します。



［白黒 (TE)］の画像

カラーブラケットを設定すると、画面にはマークが表示されます。



メモ

- ［画質・サイズ］が RAW モードの場合は使用できません。
- 連写を設定している場合は使用できません。
- フラッシュは発光禁止になります。

カラーブラケット撮影でのコントラスト、シャープネス、彩度について

カラーブラケット撮影でのコントラスト、シャープネス、彩度については、［画像設定］（☞P.77）の設定値が以下のとおり反映されます。

- カラーブラケットの白黒画像：
  ［画像設定］の［白黒］の設定値が反映されます。
- カラーブラケットの白黒 (TE) 画像：
  ［画像設定］の［白黒 (TE)］の設定値が反映されます。
- カラーブラケットのカラー画像：
  ［画像設定］で選択している項目の設定値が反映されます。ただし、［画像設定］で［白黒］または［白黒 (TE)］を選択している場合、［画像設定］の［スタンダード］の設定値が反映されます。

フラッシュの光量を調整する（フラッシュ調光補正）

撮影設定メニュー（☞P.61）の［フラッシュ調光補正］では、フラッシュの光量を調整することができます。光量は –2.0EV 〜 +2.0EV の間で、1/3EV 間隔で設定できます。

1 撮影設定メニューで［フラッシュ調光補正］を選択し、▶ ボタンを押す

- フラッシュ調光補正バーが表示されます。

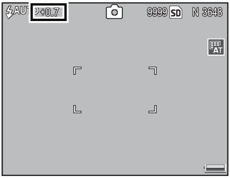


2 ▲▼ ボタンで値を設定する



3 MENU/OK ボタンを押す

- フラッシュが［発光禁止］以外の場合、画面に設定値が表示されます。



メモ --

フラッシュを使用して撮影する場合の操作方法は、P.30 を参照してください。

注意 --

フラッシュの撮影距離範囲外（☞P.30）では補正されない場合があります。

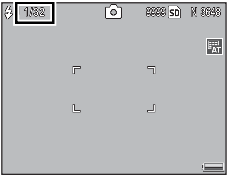
マニュアル発光モードのときの発光量を設定する（フラッシュマニュアル発光量）

撮影設定メニュー（☞P.61）の［フラッシュマニュアル発光量］では、フラッシュモードを［マニュアル発光］に設定した場合（☞P.30）の、内蔵フラッシュ発光量を設定できます。

設定できる発光量は、最大発光量に対する値です。

設定項目			
FULL	1/1.4	1/2	1/2.8
1/4	1/5.6	1/8	1/11
1/16	1/22	1/32	1/64

フラッシュマニュアル発光量を設定すると、画面に設定値が表示されます。



メモ --

- フラッシュモードが［マニュアル発光］の場合は、［フラッシュマニュアル発光量］の設定値が有効となり、［フラッシュ調光補正］の設定値は無効になります。
- ［フラッシュマニュアル発光量］の設定値と実際の発光量は多少異なる場合があります。

注意 --

- フラッシュモードが［マニュアル発光］の場合、発光量は自動的に調整されません。
- 目の近くでフラッシュを発光したり（特に乳幼児）、運転者などに向かってフラッシュを発光したりしないでください。

フラッシュ発光のタイミングを設定する（フラッシュシンクロ設定）

撮影設定メニュー（☞P.61）の［フラッシュシンクロ設定］では、フラッシュが発光するタイミングを設定できます。

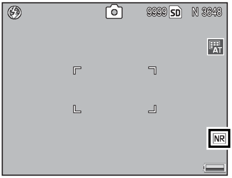
設定項目	内容
先幕	露光開始直後にフラッシュが発光します。通常の撮影ではこちらを選択してください。
後幕	露光終了直前にフラッシュが発光します。先に通常光部分を露光し、露光が終わる直前のタイミングで発光します。動いている被写体を低速のシャッタースピードで撮影するときなどに、光跡や被写体の軌跡をより自然に表現できます。

ノイズを軽減する（ノイズリダクション）

撮影設定メニュー（☞P.61）の［ノイズリダクション］から［弱］または［強］を選択すると、静止画の撮影時に画像のノイズ軽減処理を行います。

ノイズリダクションを有効にすると、画面にマークが表示されます。

ノイズリダクションを適用する ISO 感度は、［ノイズリダクション ISO 設定］で設定できます。



メモ

- ［画質・サイズ］を RAW モードに設定して撮影した場合、同時記録される JPEG ファイルはノイズリダクションの設定に応じた画質となりますが、DNG ファイルはノイズリダクションの設定によらず一定の画質になります。
- ［ノイズリダクション］の設定により、画像の記録完了までの時間が異なります。

ノイズリダクションを適用する ISO 感度を設定する （ノイズリダクション ISO 設定）

撮影設定メニュー（☞P.61）の［ノイズリダクション ISO 設定］では、［ノイズリダクション］を［弱］または［強］に設定した場合にノイズ軽減を適用する ISO 感度を設定できます。

設定項目				
すべて	ISO201 以上	ISO401 以上	ISO801 以上	ISO1600

一定間隔で自動撮影する（インターバル撮影）

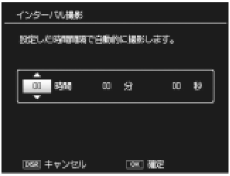
撮影設定メニュー（☞P.61）の［インターバル撮影］を設定すると、設定した時間間隔で、自動的に撮影できます。

時間間隔は、5 秒～ 1 時間の間から 5 秒単位で設定できます。

1 撮影設定メニューで［インターバル撮影］を選択し、▶ ボタンを押す

2 ◀▶ ボタンで項目を移動し、▲▼ ボタンで値を設定する

- ▲▼ ボタンを押し続けると、分の数値を高速で増減できます。

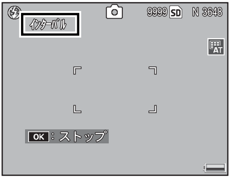


3 MENU/OK ボタンを押す

- 画面に［インターバル］と表示されます。

4 シャッターボタンを押して撮影する

- 設定した間隔で、次々に撮影されます。



5 撮影を中止するときには、MENU/OK ボタンを押す

注意 --

- インターバル撮影の設定は、電源をオフにすると解除されます。
- 撮影の設定によって次の撮影が可能となるまでの時間が、インターバル撮影で設定した時間よりも長くなることがあります。その場合、設定した時間よりも撮影間隔が長くなります。
- シーンモードでは、インターバル撮影はできません。

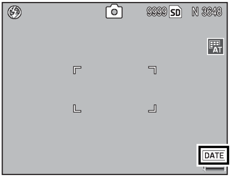
メモ --

- 充分に残量のある電池または AC アダプター（別売り）のご使用をお勧めします。
- インターバル撮影中でも、シャッターボタンを押すと通常の撮影ができます。
- インターバル撮影を設定すると、連写が［連写］または［M 連写］に設定されていても、自動的に［OFF］に切り替わります。
- 充分に空き容量のあるメモリーカードまたは高速メモリカードのご使用をお勧めします。残り記録枚数が 0 になると、インターバル撮影は自動で中止されます。

静止画に日付を入れる（日付入れ撮影）

撮影設定メニュー（☞P.61）の［日付入れ撮影］から［日付］または［日時］を選択すると、静止画の右下に日付（年／月／日）または日時（年／月／日 時：分）を入れられます。

日付入れ撮影を有効にすると、画面にマークが表示されます。



メモ --

- 日付・時刻が設定されていない場合、［日付入れ撮影］はできません。あらかじめ日付・時刻を設定してください（☞P.22）。
- 動画に日付は入れられません。
- RAW モードで撮影した場合、DNG ファイルに日付は入れられません。DNG ファイルと同時記録される JPEG ファイルには日付が入ります。
- 画像に入れた日付は削除できません。

1
いろいろな撮影（撮影設定メニュー）

露出を変える（露出補正）

撮影設定メニュー（☞P.61）の［露出補正］または ADJ. レバーで露出補正値を設定して、画像全体の明るさを調整できます。

露出は、+ になるほど明るくなり、－になるほど暗くなります。通常、撮影範囲の中央に被写体があると自動的に逆光補正を行い、適切な露出で撮影できます。

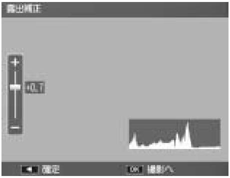
以下のような場合や、意図的に露出を変えて撮影をしたいときは、露出を変更して撮影できます。

逆光撮影の場合	背景が非常に明るい場合など、被写体が暗く（露出アンダー）なることがあるため、＋側に調整します。
白っぽい被写体を写す場合	全体的に暗くなる（露出アンダー）ため、＋側に調整します。
黒っぽい被写体を写す場合	全体的に明るくなる（露出オーバー）ため、－側に調整します。 スポットライトが当たった人物を写すときなども－側に調整します。

1 撮影設定メニューで［露出補正］を選択し、▶ ボタンを押す

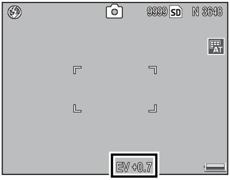
2 ▲▼ ボタンで値を設定する

- －2.0EV ～ +2.0EV の間で設定できます。
- この状態でシャッターボタンを押して撮影することもできます。



3 MENU/OK ボタンを押す

- 撮影画面に戻り、設定値が表示されます。



注意 --

マニュアル露光モードでは使用できません。

自然光や照明光を使う（ホワイトバランス）

撮影設定メニュー（☞P.61）の［ホワイトバランス］または ADJ. レバーでホワイトバランスを設定して、白い被写体がどのような光の下でも白く写るように調整を行います。

ご購入時、ホワイトバランスモードは［マルチパターン AUTO］に設定されています。単一色の被写体や、複数の光源下にある被写体を撮影するときなど、ホワイトバランスの調整がうまく合いにくい場合には、設定を変更します。

選択できるモードは以下の 8 種類です。

設定項目	内容
AUTO オート	自動的に調整します。
マルチパターン AUTO	日向／日陰、フラッシュなど、光源が混在する場合でも、分割した領域ごとの光源に合わせて、カメラが自動的に最適なホワイトバランスを調整します。
屋外	屋外（晴天）での撮影時に使用します。
曇天	曇天や日影などでの撮影時に使用します。
白熱灯	白熱灯の下での撮影時に使用します。
蛍光灯	蛍光灯の下での撮影時に使用します。
手動設定	手動設定を行います（☞P.96）。
詳細設定	白熱灯－屋外－曇天に近い設定を含む 16 段階の設定値から選択できます（☞P.97）。

撮影設定メニューで設定する

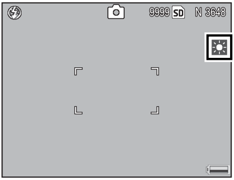
1 撮影設定メニューで［ホワイトバランス］を選択し、▶ ボタンを押す

2 ▲▼ ボタンで［M］、［CT］以外を選択する

- この状態でシャッターボタンを押して撮影することもできます。

3 MENU/OK ボタンを押す

- 撮影画面に戻り、画面にマークが表示されます。



ADJ. レバーで設定する

セットアップメニューの［ADJ. レバー設定 1/2/3/4］に［ホワイトバランス］を登録しておくと（☞P.141）、ADJ. モードでホワイトバランスを設定できます。

1 撮影モードで ADJ. レバーを押す

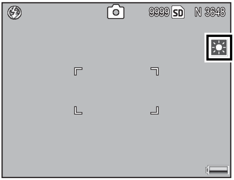
2 ホワイトバランスが表示されるまで ADJ. レバーを左右にたおすか ◀▶ ボタンを押す

3 ▲▼ ボタンで［M］、［CT］以外を選択する

- この状態でシャッターボタンを押して撮影することもできます。

4 ADJ. レバーまたは MENU/OK ボタンを押す

- 撮影画面に戻り、画面にマークが表示されます。



注意 --

- 被写体に白色系の部分が少ないと、ホワイトバランスが合わないことがあります。被写体に白色系のものを入れて撮影してください。
- フラッシュ撮影の場合、［AUTO］以外ではホワイトバランスが合わないことがあります。［AUTO］でフラッシュ撮影をしてください。
- 連写を設定している場合は［マルチパターン AUTO］を選択していても自動的に［AUTO］に変更されます。

ホワイトバランスを手動設定する（手動設定）

1 撮影設定メニューまたは ADJ. レバーでホワイトバランスから［M］を選択する

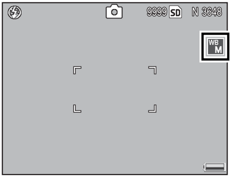
2 撮影する照明の下で、紙などの白い被写体にカメラを向ける



3 DISP. ボタンを押す

- ホワイトバランスが設定され、画面が再表示されます。

4 MENU/OK ボタンを押す



- 撮影画面に戻り、画面にマークが表示されます。
- 思いどおりにならなかった場合は、手順 1 ～ 3 を繰り返すと、何度でも設定変更ができます。

メモ --

手動設定を解除するには、上記の手順 1 で［M］以外を選択します。

ホワイトバランスを詳細設定する（詳細設定）

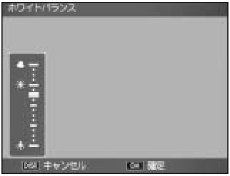
1 撮影設定メニューまたは ADJ. レバーでホワイトバランスから［CT］を選択し、DISP. ボタンを押す

- ホワイトバランスの詳細設定画面が表示されます。



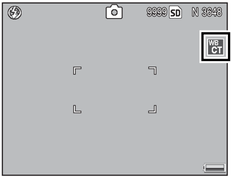
2 ▲▼ ボタンで値を設定する

3 MENU/OK ボタンを押す



4 MENU/OK ボタンを押す

- 撮影画面に戻り、画面にマークが表示されます。



メモ --

詳細設定を解除するには、上記の手順 1 で［CT］以外を選択します。

ホワイトバランスの色調を補正する（ホワイトバランス補正）

撮影設定メニュー（☞P.61）の［ホワイトバランス補正］で、ホワイトバランスを補正できます。

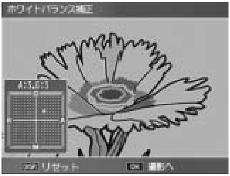
［ホワイトバランス］（☞P.94）で設定しているホワイトバランスモードの色調を、グリーン、マゼンタ、ブルー、アンバーの色の強さを補正することで微調整できます。補正の値は、その後ホワイトバランスモードを変更しても、変更後のホワイトバランスモードに対して同じ値で適用されます。

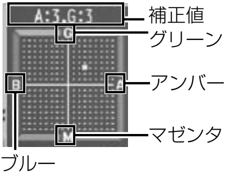
1 撮影設定メニューで［ホワイトバランス補正］を選択し、▶ボタンを押す

- 左下にホワイトバランス補正マップが表示されます。

2 ▲▼◀▶ ボタンでホワイトバランス補正マップのポイント位置を調整する

- ポイントの動きに合わせて、それぞれの色合いの色調に補正されます。
- 補正中の色調をリセットしたい場合は、DISP. ボタンを押します。
- ホワイトバランス補正をキャンセルしたい場合は、リセットされた状態でDISP. ボタンを押します。
- この状態でシャッターボタンを押して撮影することもできます。





3 MENU/OK ボタンを押す

- 画面にマークが表示されます。

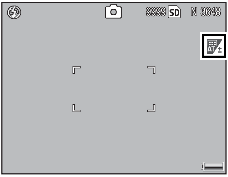
注意 --

- セットアップメニューの［ADJ. レバー設定 1/2/3/4］（☞P.141）で［WB 補正］を設定している場合は、ADJ. モード画面で［WB 補正］を選択して MENU/OK ボタンを押すと、ホワイトバランス補正マップが表示されます。設定画面で［リセット］を選択して MENU/OK ボタンを押すと、補正値がリセットされます。



- ［Fn1 ボタン設定］または［Fn2 ボタン設定］（☞P.143）で［WB 補正］を設定している場合は、Fn（ファンクション）1 または Fn2 ボタンを押すとホワイトバランス補正マップが表示されます。
- シーンモードでは、［動画］と［ダイナミックレンジダブルショット］の場合のみ使用できます。
- 再生モードの［ホワイトバランス補正］（☞P.122）とは補正値が異なります。

ホワイトバランス補正を設定すると、画面にマークが表示されます。



撮影感度を設定する（ISO 感度）

撮影設定メニュー（☞P.61）の［ISO 感度］または ADJ. レバーで、ISO 感度を設定できます。

選択できるモードは以下の種類です。

設定項目	内容
AUTO	距離／明るさ／マクロ／画質・サイズによってカメラが自動的に感度を変化させます。
AUTO-HI（高感度設定オート）	撮影の状況に合わせて感度が自動的に設定されますが、［AUTO］よりも感度の上限を高く設定できます。暗い被写体などを撮影した場合、シャッタースピードが［AUTO］より速くなるので、手ブレや被写体ブレが起こりにくくなります。［AUTO-HI］の ISO 感度の上限は、セットアップメニューで設定します（☞P.151）。
ISO 64 ～ ISO 1600	設定した ISO 感度で撮影します。

ISO 感度について ---

ISO 感度とは、カメラの光に対して反応する敏感さを表します。ISO 感度の数字が大きいほど高感度になります。高感度は、暗い場所や動きの速いものを撮影するときに適し、手ブレが起こりにくくなります。

ADJ. レバーで設定する

セットアップメニューの［ADJ. レバー設定 1/2/3/4］に［ISO］を登録しておくと（☞P.141）、ADJ. モードで ISO 感度を設定できます。

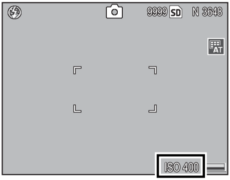
1 撮影モードで ADJ. レバーを押す

2 ISO 感度が表示されるまで ADJ. レバーを左右にたおすか ◀▶ ボタンを押す

3 ▲▼ ボタンで設定を選択する

4 ADJ. レバーまたは MENU/OK ボタンを押す

- 画面に設定値が表示されます。



メモ

- ［AUTO］または［AUTO-HI］の場合、シャッターボタン半押し時にISO 感度が表示されます。表示は実際の ISO 感度とは異なる場合があります（フラッシュ使用時など)。
- ISO 感度を高くすると、画像が粗くなる場合があります。
- ［AUTO］でフラッシュを使用すると、ISO125 相当の感度になります。
- ［AUTO］でフラッシュを使用しない場合の ISO 感度の範囲は下表のとおりです。

画素数	定常感度	最小感度	最大感度
640	100	64	283
1280	100	64	238
2048	100	64	176
2592	100	64	154
3264	100	64	154
3648	100	64	154

撮影設定メニューの設定を元に戻す（撮影設定初期化）

撮影設定メニューの設定を初期値に戻すには、撮影設定メニュー（☞P.61）の［撮影設定初期化］を使用します。

1 モードダイヤルを 📷 に合わせて MENU/OK ボタンを押す

2 撮影設定メニューで［撮影設定初期化］を選択し、▶ ボタンを押す

- 確認のメッセージが表示されます。



3 ［はい］が選択されていることを確認して、MENU/OK ボタンを押す

- 初期化中のメッセージが表示され、完了すると撮影モードの画面に戻ります。

メモ

各項目の初期設定については、P.62 を参照してください。

自動的に絞り値を大きくして露出補正する（絞り自動シフト）

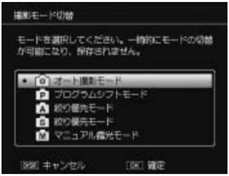
A（絞り優先）モード（☞P.48）の場合に、撮影設定メニュー（☞P.61）の［絞り自動シフト］を［ON］に設定すると、露出オーバーの場合、カメラが自動的に適正露出が得られるよう絞り値を調整します。

メモ --

モードダイヤルを A 以外に合わせているときは、［絞り自動シフト］は表示されません。

マイセッティングモード時の撮影モードを切り替える（撮影モード切替）

撮影設定メニュー（☞P.61）の［撮影モード切替］では、マイセッティングモード（☞P.60）の場合に、モードダイヤルを回すことなく撮影モードを一時的に変更できます。



メモ --

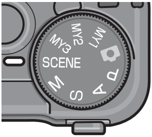
モードダイヤルを MY1 ～ MY3 以外に合わせているときは、［撮影モード切替］は表示されません。また、［マイセッティング登録］で設定した撮影モードがシーンモードの場合は、モードダイヤルを MY1 ～ MY3 に合わせていても、［撮影モード切替］は表示されません。

動画を撮影する

音声付き動画を撮影できます。撮影した動画は、1 つの AVI ファイルとして記録されます。

1 モードダイヤルを SCENE に合わせる

- 撮影できる状態になり、選択されているシーンモードの種類が画像モニター上部に表示されます。

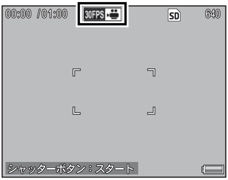


2 MENU/OK ボタンを押して ▲▼ ボタンで 〔動画〕 を選択する



3 MENU/OK ボタンを押す

- 画面に動画マークが表示されます。



4 シャッターボタンを押して動画撮影を開始する

5 シャッターボタンを押して動画撮影を終了する

注意 --

- 動画撮影中に操作音が記録されることがあります。
- 1 回あたりの撮影可能時間は、ご使用のカードにより異なります（☞P.192）。また撮影可能時間内でも、ご使用のカードによっては、撮影を終了する場合があります。
- 1 回の撮影で記録可能な動画は、最大 90 分または最大 4GB までです。

メモ

- フラッシュは発光禁止になります。
- 手順4でシャッターボタンを押した時点で、ピント合わせが行われます。
- 残り記録時間は、動画記録中にメモリーの残容量から再計算されるため、時間の変化が一定ではないことがあります。
- 動画モード時には、撮影設定メニュー項目が異なります（☞P.63）。
- 充分に残量のある電池または AC アダプター（別売り）のご使用をお勧めします。
- 長時間撮影される場合は、充分に空き容量のある SD メモリーカードまたは高速メモリーカードのご使用をお勧めします。

画像サイズ（動画サイズ）／フレーム数（フレームレート）を設定する

動画モードの画像サイズ（動画サイズ）と 1 秒間に撮影されるフレーム数（フレームレート）を設定します。

1 シーンモードで 🎥［動画］を選択する

2 ◀ ボタンで［MODE］タブを選択し、▼ ボタンで撮影設定メニューを表示して ▶ ボタンを押す

- 撮影設定メニューが表示されます。

3 ［動画サイズ］または［フレームレート］を選択し、▶ ボタンを押す

4 設定したい設定項目を選択する

- **［動画サイズ］の場合**
  ［640］または［320］
- **［フレームレート］の場合**
  ［30 コマ／秒］または［15 コマ／秒］



5 MENU/OK ボタンを押す、または ◀ ボタンを押して MENU/OK ボタンを押す

- 画面に設定値が表示されます。

動画のフレーム --

動画はたくさんの静止画が撮影されたフレーム（コマ）で構成され、それらが高速で表示されるために動いているように見えます。

メモ --

- 動画の記録時間は、記録先（内蔵メモリーまたはメモリーカード）の容量や撮影条件、メモリーカードのメーカーや種類によって異なることがあります。
- 記録可能時間の合計の目安は、P.192 を参照してください。1 回の撮影で記録可能な動画は、最大 90 分または最大 4GB までです。

🎥 動画を再生する

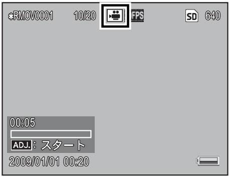
動画を再生するには、以下のように操作します。

1 ▶（再生）ボタンを押す

- 最後に撮影したファイルまたは最後に表示したファイルが表示されます。
- 動画の場合には、最初の 1 フレームが静止画像で表示されます。

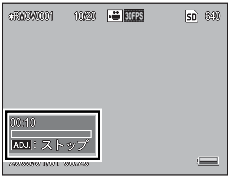
2 見たい動画を選択する

- 🎥 マークがついているファイルが動画ファイルです。



3 ADJ. レバーを押す

- 再生が始まります。画像モニターに、再生経過を示すインジケーターや経過時間が表示されます。



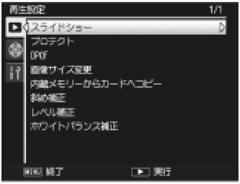
早送り	再生中に 🔍 ボタンを押し続ける
巻き戻し	再生中に ▦ ボタンを押し続ける
一時停止／再生	ADJ. レバーを押す
スロー再生	一時停止中に 🔍 ボタンを押し続ける
スロー戻し	一時停止中に ▦ ボタンを押し続ける
次のフレームの表示	一時停止中に 🔍 ボタンを押す
前のフレームの表示	一時停止中に ▦ ボタンを押す
音量を調節する	再生中／一時停止中に ▲▼ ボタンを押す

再生設定メニューについて

再生モードで MENU/OK ボタンを押すと、再生設定メニューが表示されます。

再生設定メニューの操作方法

1 ▶（再生）ボタンを押して、再生モードにする



2 MENU/OK ボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

3 ▲▼ ボタンで設定する項目を選択する

4 ▶ ボタンを押す

- 各設定項目の画面が表示されます。

再生設定メニュー項目

設定項目	参照先
スライドショー	P.108
プロテクト	P.109
DPOF	P.112
画像サイズ変更	P.115

設定項目	参照先
内蔵メモリーからカードへコピー	P.116
斜め補正	P.117
レベル補正	P.119
ホワイトバランス補正	P.122

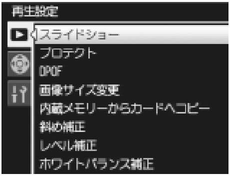
メモ --

再生設定メニューからセットアップメニューを表示できます（☞P.132）。

自動的に順に表示する（スライドショー）

撮影した静止画や動画を、順番に画像モニターに表示（スライドショー）できます。

再生設定メニューの［スライドショー］で▶ボタンを押すと、スライドショーが開始します。



途中で中止したいときには、カメラのいずれかのボタンを押します。中止するまで、繰り返しスライドショーが続きます。

メモ --

- 静止画は3秒間表示されます。
- 動画は1フレームだけではなく、撮影した内容がすべて表示されます。

削除できないように設定する（プロテクト）

再生設定メニュー（☞P.107）の［プロテクト］では、ファイルを誤って削除しないように保護（プロテクト）できます。

注意 --

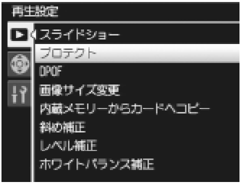
初期化を行うとプロテクト設定の有無にかかわらず、すべて削除されます。

1ファイルをプロテクトする

1 再生モードでプロテクトしたい画像を表示して、MENU/OKボタンを押す

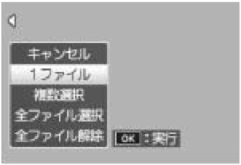
・再生設定メニューが表示されます。

2 ［プロテクト］を選択し、▶ボタンを押す



3 ［1ファイル］が選択されていることを確認して、MENU/OKボタンを押す

・◀▶ボタンを押すと、ファイルを選択できます。



・プロテクトが設定され、画面にマークが表示されます。

・プロテクトした画像を表示して、手順1から操作を繰り返すとプロテクトが解除されます。プロテクトを解除すると、画面からマークが消えます。



複数のファイルを一度にプロテクトする

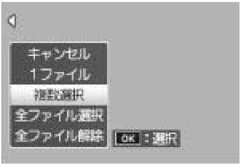
複数のファイルに対して一度にプロテクトの設定を行うには、個別にファイルを指定する方法と範囲を指定する方法があります。

個別に指定する場合

1 再生設定メニューで［プロテクト］を選択し、▶ ボタンを押す

2 ［複数選択］を選択し、MENU/OK ボタンを押す

- 再生モードを一覧表示にしている場合は、この操作は不要です。



3 ［1 枚ずつ指定］を選択し、MENU/OK ボタンを押す

4 ▲▼◀▶ ボタンでファイルを選択して MENU/OK ボタンを押す

- プロテクトの設定をしたいファイルをすべて選択します。
- プロテクトを解除する場合は、ファイルを選択して MENU/OK ボタンを再度押します。
- ADJ. レバーを押すと、範囲を選択する画面に切り替わります。

5 Fn（ファンクション）2 ボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、設定が完了すると、一覧の画面に戻ります。

範囲を指定する場合

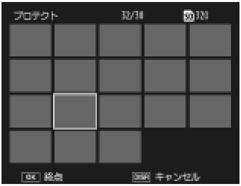
1 再生設定メニューで［プロテクト］を選択し、▶ ボタンを押す

2 ［複数選択］を選択し、MENU/OK ボタンを押す

- 再生モードを一覧表示にしている場合は、この操作は不要です。

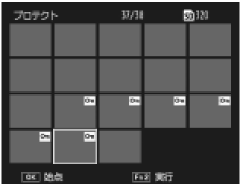
3 ［範囲を指定］を選択し、MENU/OK ボタンを押す

4 ▲▼◀▶ ボタンで始点となるファイルを選択して MENU/OK ボタンを押す



- 間違えて選択したときには、DISP. ボタンを押すと再度選択できます。
- ADJ. レバーを押すと、個別に選択する画面に切り替わります。

5 ▲▼◀▶ ボタンで終点となるファイルを選択して MENU/OK ボタンを押す



- 手順 4 と 5 を繰り返して、範囲をすべて指定します。
- すでにプロテクトの設定がされているファイルは、プロテクトが解除されます。

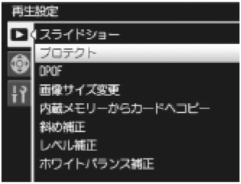
6 Fn2 ボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、設定が完了すると、一覧の画面に戻ります。

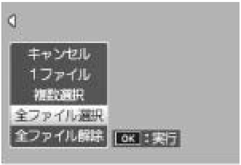
すべてのファイルをプロテクト／解除する

すべてのファイルにプロテクトを設定するには、以下のように操作します。

1 再生設定メニューで［プロテクト］を選択し、▶ ボタンを押す



2 ［全ファイル選択］または［全ファイル解除］を選択する



プリントサービスを利用する（DPOF：ディーポフ）

メモリーカードに記録した静止画は、デジタルカメラプリントサービス取り扱い店やプリンターでプリントできます。プリントに必要な情報は、再生設定メニュー（☞P.107）の［DPOF］で設定します。

メモ

RAWモードで撮影した画像は、JPEGファイルにのみDPOF設定されます。

DPOFとは

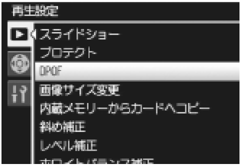
DPOF（Digital Print Order Format）は印刷する静止画の選択や、印刷枚数を設定できるフォーマットです。デジタルカメラプリントサービス取り扱い店やプリンターがDPOFに対応しているかご確認ください。

表示している静止画にDPOF設定／解除する

1 再生モードで設定したい静止画を表示して、MENU/OKボタンを押す

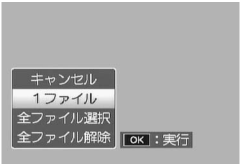
- 再生設定メニューが表示されます。

2 ［DPOF］を選択し、▶ボタンを押す



3 ［1ファイル］を選択して、MENU/OKボタンを押す

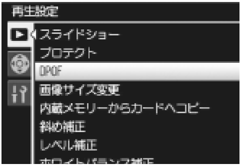
- ◀▶ボタンでファイルを選択できます。
- DPOFが設定され、画面にDPOF設定を示すマークが表示されます。DPOF設定を解除すると、画面からマークが消えます。



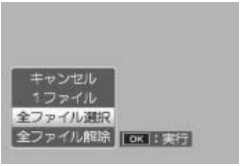
すべての静止画に DPOF 設定／解除する

すべての静止画に対して DPOF 設定をするには、以下のように操作します。

1 再生設定メニューで［DPOF］を選択し、▶ ボタンを押す



2［全ファイル選択］または［全ファイル解除］を選択する



3 MENU/OK ボタンを押す

- DPOF が設定され、画面に DPOF 設定を示すマークが表示されます。DPOF 設定を解除すると、画面からマークが消えます。

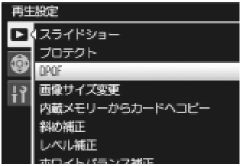
複数の静止画に DPOF 設定する

選択した静止画に対して、一度に DPOF 設定を行うには、以下のように操作します。

1 再生モードで一覧表示にして、MENU/OK ボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

2 [DPOF] を選択し、▶ ボタンを押す



3 ◀▶ ボタンで DPOF 設定をしたい静止画を選択し、▲▼ ボタンで印刷枚数を指定する

- DPOF を設定した静止画に DPOF 設定を示すマークが表示されます。
- DPOF 設定をしたい静止画をすべて選択します。

4 MENU/OK ボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、設定が完了すると、一覧の画面に戻ります。

メモ ---

- 複数のファイルの DPOF 設定を解除するには、上記の手順で、解除したいファイルの印刷枚数を [0] に指定して MENU/OK ボタンを押します。
- 一度にすべての DPOF 設定を解除することもできます（☞P.113）。

画像サイズを縮小する（画像サイズ変更）

再生設定メニュー（☞P.107）の［画像サイズ変更］では、撮影した静止画の画像サイズを縮小して、画像サイズの異なるファイルを追加作成できます。

元のサイズ					変更可能なサイズ	
F3648	N3648	F3:2	N3:2	F1:1	N1280	N640
N1:1	N3264	N2592	N2048			
N1280					N640	

注意 --

- 動画は画像サイズを変更できません。
- RAW モードで撮影した画像は、画像サイズを変更できません。

メモ --

- ［F3:2］、［N3:2］の画像をリサイズした場合、上下が黒く表示された 4:3 の比率の画像にして縮小されます。
- ［F1:1］、［N1:1］の画像をリサイズした場合、左右が黒く表示された 4:3 の比率の画像にして縮小されます。
- 画像サイズは撮影時にも変更できます（☞P.65）。

内蔵メモリーの静止画や動画をカードへコピーする（内蔵メモリーからカードへコピー）

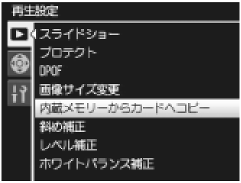
再生設定メニュー（☞P.107）の［内蔵メモリーからカードへコピー］では、内蔵メモリーに記録した静止画や動画をメモリーカードへコピーできます。

1 メモリーカードをセットする

- メモリーカードのセット方法については、P.19をご覧ください。

2 再生設定メニューで［内蔵メモリーからカードへコピー］を選択し、▶ボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、コピーが完了すると、再生画面に戻ります。



メモ

- コピー先のメモリーカードの容量が足りない場合には、容量不足を示すメッセージが表示されます。容量に収まる枚数だけコピーする場合は［はい］を選択し、コピーを取り消す場合は［いいえ］を選択して MENU/OK ボタンを押してください。
- メモリーカードから内蔵メモリーへのコピーはできません。

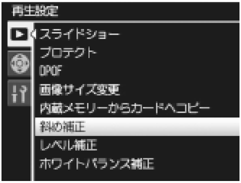
斜めから撮影した画像を補正する（斜め補正）

再生設定メニュー（☞P.107）の［斜め補正］では、斜め方向から撮影した掲示板や名刺などの四角い被写体を、正面から撮影したような画像に変換できます。

1 再生モードで斜め補正したいファイルを表示して、MENU/OK ボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

2 ［斜め補正］を選択し、▶ ボタンを押す



- 処理中のメッセージが表示され、補正対象として認識した最大 5 つのエリアがオレンジ枠で表示されます。
- エリアが検出できなかった場合は、エラーメッセージが表示されます。
- 別の補正エリアを選択する場合は、▶ ボタンを押して目的のエリアまでオレンジ枠を移動します。
- 変換をキャンセルする場合は、▲ ボタンを押します。

3 MENU/OK ボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、変換後の画像が記録されます。変換前の画像も残ります。

注意 --

- 斜め補正できるのは、本カメラで撮影した静止画です。
- 動画、S 連写、M 連写で撮影した画像は、斜め補正できません。
- RAW モード（☞P.66）で撮影した画像は、同時記録された JPEG ファイルのみ斜め補正されます。

メモ

- 斜め補正しても、画像サイズは変わりません。
- 画像サイズが大きい場合は、補正処理に時間がかかります。斜め補正の前に画像をリサイズしておくと（☞P.115）、処理速度を早くできます。
- 斜め補正処理にかかる時間の目安は、以下のとおりです。

画像サイズ	補正時間
3648 × 2736	約 21 秒
3264 × 2448	約 17 秒
2592 × 1944	約 12 秒
2048 × 1536	約 8 秒
1280 × 960	約 5 秒
640 × 480	約 2 秒

- 撮影時にシーンモードの［斜め補正］を選択すると、撮影直後に画像を斜め補正できます（☞P.58）。

画像の明度、コントラストを補正する（レベル補正）

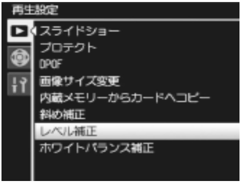
再生設定メニュー（☞P.107）の［レベル補正］では、撮影した静止画の明度やコントラストを、［AUTO］または［MANUAL］で補正して記録できます。［MANUAL］では、ヒストグラム（☞P.44）を調整しながら画像を補正します。

自動で補正する

1 再生モードでレベル補正したいファイルを表示して、MENU/OK ボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

2 ［レベル補正］を選択し、▶ ボタンを押す



3 ［AUTO］を選択し、▶ ボタンを押す



- 左上に元画像、右に補正画像が表示されます。
- レベル補正できないファイルを選択すると、エラーメッセージが表示されて再生設定メニューに戻ります。
- レベル補正をキャンセルしたい場合は、DISP. ボタンを押します。

4 MENU/OK ボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、補正後の画像が記録されます。補正前の画像も残ります。

手動で補正する

1 再生モードでレベル補正したいファイルを表示して、MENU/OK ボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

2 ［レベル補正］で［MANUAL］を選択し、▶ ボタンを押す

- 左上に元画像、右に補正画像が表示されます。
- レベル補正できないファイルを選択すると、エラーメッセージが表示されて再生設定メニューに戻ります。
- レベル補正をキャンセルしたい場合は、DISP. ボタンを押します。

3 ADJ. レバーを押してヒストグラム下のポイントを切り替える

- ヒストグラムの縦軸は画素数、横軸は左からシャドー（暗い）、中間調、ハイライト（明るい）という明るさの階調を表しています。ADJ. レバーを押すと、左端、中央、右端のポイントを切り替えられます。



ポイント

- この画面で Fn（ファンクション）2 ボタンを押すと、操作方法の説明画面が表示されます。再度 Fn2 ボタンを押すと、元の画面に戻ります。

4 ◀▶ ボタンでポイントの位置を調整し、画像を補正する

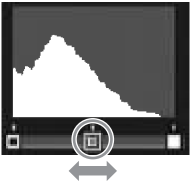
- 左右のポイントの位置を移動すると、中央のポイントも移動します。

5 MENU/OK ボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、補正後の画像が記録されます。補正前の画像も残ります。

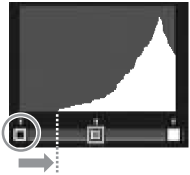
補正方法例

例 1)画像の全体的な明るさを調整したい場合:



- 中央のポイントを選択して左に移動すると、画像が全体的に明るくなります。
- 中央のポイントを右に移動すると、画像が全体的に暗くなります。

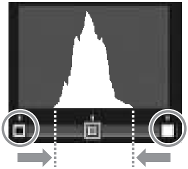
例 2)露出オーバーまたは露出アンダーの画像を補正したい場合:



露出オーバーの場合

- 露出オーバーの場合は、左側のポイントを右に移動し、ヒストグラムの山の左端に合わせます。
- 露出アンダーの場合は、右側のポイントを左に移動し、ヒストグラムの山の右端に合わせます。
- この状態で中央のポイントを左右に移動すると、全体的な明るさを調整できます。

例 3)画像のコントラストをはっきりさせたい場合:



- ヒストグラムの山が中央寄りに集中しています。左右のポイントを移動してそれぞれヒストグラムの両端に合わせると、明るい部分と暗い部分がはっきりした画像になります。
- この状態で中央のポイントを左右に移動すると、全体的な明るさを調整できます。

注意

- レベル補正できるのは、本カメラで撮影した静止画です。
- 動画、S 連写、M 連写で撮影した画像は補正できません。
- シーンモードの[文字]で撮影した画像、[画像設定]を[白黒]または[白黒 (TE)]に設定して撮影した画像は、補正効果がない場合があります。
- レベル補正は繰り返し実行できますが、画像を再圧縮するため、画質は劣化します。

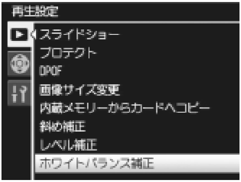
ホワイトバランスを補正する（ホワイトバランス補正）

再生設定メニュー（☞P.107）の［ホワイトバランス補正］では、撮影した静止画の色調を、グリーン（G）、マゼンタ（M）、ブルー（B）、アンバー（A）それぞれの色合いに補正して記録できます。

1 再生モードでホワイトバランス補正したいファイルを表示して、MENU/OK ボタンを押す

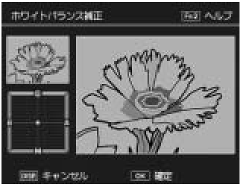
- 再生設定メニューが表示されます。

2 ［ホワイトバランス補正］を選択し、▶ ボタンを押す



- ホワイトバランス補正できないファイルを選択すると、エラーメッセージが表示されて再生設定メニューに戻ります。

3 ▲▼◀▶ でホワイトバランス補正マップのポイントの位置を調整する



- 補正中の色調をリセットしたい場合は、DISP. ボタンを押します。
- ホワイトバランス補正をキャンセルしたい場合は、リセットされた状態で DISP. ボタンを押します。
- この画面で Fn（ファンクション）2 ボタンを押すと、操作方法の説明画面が表示されます。再度 Fn2 ボタンを押すと、元の画面に戻ります。

4 MENU/OK ボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、補正後の画像が記録されます。補正前の画像も残ります。

注意 --

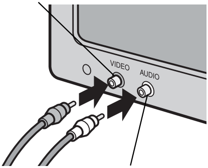
- ホワイトバランス補正できるのは、本カメラで撮影した静止画です。
- 動画、S 連写、M 連写で撮影した画像は補正できません。
- シーンモードの［文字］で撮影した画像、［画像設定］を［白黒］または［白黒 (TE)］に設定して撮影した画像は、補正効果がない場合があります。
- ホワイトバランス補正は繰り返し実行できますが、画像を再圧縮するため、画質は劣化します。

テレビの画面で見る

付属の AV ケーブルでカメラとテレビを接続すると、撮影したファイルをテレビの画面に表示できます。

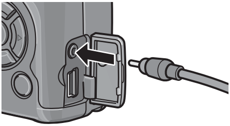
1 テレビのビデオ入力端子に AV ケーブルをしっかり接続する

- AV ケーブルの白色のプラグを音声入力端子（白色）に、黄色のプラグを映像入力端子（黄色）に差し込んでください。



2 カメラの電源がオフになっていることを確認する

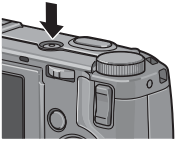
3 端子カバーを開けて AV 出力端子に AV ケーブルをしっかり接続する



4 テレビを「ビデオ」が表示できる状態にする（入力モードを「ビデオ」にする）

- 詳しくはテレビの説明書を参照してください。

5 POWER（電源）ボタンを押す、または ▶（再生）ボタンを約 1 秒以上押し続けて、カメラの電源をオンにする



注意 --

- 本カメラをテレビと接続している間は画像モニターの表示はオフ（消えた状態）になり、スピーカーの音が消えます。
- AV ケーブルは無理に差し込まないでください。
- AV ケーブルを差し込んだ状態で、無理な力を加えないでください。
- AV ケーブルの使用中は、AV ケーブルを持ったままカメラを動かさないでください。

メモ --

- ビデオや DVD レコーダーのビデオ入力端子に AV ケーブルを接続して、撮影した内容をビデオや DVD に録画することもできます。
- テレビなどの機器でのビデオ方式は、NTSC 方式（日本などで使用されている方式）に設定されています。接続する機器が PAL 方式（ヨーロッパなどで使用されている方式）の場合は、PAL 方式に設定してから接続します（☞P.163）。ご購入時の設定は、国や地域によって異なります。

ダイレクトプリント機能について

ダイレクトプリントでは、カメラとプリンターを USB ケーブルで接続して、カメラ内の静止画をパソコンを使わずに直接プリンターから印刷できます。

注意 --

- 動画（.AVI）は、印刷できません。
- RAW モードで撮影した画像は、同時記録された JPEG ファイルのみ印刷されます。

メモ --

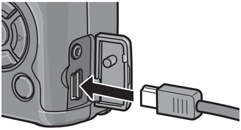
- 本カメラでは、ダイレクトプリントの統一規格である PictBridge（ピクトブリッジ）を採用しています。
- ダイレクトプリント機能を使うには、プリンターが PictBridge に対応している必要があります。ご使用のプリンターの説明書でご確認ください。

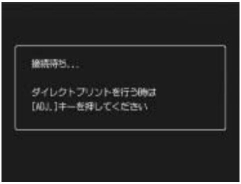
カメラとプリンターを接続する

カメラとプリンターの接続には、付属の USB ケーブルを使用します。

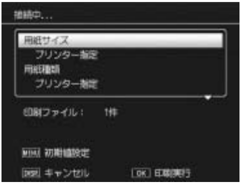
1 カメラの電源がオフになっていることを確認する

2 端子カバーを開けて付属の専用 USB ケーブルでカメラとプリンターを接続して ADJ. レバーを押す





- プリンターの電源がオフのときは、電源をオンにしてください。
- 自動的にカメラの電源がオンになり、［接続待ち...］画面が表示されたら、2 秒以内に ADJ. レバーを押してください。プリンターによっては、2 秒以上経過すると［PC 接続中 ...］と点滅表示され、カメラでは操作できなくなります。この場合は電源をオフにして、手順 1 からやり直してください。
- ダイレクトプリント再生モード画面が表示されます。
- ［接続中・・・］と表示されている間は、プリンターとの接続が完了していません。



注意

- USB ケーブルは無理に差し込まないでください。
- USB ケーブルを差し込んだ状態で、無理な力を加えないでください。
- USB ケーブルの使用中は、USB ケーブルを持ったままカメラを動かさないでください。

メモ

USB ケーブルを外すときは、印刷終了後にカメラの電源がオフになったことを確認してから外してください。

静止画を印刷する

PictBridge 対応プリンターでカメラの静止画を印刷します。

メモリーカードをセットしていない場合は内蔵メモリーの画像を、セットしている場合はメモリーカードの画像を印刷します。

注意 --

印刷が完了するまで、USB ケーブルを外さないでください。

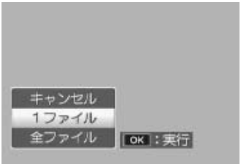
メモ --

送信中に［プリンターエラー］のメッセージが表示された場合は、プリンターの状態を確認し、印刷できる状態にしてください。

1 枚またはすべての静止画を印刷する

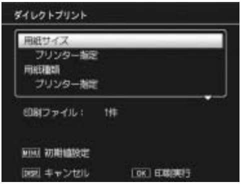
1 ダイレクトプリント再生モード画面で ◀▶ ボタンを押して印刷したい静止画を表示する

2 ADJ. レバーを押して表示されるメニューから［1 ファイル］または［全ファイル］を選択する



3 MENU/OK ボタンを押す

- ダイレクトプリントのメニューが表示されます。



4 項目を選択し、▶ボタンで詳細項目を表示する



- 選択できる項目は以下のとおりです。各項目に対応しているプリンターと接続しているときのみ有効です。詳細項目で［プリンター指定］を選択すると、プリンター側の設定値（初期値）で印刷されます。

設定項目	内容
用紙サイズ	用紙のサイズを設定します。
用紙種類	用紙の種類を設定します。
レイアウト	1 枚に印刷するコマ数を設定します。1 枚にレイアウトできるコマ数は、接続するプリンターによって異なります。
日付印字	日付（撮影日）の印字の有無を設定します。日付の書式は、セットアップメニューの日時設定で設定した書式になります。日付入れ撮影（☞P.92）をした静止画は、印刷時に自動で日付印字 OFF となって印刷されます。
ファイル名印字	ファイル名を印刷するかを設定します。
印刷補正	画像データ（静止画）をプリンター側で最適化して印刷するかを設定します。
画像印刷サイズ	印刷する画像のサイズを設定します。
印刷品質	印刷品質を設定します。
帳票印刷*	帳票印刷を行います（☞P.131）。
印刷部数	印刷部数を設定します。
トナーセーブ*	印刷を薄めにして、トナーを節約するかを設定します。
片面／両面*	両面で印刷するかを設定します。［両面］に設定すると、両面で印刷されます。両面印刷をする場合は、各静止画の印刷枚数は 1 枚となります。P.129 の手順 3 で印刷枚数を複数枚設定しても、1 枚のみ印刷されます。

＊各項目に対応しているリコープリンターと接続しているときのみ有効です。リコーのプリンターについての最新情報は、弊社ホームページ（http://www.ricoh.co.jp/office/）をご覧ください。

5 詳細項目を選択し、MENU/OK ボタンを押す

- ダイレクトプリントのメニューに戻ります。
- 手順 4 と 5 を繰り返して、変更したい項目の値を設定します。

メモ

手順 4 の画面で ADJ. レバーを押すと、右の画面が表示されます。設定した項目を次回接続時の初期値として設定する場合は［はい］を選択して、MENU/OK ボタンを押してください。［いいえ］を選択すると、次回接続時の各項目の設定は、最後に設定した値になります。



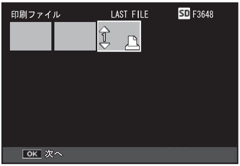
6 MENU/OK ボタンを押す

- 静止画がプリンターに送られ、［送信中 ...］画面が表示されます。
- 送信を中断したい場合には、DISP. ボタンを押してください。
- 送信が完了するとプリンターで印刷が開始され、カメラはダイレクトプリント再生モードの画面に戻ります。

複数の静止画を印刷する

1 ダイレクトプリント再生モードで ▦（サムネイル表示）ボタンを押して一覧表示にする

2 印刷したい画像を選択して、MENU/OK ボタンを押す



3 プリントする画像と印刷枚数を指定する

- ◀▶ ボタンで印刷する画像を選択して、▲▼ ボタンで印刷枚数を指定します。
- 印刷する画像には 🖶 が表示されます。

4 MENU/OK ボタンを押す

- ダイレクトプリントのメニューが表示されます。



5 項目を選択し、▶ ボタンで詳細項目を表示する

- 選択できる項目については、P.128 をご覧ください。

6 詳細項目を選択し、MENU/OK ボタンを押す

- ダイレクトプリントのメニューに戻ります。
- 手順 5 と 6 を繰り返して、変更したい項目の値を設定します。

7 MENU/OK ボタンを押す

- が表示されている画像が印刷されます。印刷を中止した場合はの表示を確認してください。
- 静止画がプリンターに送られ、［送信中 ...］画面が表示されます。
- 送信を中断したい場合には、DISP. ボタンを押してください。
- すべての静止画の送信が完了すると、カメラはダイレクトプリント再生モードの画面に戻ります。

帳票印刷する

ダイレクトプリントのメニューで［帳票印刷］を設定してください。

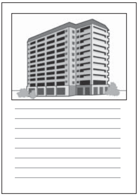
［帳票印刷］は、［用紙サイズ］を［A4］に設定し、PictBridge に対応しているリコーのプリンターと接続しているときのみ有効です。リコーのプリンターについての最新情報は、弊社ホームページ（http://www.ricoh.co.jp/office/）をご覧ください。

選択できるレイアウトは、接続するプリンターによって異なります。レイアウトはプリンターの説明書をご覧ください。

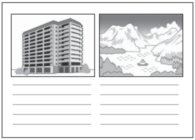
選択できるレイアウト例

1 コマ罫線あり	2 コマ罫線あり	3 コマ罫線あり	4 コマ罫線あり
1 コマ罫線なし	2 コマ罫線なし	3 コマ罫線なし	4 コマ罫線なし
工事写真 1	記事欄付 1	追加帳票 1 〜 10	

帳票印刷の例



1 コマ罫線あり



2 コマ罫線あり



工事写真 1

セットアップメニューについて

撮影設定メニュー（☞P.61）や再生設定メニュー（☞P.107）からセットアップメニューを表示して、カメラの設定変更ができます。

セットアップメニューには、キーカスタム設定タブとセットアップタブがあります。

セットアップメニューの操作方法

1 撮影モードまたは再生モードで MENU/OK ボタンを押す

- 撮影設定メニューまたは再生設定メニューが表示されます。
- シーンモードの場合、［MODE］タブが表示されます。

2 ◀ ボタンで画面左にあるタブを選択する

- 左側のタブが選択されます。

3 ▲▼ ボタンで画面を切り替える

- 上から撮影設定メニューまたは再生設定メニュー、キーカスタム設定タブ、セットアップタブの順に並んでいます。



セットアップタブ
キーカスタム設定タブ

4 ▶ ボタンでセットアップメニューの各項目の選択画面に入る

5 ▲▼ ボタンで設定する項目を選択する

- 一番下の項目で ▼ ボタンを押すと次の設定画面が表示されます。

6 ▶ ボタンを押す

- 設定項目の選択肢が表示されます。

7 ▲▼ ボタンで選択肢を選択する

8 MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押して MENU/OK ボタンを押す



- 撮影または再生画面に戻ります。
- 設定項目によっては、セットアップメニューが表示されることがあります。その場合は、再度 MENU/OK ボタンを押すと、撮影または再生画面に戻ります。

メモ --

機能によっては、選択肢の選択方法が異なる場合があります。詳しくは各機能の説明を参照してください。

キーカスタム設定タブ設定メニュー項目

設定項目	初期設定値	参照先
マイセッティング登録	—	P.135
マイセッティング呼び出し	—	P.137
マイセッティング編集	—	P.138
Fn 設定の MY 登録	OFF	P.140
ホワイトバランス補正の MY 登録	OFF	P.140
ADJ. レバー設定 1	ホワイトバランス	P.141
ADJ. レバー設定 2	ISO	P.141
ADJ. レバー設定 3	画質	P.141
ADJ. レバー設定 4	画像設定	P.141
ADJ シャッターボタン確定	OFF	P.142
Fn1 ボタン設定	AF/MF	P.143
Fn2 ボタン設定	セルフタイマー	P.143
ズームボタン設定	露出補正	P.146
電源ボタンランプ	ON	P.146
再生モード ダイヤル設定	設定 1	P.147
M モード ダイヤル設定	設定 1	P.147
M モードワンプッシュ動作	絞り優先	P.148

セットアップタブ設定メニュー項目

設定項目	初期設定値	参照先
初期化［カード］	—	P.149
初期化［内蔵メモリー］	—	P.149
画像モニター輝度調節	—	P.150
ISO AUTO-HI 設定	AUTO 400	P.151
AF 補助光	ON	P.151
オートパワーオフ	5 分	P.151
操作音	すべて	P.152
操作音音量設定	中［(■■□)］	P.152
画像確認時間	0.5 秒	P.153
ワンプッシュ拡大表示倍率	9.8 倍	P.153
縦横自動回転再生	ON	P.154
水準器設定	表示のみ	P.155
グリッドガイド表示設定	田	P.155
Fn ボタン設定表示	ON	P.156
マイセッティング名称表示	OFF	P.156
撮影情報表示フレーム	OFF	P.156
情報表示モード	OFF	P.157
CL-BKT 白黒 (TE)	ON	P.158
RAW 同時記録設定	FINE	P.159
色空間設定	sRGB	P.160
デジタルズーム切替	通常	P.160
メニューカーソル位置保持	OFF	P.161
カード連続 NO.	ON	P.162
日時設定	—	P.163
Language ／言語*	日本語	P.163
ビデオ方式*	NTSC	P.163

＊初期設定値は、国や地域によって異なります。

自分好みの設定を登録する（マイセッティング登録）

キーカスタム設定タブ（☞P.132）の［マイセッティング登録］では、現在のカメラの設定をマイセッティングとして登録できます。自分好みの設定を簡単に呼び出して撮影できます。

マイセッティングは［マイセッティング BOX］に 6 種類登録でき、モードダイヤルの［MY1］、［MY2］、［MY3］に割り当てられます（☞P.137）。

マイセッティングを登録する

1 カメラの設定をマイセッティングとして登録したい値に変更する

- 登録できる項目は以下の通りです。

カメラの設定

• 撮影モード（📷/P/A/S/M/SCENE）	• A / M モード時の絞り値
• S / M モード時のシャッター速度	• MF 時のフォーカス位置
• マクロモード	• フラッシュモード
• セルフタイマー	• DISP. モード

セットアップメニュー（☞P.132）

• Fn1 ボタン設定 /Fn2 ボタン設定*	• ISO AUTO-HI
• 水準器設定	• グリッドガイド表示設定
• 撮影情報表示フレーム	• CL-BKT 白黒 (TE)
• デジタルズーム切替	

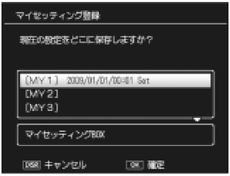
*［Fn1 ボタン設定］または［Fn2 ボタン設定］は、［Fn 設定の MY 登録］（☞P.140）を［ON］に設定した場合のみ、マイセッティングで保存されます。

- 撮影設定メニュー（☞P.61）の項目は、［インターバル撮影］、［絞り自動シフト］、［撮影モード切替］以外のすべての項目が登録できます。［ホワイトバランス補正］は、［ホワイトバランス補正の MY 登録］（☞P.140）を［ON］に設定すると、マイセッティングで保存されます。

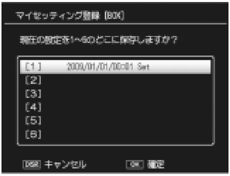
2 キーカスタム設定タブで［マイセッティング登録］を選択して▶ボタンを押す



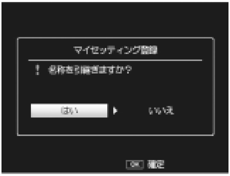
3 登録する場所を選択し、MENU/OKボタンを押す



- ［MY1］、［MY2］、［MY3］に登録すると、それぞれのモードダイヤルに割り付けられます。



- マイセッティングBOXに保存するには［マイセッティングBOX］を選択して▶を押し、設定［1］～［6］から登録する場所を選択してください。
- 空白の場所を選択すると、「日時 Set」の名称で登録されます。



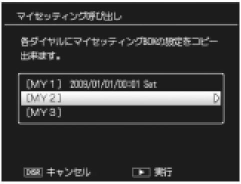
- すでに名称がついている場所を選択すると、名称設定の画面が表示されます。［はい］を選択すると、現在の名前のまま設定が登録されます。［いいえ］を選択すると、「日時 Set」の名称で登録されます。

- 登録しない場合は、DISP.ボタンを押してください。
- 現在のカメラの設定が登録され、セットアップメニューに戻ります。

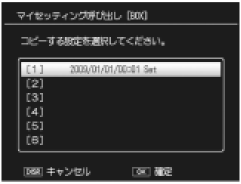
モードダイヤルにマイセッティング BOX の設定をコピーする（マイセッティング呼び出し）

キーカスタム設定タブ（☞P.132）の［マイセッティング呼び出し］では、モードダイヤルの［MY1］～［MY3］に割り付けるマイセッティングをマイセッティング BOX から選択して変更できます。

1 割り付けたいダイヤルを選択し、▶ボタンを押す



2 マイセッティング BOX から割り付けたい設定を選択し、MENU/OK ボタンを押す



- モードダイヤルに選択したマイセッティングが登録され、セットアップメニューに戻ります。
- 登録しない場合は、DISP. ボタンを押してください。

注意 --

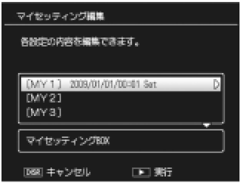
MY1 ～ MY3 をマイセッティング BOX から割り付けた場合、マイセッティング BOX の設定を編集する（☞P.138）と MY1 ～ MY3 の設定にも編集が反映されます。

マイセッティングを編集する（マイセッティング編集）

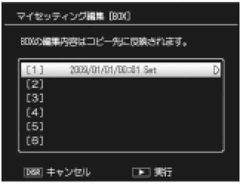
キーカスタム設定タブ（☞P.132）の［マイセッティング編集］では、MY1 ～ MY3 に割り付けたマイセッティングや、マイセッティングBOX に保存したマイセッティングの内容を編集できます。

1 編集したいマイセッティングを選択し、▶ ボタンを押す

- ［MY1］、［MY2］、［MY3］を選択すると設定項目一覧が表示されます。



- マイセッティング BOX に保存したマイセッティングを編集する場合は［マイセッティング BOX］を選択して▶を押し、設定［1］～［6］から選択します。



2 編集したい項目を選択し、▶ ボタンを押す

- ▲▼ ボタンで項目を選択します。
- 各項目の設定方法や内容は、それぞれの説明しているページを参照してください。



- ［マイセッティング名称］を選択すると、マイセッティングの名前を変更できます（☞P.139）。

3 ◀ ボタンで内容を決定する

- 他の設定を変更する場合は、手順 2 と 3 を繰り返します。

4 MENU/OK ボタンを押す

- マイセッティングの編集内容が保存され、セットアップメニューに戻ります。

マイセッティングの名称を変更する

マイセッティングの編集項目で［マイセッティング名称］を選択すると、自由にマイセッティング名を付けられます。

文字入力エリア



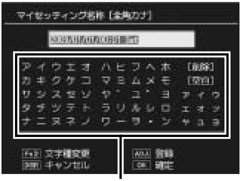
1 マイセッティング編集画面で［マイセッティング名称］を選択し、▶ ボタンを押す

- ［マイセッティング名称］画面が表示され、文字入力エリアに現在のマイセッティング名が表示されます。
- 現在のマイセッティング名は、すべての文字が選択された状態になっています。新規のマイセッティング名を付けたい場合は、このまま手順 3 にお進みください。

2 現在のマイセッティング名の一部を変更したい場合は、◀▶ ボタンを押す

- 文字がすべて選択されている状態が解除され、文字入力エリアにカーソルが表示されます。
- ◀▶ ボタンでカーソル位置を移動できます。

3 ▼ ボタンで文字選択エリアにカーソルを表示する



文字選択エリア

4 ▲▼◀▶ ボタンで文字を選択し、MENU/OK ボタンで決定する

- 文字入力エリアのカーソルがある位置に文字が挿入されます。
- 文字を削除したい場合は、文字入力エリアで削除する文字にカーソルを移動してから、［削除］を選びます。
- Fn（ファンクション）2 ボタンで文字種を変更できます。使用できる文字種はカタカナ、英数字です。
- 入力できる文字数は全角 16 文字、半角 32 文字までです。
- 名称変更をキャンセルする場合は、DISP. ボタンを押してください。

5 ADJ. レバーを押す

- マイセッティングの名称が決定します。

注意 --

MY1 ～ MY3 をマイセッティング BOX から割り付けた場合、マイセッティング BOX の設定を編集すると MY1 ～ MY3 の設定にも編集が反映されます。

MY1 ～ MY3 の設定を直接編集した場合、マイセッティング BOX の設定には編集は反映されません。また、その後マイセッティング BOX の設定を編集しても、MY1 ～ MY3 の設定には反映されなくなります。

マイセッティングに Fn ボタンの機能を保存するかを設定する（Fn 設定の MY 登録）

キーカスタム設定タブ（☞P.132）の［Fn 設定の MY 登録］を［ON］に設定すると、マイセッティング登録時に設定したファンクションボタンの設定（☞P.143）をマイセッティングに保存できます。

マイセッティングにホワイトバランス補正の設定を保存するかを設定する（ホワイトバランス補正の MY 登録）

キーカスタム設定タブ（☞P.132）の［ホワイトバランス補正の MY 登録］を［ON］に設定すると、マイセッティング登録時に設定したホワイトバランス補正（☞P.98）の値で撮影できます。

ADJ. レバーに機能を登録する（ADJ. レバー設定）

キーカスタム設定タブ（☞P.132）の［ADJ. レバー設定 1］～［ADJ. レバー設定 4］で ADJ. レバーに機能を登録すると、撮影設定メニューを表示することなく、簡単な操作で撮影に関するいろいろな設定が表示できます。使用頻度の高い機能を登録しておくと便利です。

ご購入時にはあらかじめ機能が登録されていますが、以下の機能に変更できます。

シーンモード以外の撮影モード

設定項目		参照先
OFF		–
露出補正		P.93
ホワイトバランス	※ご購入時［ADJ. レバー設定 1］の設定	P.94
WB 補正		P.98
ISO	※ご購入時［ADJ. レバー設定 2］の設定	P.100
画質	※ご購入時［ADJ. レバー設定 3］の設定	P.65
フォーカス		P.67
画像設定	※ご購入時［ADJ. レバー設定 4］の設定	P.77
測光		P.76
連写		P.80
オートブラケット		P.83
調光補正		P.87
マニュアル発光		P.30

シーンモード

シーンモード時は、以下の項目に固定されています。項目の変更はできません。

シーンモード	設定項目
動画	ホワイトバランス
文字	文字濃度
斜め補正	露出補正、ホワイトバランス
ダイナミックレンジダブルショット	露出補正、ホワイトバランス

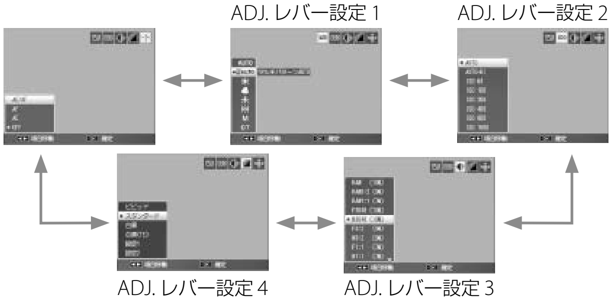
登録した機能を選択する

1 撮影モードで ADJ. レバーを押す

- ADJ. モードに切り替わります。

2 ADJ. レバーを左右にたおすか、◀▶ ボタンで設定したい項目を選択する

- 以下の画面は、［ADJ. レバー設定 1］～［ADJ. レバー設定 4］に［ホワイトバランス］、［ISO］、［画質］、［画像設定］を登録した場合の例です。



3 ▲▼ ボタンで値を選択する

4 ADJ. レバーまたは MENU/OK ボタンを押して確定する

メモ --

ADJ. レバーをたおし続けると、項目が高速で切り替わります。

ADJ. モード時にシャッターボタンで設定を確定する（ADJ シャッターボタン確定）

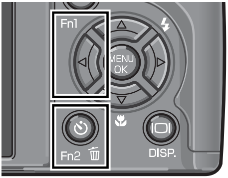
キーカスタム設定タブ（☞P.132）の［ADJ. シャッターボタン確定］を［ON］に設定すると、シャッターボタンを半押ししても ADJ. モードの設定を確定できます。

ファンクションボタンに機能を登録する（Fn1 ボタン設定／ Fn2 ボタン設定）

Fn（ファンクション）1 または Fn2 ボタンに機能を登録すると、Fn1 または Fn2 ボタンを押すだけで機能を切り替えたり、撮影設定メニューを表示できます。

Fn1 または Fn2 ボタンに機能を登録するには、キーカスタム設定タブ（☞P.132）の［Fn1 ボタン設定］または［Fn2 ボタン設定］で行います。

Fn1 ボタンは ◀ ボタン、Fn2 ボタンは ⏲ ボタンにそれぞれ割り当てられています。ご購入時は Fn1 ボタンに［AF/MF］、Fn2 ボタンに［セルフタイマー］が設定されています。



Fn1 または Fn2 ボタンに登録できる機能は、以下のとおりです。なお、シーンモードの○以外の項目は、［Fn1 ボタン設定］または［Fn2 ボタン設定］で登録はできますが、Fn1 または Fn2 ボタンを押しても動作しません。

設定項目	📷、M、S、A、P	シーンモード 動画	文字	斜め補正	DR*	参照先
AF/MF	○	○		○	○	P.144
AF/ スナップ	○	○		○	○	P.144
AE ロック	○		○	○	○	P.144
JPEG → RAW	○					P.144
カラー→白黒	○			○	○	P.144
カラー→ TE	○			○	○	P.144
露出補正	○			○	○	P.93
ホワイトバランス	○	○		○	○	P.94
WB 補正	○	○			○	P.98
ISO	○			○	○	P.100
画質	○	○	○	○	○	P.65、105
フォーカス	○	○		○	○	P.67

* ダイナミックレンジダブルショット

	📷、	シーンモード				
設定項目	M、S、A、P	動画	文字	斜め補正	DR*	参照先
画像設定	○			○	○	P.77
測光	○			○	○	P.76
連写	○					P.80
オートブラケット	○					P.83
マクロターゲット	○	○	○	○	○	P.72
調光補正	○			○		P.87
マニュアル発光	○					P.30
セルフタイマー	○		○	○	○	P.32

* ダイナミックレンジダブルショット

ファンクションボタンで機能を切り替える

設定項目	内容
AF/MF*1	［フォーカス］（☞P.67）でフォーカス方法をマルチ AF またはスポット AF、MF に設定している場合、フォーカス方法をマルチ AF と MF、またはスポット AF と MF を切り替えられます。
AF/ スナップ	［フォーカス］（☞P.67）でフォーカス方法をマルチ AF またはスポット AF、スナップに設定している場合、フォーカス方法をマルチ AF とスナップ、またはスポット AF とスナップを切り替えられます。
AE ロック*2	露出の固定（AE ロック）ができます。AE ロックを実行すると、露出が固定され画面に AEL マーク、絞り値、シャッタースピードが表示されます。
JPEG → RAW*3	［画質・サイズ］（☞P.65）で RAW 以外を選択している場合に、同じ縦横比の RAW に切り替えられます。
カラー→白黒	［画像設定］（☞P.77）を［白黒］以外に設定している場合に、［白黒］に切り替えられます。
カラー→ TE	［画像設定］（☞P.77）を［白黒 (TE)］以外に設定している場合に、［白黒 (TE)］に切り替えられます。

＊1　オートフォーカスの状態でフォーカスロック（☞P.26）をしたときに MF に切り替えることもできます。MF に切り替えると、フォーカスロックをした位置で撮影距離が固定されます。

＊2　マニュアル露光モードでは AE ロックは動作しません。Fn1 または Fn2 ボタンを押すと、適正露出付近（露出値インジケーターの中央部付近）に近づけるよう自動的に値を設定します。適正露出付近から露出値を変更したい場合などに便利です。

＊3　RAW に切り替えた場合の画像サイズは、［画質・サイズ］で選択している設定によって変わります。

［画質・サイズ］の設定			Fn1 または Fn2 ボタン
F3648(10M) N2592(5M) N640（VGA）	N3648(10M) N2048(3M)	N3264(8M) N1280(1M)	RAW(10M)
F3:2(9M)	N3:2(9M)		RAW3:2(9M)
F1:1(7M)	N1:1(7M)		RAW1:1(7M)
RAW(10M)	RAW3:2(9M)	RAW1:1(7M)	動作しない

ファンクションボタンで撮影設定メニューを表示する

［露出補正］～［セルフタイマー］に設定すると、各撮影設定メニューの設定を変更できます。詳しくは各機能の説明を参照してください。

ズームボタンに機能を登録する（ズームボタン設定）

キーカスタム設定タブ（☞P.132）の［ズームボタン設定］では、撮影モード時に Q/⊞ ボタンに割り当てる機能を選択できます。

設定項目	参照
OFF	—
デジタルズーム	P.28
露出補正	P.93
ホワイトバランス	P.94

注意 --

［画質・サイズ］（☞P.65）が RAW モードのときは、デジタルズームは使用できません。

電源ボタンのランプの点灯を設定する（電源ボタンランプ）

キーカスタム設定タブ（☞P.132）の［電源ボタンランプ］を［ON］に設定すると、電源をオンにした際に電源ボタンランプが点灯します。

ADJ. レバー／アップダウンダイヤルの機能を入れ替える（再生モード ダイヤル設定／M モード ダイヤル設定）

キーカスタム設定タブ（☞P.132）の［再生モード ダイヤル設定］では、再生モード時の ADJ. レバーとアップダウンダイヤルの機能を変更できます。

設定項目	ADJ. レバー	アップダウンダイヤル
設定 1	拡大時のコマ送り	ズーム倍率変更
設定 2	拡大時の左右移動	拡大時の上下移動





［M モード ダイヤル設定］では、M モード時の ADJ. レバーとアップダウンダイヤルの機能を変更できます。

設定項目	ADJ. レバー	アップダウンダイヤル
設定 1	シャッタースピード設定	絞り設定
設定 2	絞り設定	シャッタースピード設定





マニュアル露光モード時に絞り値やシャッタースピードを自動で適正値に近づける（M モードワンプッシュ動作）

キーカスタム設定タブ（☞P.132）の［M モードワンプッシュ動作］の設定により、マニュアル露光モード時の絞り値やシャッタースピードを自動的に適正値付近に近づけられます。

M モードワンプッシュ動作は、以下のいずれかの場合に有効です。

- ［ズームボタン設定］（☞P.146）で Q/⊞ ボタンに［露出補正］を設定
- ［Fn1 ボタン設定］または［Fn2 ボタン設定］（☞P.143）で Fn（ファンクション）1 または Fn2 ボタンに［AE ロック］を設定

設定項目	内容
絞り優先	Q/⊞ ボタンまたは Fn1 または Fn2 ボタンを押すと、絞り値が固定され、シャッタースピードを自動的に適正値付近に近づけます。
シャッター優先	Q/⊞ ボタンまたは Fn1 または Fn2 ボタンを押すと、シャッタースピードが固定され、絞り値を自動的に適正値付近に近づけます。
プログラム	Q/⊞ ボタンまたは Fn1 または Fn2 ボタンを押すと、シャッタースピードと絞り値を自動的に適正値付近に近づけます。

メモ --

［ズームボタン設定］で Q/⊞ ボタンに［露出補正］を設定したり、［Fn1 ボタン設定］または［Fn2 ボタン設定］で Fn1 または Fn2 ボタンに［AE ロック］を設定していても、マニュアル露光モードでは M モードワンプッシュ動作の機能のみ有効になります。

メモリーカード／内蔵メモリーを初期化する（初期化［カード］／初期化［内蔵メモリー］）

メモリーカードの初期化

以下の場合は、セットアップタブ（☞P.132）の［初期化［カード］］でメモリーカードを初期化してからご使用ください。

- 新しいメモリーカードを使用する場合
- パソコンなど他の機器で使用したメモリーカードを使用する場合
- ［使用できないカードです。］などのエラーメッセージが表示された場合

内蔵メモリーの初期化

［内蔵メモリーを初期化してください。］というエラーメッセージが表示されたら、セットアップタブ（☞P.132）の［初期化［内蔵メモリー］］で内蔵メモリーを初期化してください。

メモリーカード／内蔵メモリーの初期化が完了すると、セットアップタブに戻ります。

注意 --

- 内蔵メモリーやメモリーカードを初期化すると、内容がすべて消去されます。メモリーから消去したくない画像があるときは、パソコンにコピー（☞P.164）したりしてから初期化を行ってください。
- メモリーカードが入っていない状態で［初期化［カード］］を選択すると、エラーメッセージが表示されます。いったん電源をオフにしてから、メモリーカードをセットしてください。

誤ってメモリーカードの画像を消さないようにするには -----------

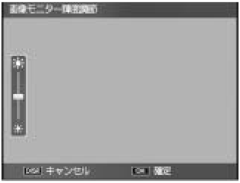
- カードの書き込み禁止スイッチを「LOCK」にすると、撮影や画像の削除、初期化ができなくなります（☞P.20）。
- 「LOCK」を解除するには、スイッチを元の位置に戻します。

画像モニターの明るさを調節する（画像モニター輝度調節）

セットアップタブ（☞P.132）の［画像モニター輝度調節］では、画像モニターの明るさを調整できます。

1 ▲▼ボタンで明るさを調節する

- インジケーターの目盛りを下に移動すると暗くなり、上に移動すると明るくなります。



2 設定したい明るさになったら、MENU/OK ボタンを押す

- セットアップメニューに戻ります。

3 MENU/OK ボタンを押す

メモ --

撮影モードで［画像モニター輝度調節］を選択すると、撮影画面で明るさ調節が行われます。再生モードで［画像モニター輝度調節］を選択すると、最後に表示した画像で明るさ調節が行われます。表示できる画像がない場合は、黒く表示された画面で輝度調節が行われます。

ISO AUTO-HIの設定を変える（ISO AUTO-HI設定）

セットアップタブ（☞P.132）の［ISO AUTO-HI設定］では、撮影設定メニューの［ISO感度］で設定する［AUTO-HI］（高感度設定オート）（☞P.100）のISO感度の上限を変更できます。

設定項目			
AUTO 200	AUTO 400	AUTO 800	AUTO1600

メモ --

ISO感度を高くすると、画像が粗くなる場合があります。

AF補助光の設定を変える（AF補助光）

セットアップタブ（☞P.132）の［AF補助光］を［ON］に設定すると、周囲が暗く、オートフォーカスでの測距が難しいときにAF補助光が発光し、AF測距を行います。

オートパワーオフの設定を変える（オートパワーオフ）

セットアップタブ（☞P.132）の［オートパワーオフ］では、自動的に電源がオフになる（オートパワーオフ）時間を設定できます。

設定項目			
OFF	1分	5分	30分

メモ --

パソコンまたはプリンターとの接続時、またはインターバル撮影時はオートパワーオフは動作しません。

操作音の設定を変える（操作音）

セットアップタブ（☞P.132）の［操作音］では、音の鳴る操作を指定できます。

カメラの操作中の操作音は、以下の 5 種類です。

起動音	カメラの電源をオンにしたときに鳴ります。
シャッター音	シャッターボタンを押したときに鳴ります。
フォーカスが合ったとき	シャッターボタンを半押しして、ピントが合ったときに「ピピッ」という音が鳴ります。
警告音	実行できない操作を行おうとしたときに「ピピピピピ」という音が鳴ります。
水準器音	［水準器設定］を［表示+音］または［音のみ］に設定している場合（☞P.33）、撮影モードでカメラが水平状態のときに、水準器音が一定間隔で鳴り続けます。

設定項目	内容
すべて	すべての操作音を鳴らす
水準器音	水準器音のみ鳴らす
シャッター音	シャッター音、警告音、水準器音のみ鳴らす

注意 --

実行できない操作を行おうとしたときは、［操作音］の設定にかかわらず警告音が鳴ります。

操作音の音量を変える（操作音音量設定）

セットアップタブ（☞P.132）の［操作音音量設定］では、操作音の音量を変更できます。

設定できる値			
□□□（なし）	■□□（音量小）	■■□（音量中）	■■■（音量大）

画像確認時間を変える（画像確認時間）

セットアップタブ（☞P.132）の［画像確認時間］では、撮影した直後に表示される静止画の表示時間を設定できます。

設定項目					
OFF	0.5 秒	1 秒	2 秒	3 秒	HOLD

メモ --

［HOLD］に設定すると、次にシャッターボタンを半押しするまで確認画像を表示し続けます。表示中の画像を拡大表示したり（☞P.38）、削除したり（☞P.39）できます。

再生モードで拡大表示する場合の倍率を変える（ワンプッシュ拡大表示倍率）

セットアップタブ（☞P.132）の［ワンプッシュ拡大表示倍率］では、再生モードで ADJ. レバーを押して拡大表示する（☞P.38）場合や、拡大表示中に MENU/OK ボタンを押して拡大表示する場合（☞P.38）の最大倍率を設定できます。

設定項目		
5.7 倍	9.8 倍	16 倍

メモ --

- 拡大表示で表示できる最大倍率は、選択している画像サイズ（☞P.65）によって異なります。

画像サイズ	拡大表示 (最大倍率)
3648 × 2736 ～ 2048 × 1536	16 倍
1280 × 960	6.7 倍
640 × 480	3.4 倍

- ファイルの画像サイズの最大倍率が、ワンプッシュ拡大表示倍率で設定した値以下の場合は、そのファイルの最大倍率になります。

再生画像の向きを自動補正する（縦横自動回転再生）

セットアップタブ（☞P.132）の［縦横自動回転再生］では、カメラの縦横の向きが撮影時と再生時で異なる場合に、再生する向きを自動補正するかどうかを設定します。

［ON］に設定すると、再生画像はカメラの縦横の向きに応じて自動回転して表示されます。

注意 --

- 以下の場合は、［縦横自動回転再生］を［ON］に設定しても、再生画像は自動回転されません。
  - 動画
  - S 連写、M 連写で撮影した画像
  - 一覧表示の場合（☞P.37）
  - カメラを前後に傾け過ぎている状態で撮影した画像
  - カメラを上下逆さま（シャッターボタンが下向きの状態）にして撮影または再生した場合
  - 拡大再生中にカメラの向きを変えた場合
  - 再生モードで斜め補正処理中（補正エリアが表示されている状態）の画像（☞P.117）
- スライドショー、テレビ再生中は［縦横自動回転再生］を［ON］に設定してもカメラを横向きに置いているものと認識され、自動回転されません。

メモ --

連写、オートブラケット、ホワイトバランスブラケット、カラーブラケットで撮影した画像は、1 枚目の画像の向きに合わせて自動回転されます。

水準器の確認方法を設定する（水準器設定）

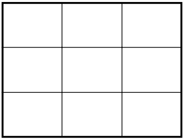
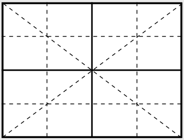
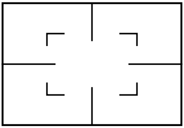
セットアップタブ（☞P.132）の［水準器設定］をオンにすると、カメラが水平かどうかを水平インジケーターや水準器音で確認できます。撮影時の水準器の使用方法については、P.33 を参照してください。

メモ ---

- 動画記録中、インターバル撮影中は、水準器は動作しません。
- ［操作音音量設定］を［□□□］（なし）に設定している場合、［水準器設定］を［表示＋音］または［音のみ］に設定しても、水準器音は鳴りません。

グリッドの種類を変える（グリッドガイド表示設定）

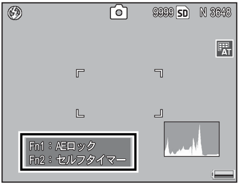
セットアップタブ（☞P.132）の［グリッドガイド表示設定］では、撮影モード時に表示するグリッドを設定できます。グリッドの表示方法は P.42 を参照してください。

設定項目	内容
	縦横に 3 分割します。3 分割構図作りに適したグリッドです。
	縦横に 4 分割し、対角線が入ります。被写体の中心が決めやすく、建築物や商品などの撮影に適したグリッドです。
	縦横に 2 分割したものをベースに、中心はグリッド線を省いて被写体を捉えやすくしています。動きのある被写体も捉えやすいグリッドです。

Fn ボタンの機能を確認する（Fn ボタン設定表示）

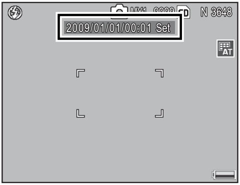
セットアップタブ（☞P.132）の［Fn ボタン設定表示］を［ON］に設定すると、以下の場合にファンクションボタンの設定を 2 秒間表示します。

電源オン時
再生モードから撮影モードに切り替え時
モードダイヤル変更時



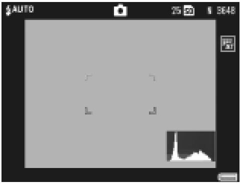
マイセッティングモード時にマイセッティング名を表示する（マイセッティング名称表示）

セットアップタブ（☞P.132）の［マイセッティング名称表示］を［ON］にすると、モードダイヤルを MY1 ～ MY3 に合わせたときに、各モードダイヤルに割り付けたマイセッティング名をモニターに表示します。



撮影情報表示フレームを表示する（撮影情報表示フレーム）

セットアップタブ（☞P.132）の［撮影情報表示フレーム］を［ON］に設定すると、マーク表示とヒストグラム表示（☞P.42）のときに、撮影情報フレームを表示できます。撮影情報表示フレームでは、撮影情報が被写体と重ならないため、撮影時に構図どりがしやすくなります。



メモ --

動画撮影時は撮影情報表示フレームは表示できません。

画像モニターオフ時に情報表示をする（情報表示モード）

セットアップタブ（☞P.132）の［情報表示モード］を［ON］にすると、撮影モードの画像モニターオフ時（☞P.42）でも、以下の場合には画像モニターに情報が表示されます。

外部ファインダーを使用しているために、画像モニター表示をオフにしている場合などに便利です。

- （セルフタイマー）ボタン／（マクロ）ボタンを押したとき
- モードダイヤルを切り替えたとき
- アップダウンダイヤルを回したとき
- ADJ. レバーを左右にたおしたとき
- Fn（ファンクション）1 または Fn2 ボタンを押したとき
- OPEN（フラッシュオープン）スイッチを押して、フラッシュをポップアップしたとき

情報表示後に数秒間操作を行わなかった場合、またはシャッターボタンを半押しした場合は情報表示が消えます。

メモ

- ［情報表示モード］の設定内容に関わらず、画像モニターオフ時でも、以下の操作をした場合は画像モニターがオンになります。
  - ADJ. レバー、MENU/OK ボタン、DISP. ボタン、（再生）ボタンを押した場合
  - ［ズームボタン設定］が［OFF］以外（☞P.146）で Q/ ボタンを押した場合
  - マニュアルフォーカス中に ▲▼ ボタンを押した場合
- 画像モニターオフ時の情報表示では、［水準器設定］を［表示のみ］または［表示 + 音］に設定しても（☞P.33）、水平インジケーターは表示されません。

CL-BKT 撮影時の記録画像を設定する（CL-BKT 白黒 (TE)）

［オートブラケット］で［CL-BKT］を選択して静止画を撮影すると（☞P.85）、白黒、カラー、白黒 (TE) の 3 枚、または白黒、カラーの 2 枚の画像を自動的に記録します。

セットアップタブ（☞P.132）の［CL-BKT 白黒 (TE)］では、白黒／カラー／白黒 (TE) の 3 枚の画像を記録するか、白黒／カラーの 2 枚の画像を記録するかをあらかじめ設定できます。

設定項目	内容
ON	撮影設定メニューの［オートブラケット］を［CL-BKT］に設定すると、白黒／カラー／白黒 (TE) の 3 枚の画像を記録します。
OFF	撮影設定メニューの［オートブラケット］を［CL-BKT］に設定すると、白黒／カラーの 2 枚の画像を記録します。

メモ --

［CL-BKT 白黒 (TE)］を［OFF］に設定しても、撮影設定メニューの［画像設定］を［白黒 (TE)］に設定している場合は、白黒／カラー／白黒 (TE) の 3 枚の画像を記録します。

RAW モード時の JPEG 画像の設定を変える（RAW 同時記録設定）

RAW モードで撮影した場合（☞P.66）、RAW 形式ファイル（.DNG ファイル）と関連付けられた JPEG ファイルが同時に記録されます。

セットアップタブ（☞P.132）の［RAW 同時記録設定］では、この JPEG ファイルの画質・サイズの設定を変更できます。

設定項目	内容
FINE	画質モード：F（Fine）、画像サイズ：RAW 形式ファイルと同じサイズで記録します。
NORMAL	画質モード：N（Normal）、画像サイズ：RAW 形式ファイルと同じサイズで記録します。
N640	［画質・サイズ］の［N640(VGA)］（☞P.65）と同じ画質・サイズで記録します。

メモ

［画質･サイズ］が［RAW3:2］のとき、［RAW 同時記録設定］を［N640］に設定すると、JPEG 画像の上下が黒く表示されます。また、［RAW1:1］のときは、JPEG 画像の左右が黒く表示されます。

色空間を設定する（色空間設定）

セットアップタブ（☞P.132）の［色空間設定］では、撮影時の色空間を、デジタルの世界で一般的な sRGB と、より広い色空間の AdobeRGB から選択できます。

注意 --

- 本カメラにおける AdobeRGB 設定とは、アドビシステムズ社が採用し、Photoshop などの画像編集ソフトウェアのデフォルト設定している色空間と互換性のある色空間です。
- AdobeRGB は、商用印刷での使用を目的としているため、一般のプリントサービス、ホームプリンターなどでの印刷には適していません。sRGB より広い範囲の色空間をカバーしますが、AdobeRGB に対応していない環境で表示・印刷を行うと、色が薄く表現される場合があります。
- AdobeRGB に設定して撮影した画像をパソコンで表示する場合、AdobeRGB 色空間に対応したアプリケーションソフトをご使用にならないと、正しい色が再現できません。

オートリサイズズームを使う（デジタルズーム切替）

セットアップタブ（☞P.132）の［デジタルズーム切替］で［オートリサイズ］を選択して Q/▣ ボタンを押すと、オートリサイズズームが使用できます。オートリサイズズームを使うと、必要な部分だけをトリミング（切り出し）して撮影できます。

オートリサイズズームは、［ズームボタン設定］を［デジタルズーム］に設定し（☞P.146）、［画質・サイズ］を 3648 × 2736 に設定しているとき（☞P.65）のみ有効になります。

設定項目	内容
通常	通常のデジタルズームです。
オートリサイズ	自動的に画像サイズを変更して記録します。

撮影できる状態で、Q（拡大表示）ボタンを押すごとに、1 段階ずつ画像サイズが変更されます。画像モニターには記録する画像サイズが表示されます。



オートリサイズズームについて

- 通常のデジタルズームは、画像の一部を設定した画像サイズまで拡大して保存するのに対し、オートリサイズズームは広い範囲を撮影し、必要な部分だけを既定の画像サイズでトリミングして記録します。そのため、画像サイズは小さくなりますが画質が劣化しません。
- 記録する画像のサイズは、オートリサイズズームの倍率により変化します。

ズーム倍率	画像サイズ	ズーム倍率	画像サイズ
1.0 倍	3648 × 2736（10M）	約 1.8 倍	2048 × 1536（3M）
約 1.1 倍	3264 × 2448（8M）	約 2.9 倍	1280 × 960（1M）
約 1.4 倍	2592 × 1944（5M）	約 5.7 倍	640 × 480（VGA）

注意

- S 連写、M 連写、シーンモードの［斜め補正］の場合は、［オートリサイズ］に設定していてもデジタルズームが有効になります。
- ［画質・サイズ］が RAW モードのときは、使用できません。

カーソルの位置を記憶する（メニューカーソル位置保持）

セットアップタブ（☞P.132）の［メニューカーソル位置保持］を［ON］にしてメニューを表示すると、最後に選択していた項目にカーソルが合っています。

ファイル名の設定を変える（カード連続 NO.）

撮影した静止画には、自動的に連番のファイル名が付き、内蔵メモリーやメモリーカードに記録されます。

セットアップタブ（☞P.132）の［カード連続 NO.］では、メモリーカードを入れ替えた場合のファイル名を、前のカードからの連番にするかを設定できます。

設定項目	内容
ON（連番にする）	ファイル名として、先頭に「R」の付いた 7 桁の通し番号（R0010001.jpg ～ R9999999.jpg）が自動的に付けられます。 メモリーカードを別のカードに替えても、前のカードからの連番でファイル名が付くように設定されています。
OFF（連番にしない）	新しいメモリーカードをセットするたびに、RIMG0001.jpg ～ RIMG9999.jpg までのファイル名が付きます。 RIMG9999 を超えると、それ以上は記録できません。

メモ

- 内蔵メモリーに記録する場合には、常に［カード連続 NO.］が［OFF］の場合と同じファイル名が付けられます。
- ［色空間設定］を［AdobeRGB］に設定している場合（☞P.160）は、ファイル名の先頭が「_」（アンダーバー）になります。
- DL-10 を使ってパソコンに転送する（☞P.173）場合は、新しいファイル名で保存されます。また、［カード連続 NO.］を［ON］に設定していても、ファイル名は「RIMG****.jpg」（**** は番号）で保存されます。

注意

- ［カード連続 NO.］が［OFF］の場合は、RIMG9999 を超えるとファイル番号が足りなくなるためそれ以上は記録できなくなります。
- ［カード連続 NO.］を［ON］に設定し、フォルダ番号が 999 未満の場合は、R9999999 まで記録可能です。フォルダ番号が 999 の場合は、R***9999 を超えるとそれ以上は記録できなくなります。

日付・時刻を設定する（日時設定）

セットアップタブ（☞P.132）の［日時設定］では、日付・時刻を設定できます。日時の設定方法は P.22 を参照してください。

メモ --

- 電池を取り出してから約 1 週間経過すると、設定した日付・時刻がリセットされます。再度、設定しなおしてください。
- 日時を保持させるためには、電池残量が充分にある電池をカメラに 2 時間以上セットしてください。

表示言語を変える（Language ／言語）

セットアップタブ（☞P.132）の［Language ／言語］では、画像モニターに表示される言語を変更できます。

設定項目	
日本語	English（英語）

テレビでの再生方式を変える（ビデオ方式）

セットアップタブ（☞P.132）の［ビデオ方式］では、付属の AV ケーブルでカメラをテレビに接続して、テレビの画面で静止画や動画を見る（☞P.123）際のビデオ方式を設定できます。

設定項目	内容
NTSC	日本などで使用されている方式
PAL	ヨーロッパなどで使用されている方式

メモ --

SECAM 方式には対応していません。

画面の表示は、ご使用のパソコンの OS によって異なります。

Windows をご使用の場合

Macintosh をご使用の場合は P.177 をご覧ください。

画像をパソコンに取り込むには、以下の 2 種類の方法があります。

1 DL-10 などの画像取り込みソフトウェアを使用して、画像を取り込む（☞P.173）

DL-10 を使用するには、付属の CD-ROM からソフトウェアをインストールしておく必要があります（☞P.168）。

2 DL-10 などの画像取り込みソフトウェアを使用せずに画像を取り込む（☞P.174）

注意 ---

Windows 98、Windows 98 SE には本カメラから画像を取り込めません。カードリーダーを使用して、メモリーカードから画像をコピーしてください（☞P.174）。

メモ ---

画像をパソコンに取り込む方法の詳細については、CD-ROM に収められている『使用説明書（ソフトウェア編）』を参照してください。『使用説明書（ソフトウェア編）』の表示方法については、P.167 を参照してください。

付属の CD-ROM を使うために必要な環境

付属の CD-ROM を使うためには、以下の環境が必要です。
ご使用のパソコンやパソコンの説明書などで、ご確認ください。

対応 OS	Windows 2000 Professional Service Pack 4（日本語版） Windows XP Home Edition Service Pack 3（日本語版）/Professional Service Pack 3（日本語版） Windows Vista Service Pack 1（日本語版）
CPU	Windows 2000/Windows XP：Pentium® Ⅲ 500MHz 以上 Windows Vista：Pentium® Ⅲ 1GHz 以上
メモリー	Windows 2000/Windows XP：256MB 以上 Windows Vista：512MB 以上
インストール時のハードディスクの空き容量	160MB 以上
ディスプレイの解像度	1024 × 768 ドット以上
ディスプレイの表示色	65000 色以上
CD-ROM ドライブ	上記パソコン本体で使用可能な CD-ROM ドライブ
USB ポート	上記パソコン本体で使用可能な USB ポート

注意 --

- 64 ビット版には対応していません。
- Windows 98、Windows 98SE、Windows Me には対応していません。
- OS をアップグレードしたパソコンの場合、正常に USB 機能が動作しないことがあるため、サポート対象外となります。
- OS のシステム環境の変化やサービスパックなどのバージョンにより、正しく動作しないことがあります。
- 拡張機能（PCI バスなど）を利用して増設した USB ポートへの接続はサポートできません。
- HUB などの他の USB 機器との組合せで使用した場合、正しく動作しないことがあります。
- 動画などの大きなファイルを扱う場合は、より大きなメモリー環境で利用することをお勧めします。

CD-ROM の構成

付属の CD-ROM をパソコンにセットすると、インストーラー画面が自動的に表示されます。



項目名	内容	参照先
ソフトウェアのインストール	パソコンで画像の一括取り込みや編集を行うときに必要なソフトウェアを一括でインストールできます。	P.167
使用説明書(ソフトウェア編)を見る	『使用説明書(ソフトウェア編)』(PDF)を表示できます。	P.167
CD-ROM の内容を見る	付属の CD-ROM 内のファイル一覧を表示できます。	P.167
RICOH ホームページへ	リコーのホームページを表示できます。*	–
RICOH デジタルカメラホームページへ	リコーのデジタルカメラのホームページを表示できます。*	–
お客様登録・変更	リコーのお客様登録のホームページを表示できます。*	–

*インターネットに接続できる環境が必要です。

ソフトウェアのインストール（☞P.168）

（☞P.168）

以下のソフトウェアがインストールされます。

ソフトウェア名	説明
DL-10	画像をパソコンに一括取り込みします。
Irodio Photo & Video Studio	撮影した画像を閲覧・管理・編集できます。
USB ドライバー	リコーの過去機種と Windows 98/Windows 98SE/ Windows Me/Windows 2000 を接続するときに使います。本カメラでは使用しません。
WIA ドライバー	リコーの過去機種と Windows XP/Windows Vista を接続するときに使います。本カメラでは使用しません。

メモ --

Irodio Photo & Video Studio の使い方については、Irodio Photo & Video Studio のヘルプを参照してください。
Irodio Photo & Video Studio についての最新の情報は、株式会社ピクセラのホームページ（http://www.pixela.co.jp/oem/irodio/j/irodio_digitalphoto_videostudio/）を参照してください。

使用説明書（ソフトウェア編）を見る

CD-ROM 内の『使用説明書（ソフトウェア編）』（PDF ファイル）を表示します。

表示するには Acrobat Reader または Adobe Reader が必要です。Acrobat Reader または Adobe Reader がインストールされていない場合は、Adobe Reader をインストールしてください（☞P.171）。

CD-ROM の内容を見る

CD-ROM 内のフォルダやファイルを確認できます。

CD-ROM には、［ソフトウェアのインストール］をクリックしてインストールされるソフトウェア以外に、Adobe Reader が収められています。インストール方法は、P.171 を参照してください。

「Irodio Photo & Video Studio」フォルダ内の Irodio Photo &Video Studio.exe をダブルクリックすると、Irodio Photo & VideoStudio のみをインストールできます。

画像の一括取り込みや編集を行うためのソフトウェアをインストールする

注意 --

- カメラとパソコンを USB ケーブルで接続した状態でインストールしないでください。
- DC Software では、従来機種に付属していた Caplio Software とはソフトウェアの名称が以下のように異なります。

Caplio Software	DC Software
RICOH Gate La	DL-10
Caplio Viewer	DU-10*
Caplio Server	SR-10*
Caplio Setting	ST-10*

* 本カメラでは使用しません。

従来機種のソフトウェアがインストールされている場合は、インストール時にメッセージが表示されます。この場合はメッセージに従って従来機種のソフトウェアをアンインストールしてからインストールしてください。
Caplio Viewer、Caplio Server、Caplio Setting がインストールされていた場合は、上記のソフトウェアに置き換わり、これまでと同様にお使いいただけます。

- メッセージが表示される前に従来機種のソフトウェアをアンインストールした場合は、新しいソフトウェアをインストールしても DU-10、SR-10、ST-10 はインストールされません（アンインストール方法 ☞P.172）。
- 従来機種のソフトウェアをアンインストールすると、RICOH Gate La または DL-10 の［オプション設定］の設定内容が解除される場合があります。
- 管理者権限をもったユーザーアカウントでインストールしてください。
- DL-10 はネットワーク環境には対応していません。スタンドアローンとしてご使用ください。

ここでは Windows XP の画面例を使用しています。



1 パソコンの CD-ROM ドライブに付属の CD-ROM をセットする

Windows Vista 以外の OS の場合

- パソコンの画面に、自動的にインストーラー画面が表示されます。

Windows Vista の場合

- 自動再生画面が表示されます。
- ［Autorun.exe の実行］を選択してください。パソコンの画面に、自動的にインストーラー画面が表示されます。

2 ［ソフトウェアのインストール］をクリックする

Windows Vista 以外の OS の場合

- ［設定言語の選択］画面が表示されます。

Windows Vista の場合

- ユーザーアカウント制御の確認画面が表示されます。
- コンピュータへのアクセス要求の［許可］を選択してください。［設定言語の選択］画面が表示されます。

3 言語を選択し、［OK］をクリックする

- ［DC Software 用の InstallShield Wizard へようこそ］画面が表示されます。



4 ［次へ］をクリックする

- ［インストール先の選択］画面が表示されます。



5 インストール先を確認して［次へ］をクリックする

- ［プログラムフォルダの選択］画面が表示されます。

6 プログラムフォルダを確認して［次へ］をクリックする



- 続けて Irodio Photo & Video Studio のインストーラが起動します。画面の指示に従ってインストールしてください。パソコンによっては、次の画面が表示されるまでに時間がかかる場合があります。



- すべてのインストールが完了すると、インストール完了のダイアログが表示されます。

7 ［完了］をクリックする

8 再起動を促すメッセージが表示されたら、［はい、今すぐコンピュータを再起動します。］を選択して、［完了］をクリックする

- パソコンが再起動します。
- 再起動後に Windows セキュリティの重要な警告画面が表示されます。

9 DL-10 の［ブロックを解除する］ボタンをクリックする

メモ --

インストールしたソフトウェアをパソコンから削除（アンインストール）できます（☞P.172）。

Adobe Reader をインストールする

Adobe Reader は、『使用説明書（ソフトウェア編）』を読むために必要なソフトウェアです。すでにインストールされている場合には、インストールする必要はありません。

注意 --

- カメラとパソコンを USB ケーブルで接続した状態でインストールしないでください。
- 管理者権限をもったユーザーアカウントでインストールしてください。



1 パソコンの CD-ROM ドライブに付属の CD-ROM をセットする

Windows Vista 以外の OS の場合

- パソコンの画面に、自動的にインストーラー画面が表示されます。

Windows Vista の場合

- 自動再生画面が表示されます。
- ［Autorun.exe の実行］を選択してください。パソコンの画面に、自動的にインストーラー画面が表示されます。

2 ［CD-ROM の内容を見る］をクリックする

- CD-ROM 内のファイル一覧が表示されます。

3 ［Adobe Reader］フォルダ ＞［Japanese］フォルダ ＞［AdbeRdr910_ja_JP］（AdbeRdr910_ja_JP.exe）をダブルクリックする

- Windows Vista をご使用の場合、ユーザーアカウント制御の確認画面が表示されます。［続行］を選択してください。

4 表示されるメッセージにしたがってインストールする

メモ --

- Adobe Reader については、Adobe Reader のヘルプを参照してください。
- Adobe Reader 9.1 をインストールするためには、Microsoft Internet Explorer 6.0、6.0（Service Pack 1）、または 7.0、8.0、Firefox 2.0 または 3.0 が必要です。Microsoft Update より入手可能です。
- Adobe Reader 9.1 をインストールするためには、MSI(Microsoft Windows Installer) 3.1 以上が必要です。Microsoft Update より入手可能です。

ソフトウェアを削除（アンインストール）する

注意 ---

- 管理者権限をもったユーザーアカウントでアンインストールしてください。
- 他のソフトウェアを終了してからアンインストールしてください。

DC Software

1 タスクバーの［スタート］をクリックし、[設定] -［コントロールパネル］（Windows XP、Windows Vista の場合は［コントロールパネル］）を選択する

2 ［アプリケーションの追加と削除］アイコン（Windows XP の場合は［プログラムの追加と削除］アイコン）をダブルクリックする

3 ［DC Software］を選択し、［変更と削除］をクリックする

4 ファイル削除のメッセージを確認し、［OK］をクリックする

- ［共有ファイルの検出］ダイアログが表示されます。

5 ［はい］をクリックする

- 削除が始まります。完了したらウィンドウを閉じてください。

Irodio Photo & Video Studio

1 タスクバーの［スタート］をクリックし、[設定] -［コントロールパネル］（Windows XP、Windows Vista の場合は［コントロールパネル］）を選択する

2 ［アプリケーションの追加と削除］アイコン（Windows XP の場合は［プログラムの追加と削除］アイコン）をダブルクリックする

3 ［Irodio Photo & Video Studio］を選択し、［変更と削除］をクリックする

4 ファイル削除のメッセージを確認し、［OK］をクリックする

- 削除が始まります。完了したらウィンドウを閉じてください。

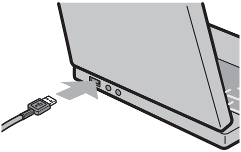
5 パソコンを再起動する

DL-10 を使用して画像を一括取り込みする

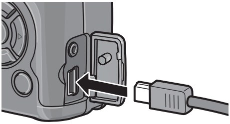
ソフトウェアをパソコンにインストールしてから、カメラとパソコンを接続します。

1 カメラの電源がオフになっていることを確認する

2 付属の USB ケーブルをパソコンの USB ポートに接続する



3 USB ケーブルをカメラの USB 端子に接続する



- カメラの電源がオンになります。
- DL-10 が起動して、自動的に画像の転送が開始されます。
- DL-10 は［マイドキュメント］フォルダの中に自動的に［Digital Camera］フォルダを作成します。取り込んだ画像は、撮影日ごとのフォルダに入れて［Digital Camera］フォルダ内に保存されます（Caplio Software を使用していた場合は、引き続き［Caplio］フォルダ内に保存されます）。あらかじめカメラで正しい日時を設定してから撮影してください。

4 画像の転送が終了したら、カメラとパソコンの接続を解除する（☞P.176）

メモ --

画像の転送が始まらない場合は、以下の操作をお試しください。

- DL-10 のウィンドウの［保存］ボタンをクリックする
- パソコンを再起動して 1 ～ 4 の操作をもう一度行う
- DL-10 の［オプション設定］ダイアログボックスで［USB 接続時、自動保存を行う］にチェックマークが付いているか確認する

注意 --

- USB ケーブルは無理に差し込まないでください。
- USB ケーブルを差し込んだ状態で、無理な力を加えないでください。
- USB ケーブルの使用中は、USB ケーブルを持ったままカメラを動かさないでください。

DL-10 を使用せずに画像を取り込む

ソフトウェアを使用せずに、カメラからパソコンに画像を取り込みます。

1 カメラの電源がオフになっていることを確認する

2 付属の USB ケーブルをパソコンの USB ポートに接続する

3 USB ケーブルをカメラの USB 端子に接続する

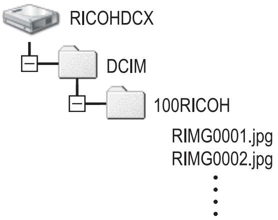
- カメラの電源がオンになります。
- 準備が終わると、［マイコンピュータ］にドライブとして表示されます。



Windows XP での表示例

4 表示されたドライブから、任意の場所にファイルをコピーする

- ドライブのフォルダ構成は右図のようになっています。
- メモリーカードがセットされているときはメモリーカードのファイル、セットされていないときは内蔵メモリーのファイルが表示されます。



Windows XP での表示例

- 内蔵メモリーの内容が表示されているときは、ドライブ名は［RICOHDCI］になります。

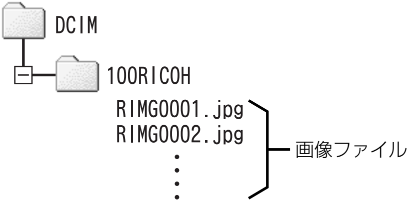
注意 --

- 画像の取り込み中は電源をオフにしたり USB ケーブルを抜いたりしないでください。
- 取り込み先に同じファイル名のファイルがある場合は、上書きされます。

メモリーカードから画像を取り込む

PC カードスロットやカードリーダーを使って、メモリーカードからパソコンへ画像を取り込めます。

メモリーカードには、図のような階層で画像が記録されています。



Windows XP での表示例

カードリーダー

パソコンに接続して、カードの内容を読み取るための機器です。メモリーカードアダプタータイプの他に、各種のカードに対応したカードリーダーがあります。

注意

カメラやカードリーダーをパソコンに接続し、メモリーカード内の画像を直接パソコンで表示・編集・保存などした場合、その画像がカメラで再生できなくなることがあります。表示・編集・保存などは、画像をパソコンに取り込んだ後に行ってください。

カメラとパソコンの接続を解除する

カメラとパソコンの接続を解除する場合は、以下のように操作してください（表示は Windows XP の例です。他の OS では用語やアイコンが異なりますが、操作は同じです）。

1 タスクバーの右端にある「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをクリックする



2 ［USB 大容量記憶装置デバイス - ドライブ（E:）* を安全に取り外します］を選択してクリックする

* ドライブの表示は、ご使用のパソコンによって異なります。

3 USB ケーブルを取り外す

メモ --

- 接続を解除しないで USB ケーブルを外すと、デバイスの取り外しの警告画面が表示される場合があります。必ず接続を解除してから USB ケーブルを取り外してください。
- 画像の転送中に USB ケーブルを外さないでください。必ず転送終了を確認し、接続を解除してからケーブルを取り外してください。

Macintosh をご使用の場合

Windows をご使用の場合は P.164 をご覧ください。

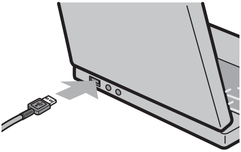
本カメラは、以下の OS に対応しています。

- Mac OS 9.0 ～ 9.2.2
- Mac OS X 10.1.2 ～ 10.5.6

画像をパソコンに取り込む

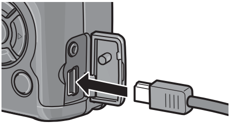
1 カメラの電源がオフになっていることを確認する

2 付属の USB ケーブルをパソコンの USB ポートに接続する

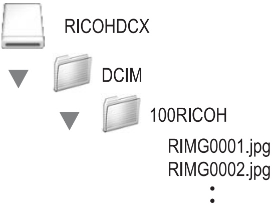


3 USB ケーブルをカメラの USB 端子に接続する

- カメラの電源がオンになります。
- 準備が終わると、デスクトップにドライブとして表示されます。



4 表示されたドライブから、任意の場所にファイルをコピーする



- ドライブのフォルダ構成は右の図のようになっています。
- メモリーカードがセットされているときはメモリーカードのファイル、セットされていないときは内蔵メモリーのファイルが表示されます。
- 内蔵メモリーの内容が表示されているときは、ドライブ名は［RICOHDCI］になります。

注意 --

- USB ケーブルは無理に差し込まないでください。
- USB ケーブルを差し込んだ状態で、無理な力を加えないでください。
- USB ケーブルの使用中は、USB ケーブルを持ったままカメラを動かさないでください。

カメラとパソコンの接続を解除する

1 表示されたドライブまたはボリュームのアイコンを「ゴミ箱」アイコンにドラッグアンドドロップする

- 管理者パスワードを要求する画面が表示された場合は、パスワードを入力します。

2 USB ケーブルを取り外す

メモ --

- Mac OS 9 の場合は［特別］メニューで、Mac OS X の場合は［ファイル］メニューで［取り出し］を選択しても接続を解除できます。
- 接続を解除しないで USB ケーブルを外すと、デバイスの取り外しの警告画面が表示される場合があります。必ず接続を解除してから USB ケーブルを取り外してください。
- 画像の転送中に USB ケーブルを外さないでください。必ず転送終了を確認し、接続を解除してからケーブルを取り外してください。
- Macintosh に接続すると、メモリーカードに「FINDER.DAT」「.DS_Store」ファイルが書き込まれる場合があり、カメラでは［表示できないファイルです。］と表示されます。このファイルはメモリーカードから消去しても問題ありません。

お困りのときは

エラーメッセージが表示されたら

画像モニターにエラーメッセージが表示されたときは、以下の方法で対処してください。

エラーメッセージ	原因と対応方法	参照先
カードを入れてください。	カードがセットされていません。カードをセットしてください。	P.19
セットアップメニューから日付を設定してください。	日付が設定されていません。日付を設定してください。	P.22
FILE NUMBER OVER	ファイル番号の制限を超えています。他のカードをご使用ください。	P.162
表示できないファイルです。	カメラでは表示できないファイルです。パソコンなどでファイルを確認し、ファイルを削除してください。	–
容量不足です。コピーしますか。	カードの容量が不足しているため、すべてのファイルをコピーできません。他のカードをご使用ください。	P.20
プロテクトされています。	プロテクトされたファイルを削除しようとしています。	P.109
カードが書き込み禁止です。	カードが「LOCK（書き込み禁止）」されています。ロックを解除してください。	P.20
プリント設定できないファイルです。	プリント設定できないファイル（動画など）です。	–
容量不足です。	ファイルを記録できません。ファイルを削除するか、空き容量を確保してください。	P.39 P.149
	画像のプリント指定枚数が制限を超えています。どれか画像を選択し、枚数を0にしてください。	P.129
内蔵メモリーを初期化してください。	内蔵メモリーを初期化する必要があります。	P.149
カードを初期化してください。	カードが初期化されていません。本カメラでカードを初期化してください。	P.149
使用できないカードです。	再度初期化し直してください。それでもエラーメッセージが表示されるときは、カードの異常が考えられます。そのカードを使用しないでください。	P.149
メモリー書き込み中	ファイルをメモリーに書き込んでいます。書き込みが終わるまでお待ちください。	–
ファイルがありません。	再生できるファイルがありません。	–
記録できません。	記録可能枚数が0になりました。他のカードや内蔵メモリーに切り替えてください。	P.20

カメラ本体のトラブル

電源

症状	原因	処置	参照先
電源が入らない。	電池がセットされていない。または消耗している。	リチャージャブルバッテリーを正しくセットする。または充電する。必要に応じて AC アダプターを使う。使用可能な乾電池（☞P.17）使用時は新品電池に交換する。	P.16 P.18 P.196
	使用できない電池を使用している。	専用のリチャージャブルバッテリー、または使用可能な乾電池（☞P.17）を使う。	P.17
	AC アダプターが正しく接続されていない。	正しく接続し直す。	P.196
	電池の方向が違う。	正しくセットする。	P.18
電源が途中で切れる。	何の操作もしないで放置したので、オートパワーオフが働いた。	電源を再投入する。	P.21
	電池が消耗している。	リチャージャブルバッテリーを充電するか、AC アダプターを使う。使用可能な乾電池（☞P.17）使用時は新品電池に交換する。	P.16 P.18 P.196
	使用できない電池を使用している。	専用のリチャージャブルバッテリー、または使用可能な乾電池（☞P.17）を使う。	P.17
電源がオフにならない。	カメラの誤作動。	電池をセットしなおす。AC アダプター使用時には接続しなおす。	P.18 P.196
充分に残量のある電池なのに、残量が少ない電池マークが表示される。または電源がオフになる。	使用できない電池を使用している。	専用のリチャージャブルバッテリー、または使用可能な乾電池（☞P.17）を使う。	P.17
バッテリーを充電できない。	バッテリーの寿命。	新しいバッテリーに交換する。	P.18
電池の消耗が早い。	温度が極端に低いところや高いところで使用している。	−	−
	暗い屋内などの撮影で、フラッシュ発光回数が多い。	−	−

撮影

症状	原因	処置	参照先
シャッターボタンを押しても撮影できない。	電池が消耗している。	リチャージャブルバッテリーを充電するか、AC アダプターを使う。使用可能な乾電池（☞P.17）使用時は新品電池に交換する。	P.16 P.18 P.196
	電源が入っていない。または撮影モードになっていない。	POWER（電源）ボタンを押して、電源をオンにする。または ▶（再生）ボタンを押して撮影モードにする。	P.21 P.35
	再生モードになっている。	▶ ボタンを押して撮影モードにする。	P.35
	シャッターボタンを押しきっていない。	シャッターボタンを押しきる。	P.24
	メモリーカードが初期化されていない。	初期化する。	P.149
	メモリーカードに空き容量がない。	不要なファイルを削除するか、新しいカードをセットする。	P.19 P.39
	メモリーカードの寿命。	新しいカードをセットする。	P.19
	フラッシュが充電中。	オートフォーカス／フラッシュランプの点滅が終了するまで待つ。	P.30
	メモリーカードが「LOCK」されている。	「LOCK（書き込み禁止）」を解除する。	P.20
	メモリーカードの接触面が汚れている。	乾いた柔らかい布で拭き取る。	ー
撮影画像を確認できない。	画像確認時間が短い。	画像確認時間を長くする。	P.153
画像モニターに映らない。	電源が入っていない。または画像モニターが暗い。	電源を入れる。または画像モニターの明るさを調整する。	P.21 P.150
	画像モニターがオフになっている。	DISP. ボタンを押して、画像モニターをオンにする。	P.42
	ビデオケーブル／ AV ケーブルをさした状態になっている。	ビデオケーブル／ AV ケーブルを抜く。	P.123
オートフォーカスなのにピントが合わない。	レンズが汚れている。	乾いた柔らかい布できれいに拭き取る。	P.202
	被写体が撮影範囲枠の中央にない。	フォーカスロックで撮影する。	P.26
	ピントの合いにくい被写体である。	フォーカスロック、またはマニュアルフォーカスで撮影する。	P.26 P.69
	被写体との距離が近すぎる。	マクロモードで撮影する。または、被写体から離れて撮影する。	P.29

症状	原因	処置	参照先
手ブレになる。	シャッターボタンを押したときに、構えたカメラが動いた。	両肘を身体につけて構える。三脚を使用する。	P.23
	薄暗い場所（室内など）での撮影時には、シャッタースピードが遅くなり、手ブレしやすくなる。	フラッシュを使用する。 ISO 感度を上げる。	P.30 P.100
フラッシュが発光しない。またはフラッシュの充電ができない。	フラッシュがポップアップしていない。	ϟOPEN（フラッシュオープン）スイッチを下側にスライドさせて、フラッシュをポップアップさせる。	P.30
	フラッシュカバーが完全に上がっていない。	フラッシュカバーを手で押さえたり、覆ったりしないように注意する。	P.30
	フラッシュが発光禁止になる以下の機能を選択している。 ・オートブラケット、ホワイトバランスブラケット、カラーブラケット ・連写モード ・動画モード ・ダイナミックレンジダブルショットモード	フラッシュを発光して撮影したい場合は、設定やモードを変更する。	P.30 P.54 P.80 P.83 P.84 P.85 P.121
	フラッシュが発光禁止になっている。	フラッシュをポップアップさせる。ϟ（フラッシュ）ボタンで発光禁止を解除する。	P.30
	電池が消耗している。	リチャージャブルバッテリーを充電するか、必要に応じて AC アダプターを使う。使用可能な乾電池（☞P.17）使用時は新品電池に交換する。	P.16 P.18 P.196
フラッシュが発光したのに画像が暗い。	被写体までの距離が約 3.0m 以上離れている。	被写体に近づいて撮影する。	P.30
	黒っぽい被写体である。	フラッシュの光量を調節する。	P.87
	フラッシュの光量が適切でない。	フラッシュの光量を調節する。	P.87
	フラッシュカバーが完全に上がっていない。	フラッシュカバーを手で押さえたり、覆ったりしないように注意する。	P.30

症状	原因	処置	参照先
画像が明るすぎる。	フラッシュの光量が適切でない。	フラッシュの光量を調整する。 被写体から少し離れて撮影する。 被写体に照明などを当ててフラッシュを発光しないで撮影する。	P.87
	露出がオーバーしている。	露出補正を行う。 露光時間を短く設定する。	P.93 P.50
	画像モニターの明るさが適切でない。	画像モニターの明るさを調整する。	P.150
画像が暗すぎる。	暗いところを発光禁止で撮影している。	フラッシュをポップアップさせる。ϟ（フラッシュ）ボタンで発光禁止を解除する。	P.30
	露出が不足している。	露出補正を行う。 露光時間を長く設定する。	P.93 P.50
	画像モニターの明るさが適切でない。	画像モニターの明るさを調整する。	P.150
画像が自然な色合いにならない。	オートホワイトバランスの調整しにくい状況で撮影している。	被写体に白色系のものを入れて撮影する。またはホワイトバランスモードを［AUTO］以外にする。	P.94
日付などの記録情報が表示されない。	画面表示が、表示なしになっている。	DISP. ボタンを押して表示を切り替える。	P.42
AF 動作中、画像モニターの明るさが変化する。	オートフォーカス範囲と周囲の明るさが異なるとき、または暗いところで使用している。	故障ではありません。	―
縦に尾を引いた画像になる。	明るい被写体を写している。	スミア現象といい、故障ではありません。	―
水平インジケーターが表示されない。	［水準器設定］を［OFF］または［音のみ］に設定している。	［水準器設定］を［表示のみ］または［表示＋音］に設定する。	P.33
	画面表示がマーク表示またはヒストグラム表示以外になっている。	DISP. ボタンを押して、マーク表示またはヒストグラム表示に切り替える。	P.42
	カメラが上下逆さま（シャッターボタンが下向き）になっている。	カメラを正しく構える。	―
水平インジケーターの目盛りが中央を指している、または水準器音が鳴っている状態で撮影したのに、画像が傾いている。	乗り物に乗っているなど、動いている状態で撮影している。	停止している状態で撮影する。	―
	被写体自体が傾いている。	被写体を確認する。	―

再生／削除

症状	原因	処置	参照先
再生できない。または再生画面が出ない。	再生モードになっていない。	▶（再生）ボタンを押す。	P.35
	ビデオケーブル／ AV ケーブルが正しく接続されていない。	正しく接続し直す。	P.123
	［ビデオ方式］の設定が間違っている。	正しい方式を設定する。	P.163
メモリーカードが再生できない。または再生画面が出ない。	メモリーカードがセットされていない。または画像が記録されていないメモリーカードをセットした。	記録済みのカードをセットする。	P.19
	本カメラで初期化していないメモリーカードを再生した。	本カメラで初期化し、記録したカードをセットする。	P.19 P.149
	正常に記録されていないメモリーカードを再生した。	正常に記録されているカードをセットする。	－
	メモリーカードの接触面が汚れている。	乾いた柔らかい布で拭き取る。	－
	使用中のメモリーカードに異常がある。	記録済みの別のカードを再生する。異常がなければカメラは正常です。カードの異常が考えられるため、そのカードを使用しないでください。	－
画面が消えた。	電池が消耗している。	リチャージャブルバッテリーを充電するか、必要に応じて AC アダプターを使う。使用可能な乾電池（☞P.17）使用時は新品電池に交換する。	P.16 P.18 P.196
	何の操作もしないで放置したので、オートパワーオフが働いた。	電源を再投入する。	P.21
ファイルを削除できない。	プロテクトが設定されている。	プロテクトを解除する。	P.109
	メモリーカードが「LOCK」されている。	「LOCK（書き込み禁止）」を解除する。	P.20
メモリーカードを初期化できない。	メモリーカードが「LOCK」されている。	「LOCK（書き込み禁止）」を解除する。	P.20

その他

症状	原因	処置	参照先
メモリーカードが入らない。	挿入方向が違う。	正しくセットする。	P.19
カメラのボタンを操作しても作動しない。	電池が消耗している。	リチャージャブルバッテリーを充電するか、必要に応じて AC アダプターを使う。使用可能な乾電池（☞P.17）使用時は新品電池に交換する。	P.16 P.18 P.196
	カメラの誤作動。	POWER（電源）ボタンを押して、いったん電源をオフにし、再度 POWER ボタンを押して、電源をオンにする。	P.21
		電池をセットしなおす。AC アダプター使用時には接続しなおす。	P.18 P.196
日付が正しくない。	正しい日付・時刻が設定されていない。	正しい日付・時刻を設定する。	P.163
設定した日付が消えてしまった。	電池を抜いてしまった。	電池を取り出した状態が約 1 週間以上続くと、日付がリセットされるので、再度、設定し直す。	P.163
オートパワーオフが働かない。	オートパワーオフが［OFF］になっている。	オートパワーオフの時間を設定する。	P.151
警告音が鳴らない。	消音が設定されている。	［操作音音量設定］で音量なし以外を設定する。	P.152
テレビに映らない。	［ビデオ方式］の設定が間違っている。	正しい方式を設定する。	P.163
	ケーブルが接続されていない。	ケーブルを正しく接続しなおす。	P.123
	出力先のビデオ入出力スイッチの設定が間違っている。	出力先のビデオ入出力スイッチが正しいか確認する。	－

ソフトウェア／パソコンのトラブル

ソフトウェアについては、『使用説明書（ソフトウェア編）』（PDF ファイル）をご覧ください。

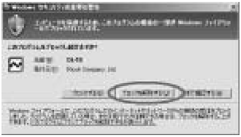
Windows XP Service Pack3、Windows Vista Service Pack1 での警告メッセージについて

Windows XP Service Pack3 または Windows Vista Service Pack1 がインストールされたパソコンで、弊社デジタルカメラ用ソフトの使用時（ソフト起動時、USB 接続時）などに以下の警告メッセージが表示される場合があります。以下を参考にしてください。

ここでは Windows XP の画面例を使用しています。

警告メッセージが表示された場合

名前、発行元を確認し［ブロックを解除する］ボタンをクリックしてください。



注意 --

プログラムの名前や発行元に心当たりが無い場合、ウイルスプログラムである可能性がありますので［ブロックする］をクリックしてください。ブロックすると、そのプログラムによる外部からの接続が利用できなくなります。

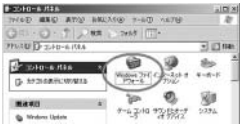
［ブロックする］ボタンをクリックした場合

Windows ファイアウォールの設定を確認します。

1 ［スタート］→［コントロールパネル］の順にクリックする

2 ［Windows ファイアウォール］をダブルクリックする

- ［Windows ファイアウォール］がない場合はウィンドウ左上の［クラシック表示に切り替える］をクリックしてください。



3 ［例外］タブをクリックする

4 ［プログラムおよびサービス］内で［DL-10］にチェックを入れる

5 ［OK］ボタンをクリックする



［後で確認する］ボタンをクリックした場合

プログラムを起動するたびに、［Windows セキュリティの重要な警告］ウィンドウが表示されるので、その際に［ブロックを解除する］を選択できます。

主な仕様

カメラ部有効画素数		約 1000 万画素
撮像素子		1/1.7 型 CCD（総画素数約 1040 万画素）
レンズ	焦点距離	6.0mm（35mm 換算値 28 mm）
	F 値	F1.9 〜 F9 （オート撮影モードで F8.0 〜 F11 表示のとき、絞りと ND フィルターを併用して露出制御）
	撮影距離範囲	約 30cm 〜∞（レンズ先端から）
		約 1.0cm 〜∞（マクロ撮影時、レンズ先端から）
	レンズ構成	6 群 8 枚（非球面レンズ 2 面 2 枚）
ズーム倍率		デジタルズーム 4.0 倍、オートリサイズズーム約 5.7 倍（画像は VGA）
フォーカスモード		マルチ AF（CCD 方式）／スポット AF（CCD 方式）／マニュアルフォーカス／スナップ／∞（フォーカスロック、AF 補助光あり）
シャッタースピード	静止画	180 秒、120 秒、60 秒、30 秒、15 秒、13 秒、10 秒、8 秒、6 秒、5 秒、4 秒、3.2 秒、2.5 秒、2 秒、1.6 秒、1.3 秒、1 〜 1/2000 秒（撮影モード、フラッシュモードによりシャッタースピードの上限と下限が変わります。）
	動画	1/30 〜 1/2000 秒
露出制御	測光モード	マルチ（256 分割）／中央重点測光／スポット測光（TTL-CCD 測光式、AE ロック可能）
	露出制御モード	プログラム AE、絞り優先 AE、マニュアル露出、シャッター優先 AE
	露出補正	マニュアル補正（+2.0 〜 -2.0EV 1/3EV ステップ）、オートブラケット機能（–0.5EV、± 0、+0.5EV ／ –0.3EV、± 0、+0.3EV）
ISO 感度（標準出力感度）		AUTO ／ AUTO-HI ／ ISO 64 ／ ISO 100 ／ ISO 200 ／ ISO 400 ／ ISO 800 ／ ISO 1600
ホワイトバランスモード		AUTO ／マルチパターン AUTO ／屋外／曇天／白熱灯／蛍光灯／手動設定／詳細設定、ホワイトバランスブラケット機能
フラッシュ	フラッシュモード	オート（低輝度時および逆光時自動発光）／赤目軽減／強制発光／スローシンクロ／マニュアル発光／発光禁止
	調光範囲	約 20cm 〜 3.0m（ISO AUTO）
	調光補正	± 2.0EV 1/3EV ステップ
画像モニター		3.0 型 透過型液晶、約 92 万ドット
撮影モード		オート撮影モード／プログラムシフトモード／絞り優先モード／シャッタースピード優先モード／マニュアル露光モード／シーンモード（文字／動画／斜め補正モード／ダイナミックレンジダブルショット）／マイセッティングモード
画質モード*1		F(Fine)、N(Normal)、RAW（DNG ファイル形式）*2

7

付録

記録画素数	静止画	3648 × 2736、3648 × 2432、2736 × 2736、3264 × 2448、2592 × 1944、2048 × 1536、1280 × 960、640 × 480
	動画	640 × 480、320 × 240
	文字	3648 × 2736、2048 × 1536
記録媒体		SD メモリーカード、SDHC メモリーカード、マルチメディアカード、内蔵メモリー（約 88MB）
記録データ容量	3648 × 2736	N：約 2164KB ／画面、F：約 3738KB ／画面、RAW：約 18.2MB ／画面
	3648 × 2432	N：約 1925KB ／画面、F：約 3325KB ／画面、RAW：約 16.2MB ／画面
	2736 × 2736	N：約 1628KB ／画面、F：約 2809KB ／画面、RAW：約 13.7MB ／画面
	3264 × 2448	N：約 1756KB ／画面
	2592 × 1944	N：約 1151KB ／画面
	2048 × 1536	N：約 763KB ／画面
	1280 × 960	N：約 447KB ／画面
	640 × 480	N：約 106KB ／画面
画像ファイル形式	静止画	JPEG（Exif ver2.21）*3、RAW（DNG）
	動画	AVI（Open DML Motion JPEG フォーマット準拠）
	圧縮方式	JPEG ベースライン方式準拠（静止画、動画）
その他主要撮影機能		連写／ S 連写／ M 連写、セルフタイマー（作動時間：約 10 秒／約 2 秒）、インターバルタイマー（撮影間隔：5 秒～ 1 時間、5 秒単位）*4、カラーブラケット、白黒 (TE)、色空間設定、ノイズリダクション、ヒストグラム表示、グリッドガイド表示、被写界深度表示、電子水準器、ホットシュー
その他主要再生機能		縦横自動回転再生、一覧表示、拡大表示（拡大倍率最大 16 倍）、画像サイズ変更
外部インターフェース		USB2.0（High-Speed USB）Mini-B、マスストレージ*5、オーディオ OUT 1.0Vp-p（75 Ω）
ビデオ信号方式		NTSC、PAL 切替え
電源		リチャージャブルバッテリー DB-65（3.7V）× 1 本
		単四形アルカリ乾電池、単四形ニッケル水素電池
		AC アダプター（AC-4c　オプション）：3.8V
電池寿命*6		CIPA 規格準拠　DB-65 使用時：約 370 枚、単四形アルカリ乾電池使用時：約 25 枚*7
外形・寸法		108.6mm（幅）× 59.8mm（高さ）× 25.5mm（奥行き）（突起部含まず）
質量		本体約 188g（バッテリー／メモリーカード／ストラップを除く） 付属品約 30g（バッテリー／ストラップ）
三脚ネジ穴形状		1/4–20UNC
デート保持時間		約 1 週間

7
付録

使用温度範囲	0℃～40℃
使用湿度範囲	85% 以下
保存温度範囲	–20℃～60℃

*1 画像サイズにより、設定できる画質モードが異なります。
*2 RAW と同サイズの Fine/Normal または Normal640 モードの JPEG と同時記録。DNG ファイル形式は RAW 画像ファイル形式の 1 つで、アドビシステムズ社が提唱する標準ファイル形式です。
*3 DCF 準拠、DPOF 対応。DCF は JEITA で標準化された「Design rule for Camera File system」の略称です（機器間の完全な互換性を保証するものではありません）。
*4 フラッシュ OFF 時。
*5 マスストレージは、Windows 2000、Windows XP、Windows Vista、Mac OS 9.0 ～ 9.2.2、Mac OS X 10.1.2 ～ 10.5.6 に対応しています。
*6 撮影可能枚数は CIPA 規格に準じた測定条件によるもので、使用条件により大きく異なります。
*7 パナソニック株式会社製の単四形アルカリ乾電池を使用。

内蔵メモリー／メモリーカードの記録可能枚数

内蔵メモリー／メモリーカードの容量別、画質／サイズ別の記録可能枚数の目安は、以下のとおりです。

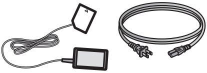
モード	画質	画像サイズ	内蔵	1GB	2GB	4GB	8GB	16GB	32GB
静止画	RAW	3648 × 2736	4	51	104	204	417	836	1677
	F	3648 × 2736	22	240	487	957	1957	3922	7867
	N	3648 × 2736	38	414	842	1653	3379	6769	13579
	RAW	3648 × 2432	5	57	116	229	469	939	1884
	F	3648 × 2432	25	269	548	1077	2202	4412	8851
	N	3648 × 2432	43	465	945	1856	3795	7602	15251
	RAW	2736 × 2736	6	68	138	271	554	1110	2227
	F	2736 × 2736	29	319	647	1270	2596	5202	10435
	N	2736 × 2736	50	544	1097	2155	4405	8824	17702
	N	3264 × 2448	47	512	1041	2045	4181	8376	16802
	N	2592 × 1944	72	775	1576	3094	6325	12671	25418
	N	2048 × 1536	109	1184	2363	4640	9486	19005	38125
	N	1280 × 960	175	1888	3840	7541	15415	30882	61951
	N	640 × 480	705	7553	15359	30159	61643	123489	247716
文字		3648 × 2736	38	414	842	1653	3379	6769	13879
		2048 × 1536	109	1184	2363	4640	9486	19005	38125
動画	640 × 480 15 コマ／秒		1 分 42 秒	18 分 20 秒	37 分 17 秒	76 分 41 秒	149 分 40 秒	299 分 50 秒	601 分 28 秒
	640 × 480 30 コマ／秒		51 秒	9 分 15 秒	18 分 49 秒	38 分 41 秒	75 分 31 秒	151 分 18 秒	303 分 31 秒
	320 × 240 15 コマ／秒		4 分 19 秒	46 分 19 秒	94 分 11 秒	193 分 41 秒	378 分 2 秒	757 分 18 秒	1519 分 7 秒
	320 × 240 30 コマ／秒		2 分 12 秒	23 分 42 秒	48 分 13 秒	99 分 8 秒	193 分 30 秒	387 分 39 秒	777 分 37 秒

メモ --

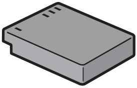
- 動画の記録可能時間は、合計の記録可能時間目安です。1 回の撮影で記録可能な動画は、最大 90 分または最大 4GB までです。
- 連写の最大連続撮影可能枚数は、999 枚です。残り記録枚数が 1000 枚以上ある場合でも、画像モニターには「999」と表示されます。
- 画像モニターに表示される残り記録枚数は、実際に撮影できる枚数と異なる場合があります。
- 静止画の記録可能枚数や動画の記録時間は、記録先（内蔵メモリーまたはメモリーカード）の容量や撮影条件などによって異なる場合があります。
- 長時間撮影される場合は、高速メモリーカードのご使用をお勧めします。

別売り品について

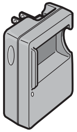
GR DIGITAL III では、以下の別売り品が使用できます。



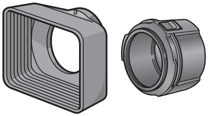
AC アダプター（AC-4c）



リチャージャブル
バッテリー（DB-65）

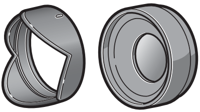


バッテリー
チャージャー（BJ-6）



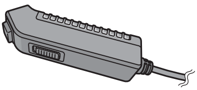
フード＆アダプター
（GH-2）

太陽の光がレンズに当たるのを防ぐフードと、φ 43mm 汎用フィルターなどを装着する際のアダプターとのセットです。逆光時の撮影画質を向上させたいときなどに使用します。



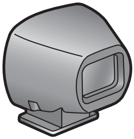
ワイドコンバージョン
レンズ（GW-2）

さらに広角に撮影したいときに使用します。倍率 0.75 倍のワイドコンバージョンレンズです。21mm 相当（35mm 判カメラ換算）での撮影が可能です。フード＆アダプターと併用して使用します（ケース付）。



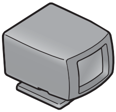
ケーブルスイッチ
（CA-1）

USB 端子に接続して、カメラのシャッターボタンを遠隔操作できます。



外部ファインダー
（GV-1）

ホットシューに取り付ける、光学ファインダーです。21mm 相当と 28mm 相当（35mm 判カメラ換算）用のフレームがついています（ケース付）。

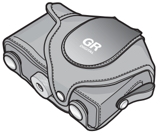


外部ミニファインダー
（GV-2）

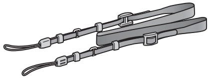
ホットシューに取り付ける、小型の光学ファインダーです。28mm 相当（35mm 判カメラ換算）用のフレームがついています（縦横比 1：1 撮影用マーク付）（ケース付）。



ソフトケース（GC-3）



ソフトケース（GC-4）
（GV-2 対応）

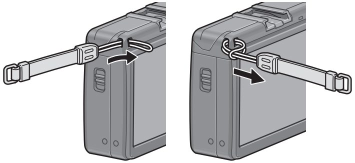


ネックストラップ
（GS-1 ／ ST-2）

- 各別売り品の使用方法は、商品に付属の使用説明書を参照してください。
- ワイドコンバージョンレンズおよびフードを使用している場合、内蔵フラッシュは使用できません。
- GR DIGITAL、GR DIGITAL II のオプションの GH-1、GW-1、GT-1 は使用できません。
- 別売り品の最新情報については、弊社ホームページ（http://www.ricoh.co.jp/dc）をご覧ください。

ネックストラップの付け方

ネックストラップの先端を結合部より外し、図のように取り付けます。

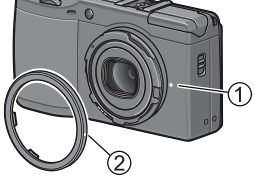


リングキャップの取り付け・取り外し方

コンバージョンレンズ、フード&アダプターを使用するときは、リングキャップを取り外します。

リングキャップの取り外し方

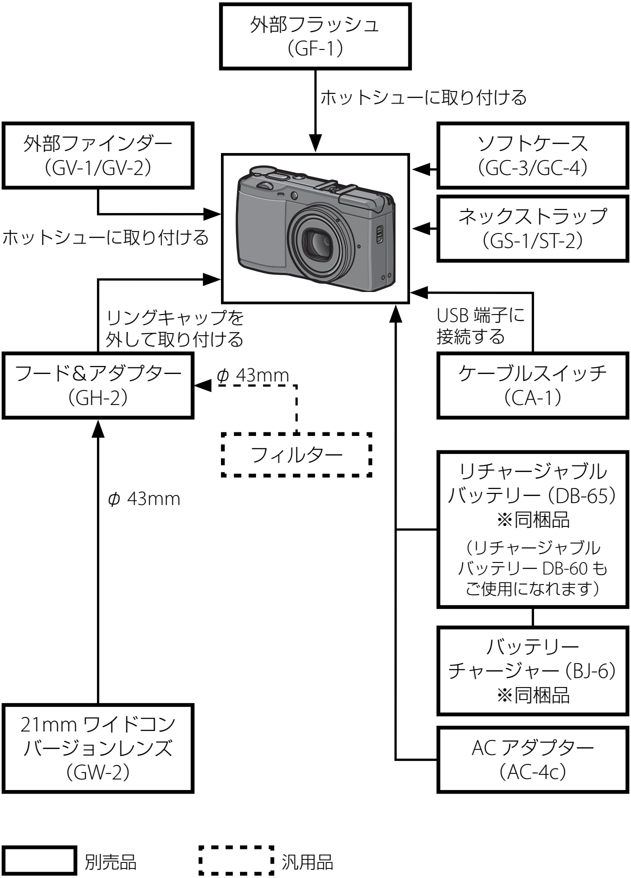
カメラの電源がオフの状態で、リングキャップを反時計回りに回し、カメラ本体から取り外します。



リングキャップの取り付け方

カメラの電源がオフの状態で、カメラ本体の目印①にリングキャップの目印②を合わせ、「カチッ」と音がする位置まで時計方向に回します。

カメラのシステム構成図



7
付録

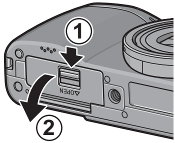
AC アダプター（別売り）を使う

撮影や静止画を見る際に長時間使用したり、パソコンと接続する場合には、AC アダプターを使うことをお勧めします。

AC アダプターをセットする場合は、カメラの電源がオフになっていることを確認してください。

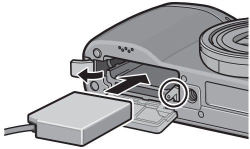
1 解除レバーを「OPEN」側にスライドさせ、バッテリー／カードカバーを開ける

- バッテリーが入っている場合は抜いてください。



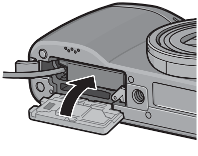
2 AC アダプター用バッテリーを挿入する

- セットされると、図のツメでロックされます。



3 電源（DC 入力）ケーブルカバーを開け、ケーブルを外に出す

4 バッテリー／カードカバーを閉じ、解除レバーを「OPEN」と反対側にスライドさせてロックする



5 電源プラグをコンセントに差し込む

注意 --

- バッテリー／カードカバーを閉めるときは、解除レバーをスライドさせて、確実にロックしてください。
- 電源プラグや AC コードは、しっかりと差し込んでください。
- カメラをご使用にならないときには、AC アダプターをカメラや電源コンセントから抜いてください。
- カメラの使用中に AC アダプターを取り外したり、電源プラグがコンセントから抜けたりすると、データが破壊されることがあります。
- AC アダプターをご使用の場合、 が表示されることがありますが、故障ではありません。そのまま引き続きご使用ください。
- AC アダプターの使用中は、AC アダプターのケーブルを持ったままカメラを動かさないでください。

AC アダプターを取り出すには

AC アダプターを取り外す前に、カメラの電源がオフになっていることを確認してください。

1 電源プラグをコンセントから抜く

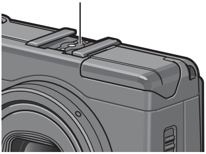
2 解除レバーを「OPEN」側にスライドさせ、バッテリー／カードカバーを開ける

3 AC アダプター用バッテリーを取り出す

4 バッテリー／カードカバーを閉じ、解除レバーを「OPEN」と反対側にスライドさせてロックする

外部フラッシュ（GF-1）を使う

本カメラにはホットシューが装備されているので、外部フラッシュ GF-1（別売り品）を接続して使用できます。



推奨品の外部フラッシュ（GF-1）を使用する場合

1 フラッシュカバーを閉じる（☞P.30）

2 カメラと外部フラッシュの電源がオフの状態で、外部フラッシュをホットシューに取り付ける

3 外部フラッシュとカメラの電源をオンにする

メモ --

外部フラッシュが認識されないときは、一度外部フラッシュとカメラの電源をオフにして、外部フラッシュを接続し直してください。

GF-1 以外の外部フラッシュを使用する場合

1 フラッシュカバーを閉じる（☞P.30）

2 カメラと外部フラッシュの電源がオフの状態で、外部フラッシュをホットシューに取り付ける

3 カメラの電源を入れ、モードダイヤルを A または M に合わせて、絞り値を設定する（☞P.48、P.50）

4 カメラの ISO 感度を［AUTO］以外に設定する（☞P.100）

5 外部フラッシュの電源を入れ、外部フラッシュを自動（オート）に設定し、絞り値と ISO 感度をカメラに合わせる

- 外部フラッシュをカメラから取り外すときは、外部フラッシュの電源を切ってから行ってください。

注意 --

- シャッタースピードが遅い場合は、手ブレすることがあります。
- GF-1 以外の市販フラッシュをご使用になる場合は、下記仕様であることをご確認ください。
  - X 接点以外の信号端子がないこと
  - X 接点の極性は + であること
  - X 接点の電圧は 20V 以下であること
- 外部フラッシュ装着時は、内蔵フラッシュを使用できません。傷や故障の恐れがあります。
- フラッシュ設定にかかわらず、ホットシューの X 接点にフラッシュ発光信号が出力されますので、外部フラッシュのフラッシュ発光停止は、外部フラッシュ側のスイッチで発光停止処置を施してください。
- 外部フラッシュの絞り値と ISO 感度をカメラと同じ条件にしても、適正露出にならない場合があります。そのときは外部フラッシュ側の絞り値や ISO 感度を変更してください。
- 撮影レンズの画角をカバーする照射角をもつ外部フラッシュを使用してください。
- 外部フラッシュの使用は、基本的に内蔵フラッシュの光量だけでは不足する距離（遠距離側）でご使用ください。近距離側では露出オーバーになることがあります。

海外でお使いのときは

AC アダプター（型名:AC-4c）、バッテリーチャージャー（型名: BJ-6）について

交流 100 ～ 240V、50Hz/60Hz の地域でご使用になれます。

使用先の国の電源コンセントにあった形状の変換アダプターを、あらかじめご用意ください。

電子式変圧器は使用しないでください。故障の原因となる恐れがあります。

保証について

本カメラは国内仕様です。付属している保証書は、国内のみ有効です。外国で万一、故障、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。

再生などで現地のテレビを使用する場合

映像入力端子付きのテレビ（またはモニター）で再生できます。付属の AV ケーブルをご使用ください。

本カメラでは、テレビ方式は NTSC と PAL に対応しています。現地のテレビ環境にあわせて、カメラのビデオ方式を切り替えてご使用ください。

海外へお出かけの際は、事前にビデオ方式をご確認ください。

使用上のご注意

- 本カメラは国内仕様です。付属している保証書は、国内のみ有効です。
- 外国で万一、故障、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。
- カメラを落としたり、衝撃を与えないよう十分に注意してください。
- カメラを持ち運ぶときは、本体に衝撃を与えないようにしてください。特にレンズや画像モニターをぶつけないよう十分に注意してください。
- フラッシュを連続して発光させると発光部が熱くなりますので、必要以上に連続してフラッシュを発光させないでください。
- 火傷や発火の原因になりますので、フラッシュ発光部に触れたり、ものを密着させたままフラッシュを発光しないでください。
- 視力障害の原因にもなりますので、目の近くでフラッシュを発光させないでください（特に乳幼児）。
- 事故を起こす原因にもなりますので、運転者などに向かってフラッシュを発光しないでください。
- 電池をご使用の場合、カメラを長時間連続使用した後は、すぐに電池を取り出さないでください。
- 画像モニターに太陽の光やライトが当たると、白っぽくなり見えにくくなることがあります。
- 画像モニターには、一部に常時点灯、あるいは常時点灯しない画素が存在することがあります。また、液晶の特性上、明るさにムラが生じることがありますが、故障ではありません。
- 画像モニターを強く押さないでください。
- 温度変化の激しいところでは、カメラ内部で水滴が生じる結露という現象が発生し、ガラス面がくもったり、作動不良などを起こすことがあります。このようなときは、一度カメラをビニール袋かバッグに入れ、できるだけ温度変化をゆるやかにし、温度差が少なくなってから取り出すようにしてください。
- 故障の原因になりますので、マイク、スピーカーの穴に針などを通さないでください。
- カメラを濡らさないでください。また、濡れた手でカメラを操作しないでください。故障や感電の原因となります。
- 大事な記録（結婚式や海外旅行等）を撮影されるときには、前もってテスト撮影をしてカメラの調子をご確認くださるとともに、使用説明書や予備のバッテリーの携帯などをお勧めいたします。

結露の発生しやすい状態

- 急激な温度差のあるところに移動したとき
- 湿気の多いとき
- 暖房した直後の部屋や、エアコンなどの冷房が直接あたるとき

お手入れと使用／保管場所について

お手入れ

- レンズに指紋や汚れがつくと、画質が悪くなることがありますので、ご注意ください。
- レンズにゴミや汚れがついたときは、直接手を触れず市販のブロアーで吹き飛ばすか、柔らかい布で軽くふき取ってください。
- 海辺や薬品を使う場所で使用したあとは、特に入念にふいてください。
- 万一カメラの具合が悪いときは、リコー修理受付センターにご相談ください。
- このカメラには高電圧回路があります。危険ですから絶対にご自分で分解しないでください。
- シンナー、ベンジンおよび殺虫剤など揮発性の物をかけないでください。変質したり、塗料がはげるなどの原因となります。
- 画像モニターの表面は、傷つきやすいので、かたい物でこすったりしないでください。
- 画像モニターの表面は、液晶ディスプレイの表面清掃用に市販されているクリーナー（有機溶剤の含まれていないもの）を、柔らかい布に少量含ませて軽くふき取ってください。

使用／保管場所について

- 以下のような場所での使用および保管は、カメラの故障の原因になりますので避けてください。
  高温多湿、または湿度、温度変化の激しい場所
  砂、ほこり、ちりの多い場所
  振動の激しいところ
  防虫剤などの薬品やゴム、ビニール製品などに長時間接触するところ
  強い磁場の発生するところ（モニター、トランス、磁石のそばなど）
- 長時間本カメラをご使用にならないときは、電池を取り出して保管してください。

お手入れ時のご注意

- 必ず電源をオフにしてください。
- 電池や AC アダプターを取り外して、お手入れしてください。

アフターサービスについて

1. 本カメラが万一故障した場合は、保証書に記載された保証期間内で無料修理いたしますので、当社修理受付窓口かお買い上げの販売店にお申し出ください。なお、修理にご持参いただくに際しての諸費用はお客様にご負担願います。
2. つぎの場合は上記保証期間内でも無料修理の対象にはなりません。
   ① 使用説明書に記載されている使用方法と異なる使用による故障
   ② 使用説明書に記載されている当社指定の修理取り扱い所以外で行われた修理、改造、分解掃除などによる故障
   ③ 火災、天災、地変、落雷、異常電圧などによる故障
   ④ 浸（冠）水、塩害、液体 (雨水、ジュース、酒類など）かぶり、落下、衝撃、砂（泥）入り、圧力などによる自然故障以外の故障
   ⑤ 保管上の不備（使用説明書に記載）、電池などの液漏など、カビ発生、手入れの不備などによる故障
   ⑥ 保証書の添付のない場合
   ⑦ 販売店名、ご購入年月日などの記載がない場合、あるいはこれらを訂正された場合
3. 保証書に記載された保証期間経過後は、本カメラに関する修理は有償修理とさせていただきます。なお、その際の運賃諸掛りにつきましては、お客様のご負担とさせていただきます。
4. 保証期間内であっても、本カメラについて各部点検、精密検査などを特別に依頼された場合には、別途実費をお客様にご負担いただきます。
5. 保証の対象となる部分は本体のみでケース、ストラップなどの付属品類および本カメラに付帯している消耗品類（電池類）は保証の対象となりません。
6. メモリーカードおよび内蔵メモリー内のデータについて一切の保証はできませんので、修理にお出しになる場合には、データのバックアップをお取りください。
7. 無償修理期間中であるか否かにかかわらず、本カメラの使用に関連するデータ損失、機会損失、利益損失、回復費用、第三者請求、その他付随的、間接的、あるいは二次的損害を始めとするあらゆる損害について当社は責任を負いません。
8. 保証書は日本国内においてのみ有効です。
   (This warranty is valid only in Japan.)
   国外に持ち出して修理が必要になった場合は、日本にお持ち帰りの上、修理の手続きをお願いします。
9. 販売店が独自に設けている延長保証は、本カメラの保証規定には適用されません。
10. 本カメラの補修用性能部品（機能、性能を維持するために不可欠な部品）は、5 年を目安に保有しております。
11. 浸（冠）水、砂（泥）入り、強度の衝撃、落下などで損傷がひどく、故障前の性能に復元できないと思われるものなどは修理できない場合もあります。ご了承ください。
12. 修理箇所によっては修理に日数がかかる場合がございます。

修理にお出しになる前

- バッテリーの消耗のチェックと使用説明書の再読（ご使用方法の再確認）をお願いいたします。
- ホームページに最新の情報が掲載されていますのであわせてご確認ください。ホームページのアドレスは、使用説明書の巻末に記載されています。

修理にお出しになる際

- 故障内容と故障箇所をできるだけ詳しくお申し出ください。
- 修理に直接関係のない付属品類は添付しないでください。

索引

記号・英数字

あ

か

ま

ら

わ

リコーフォトギャラリー RING CUBE

RING CUBE は、いつでも、気軽に、より多くのみなさんに参加していただくためのフォトギャラリーです。

8F ギャラリースペースでは、プロ・アマを問わず多彩なジャンルの写真展を開催。

9F には歴代のリコーカメラや新製品を展示しているほか、ワークショップスペースにて各種セミナーを実施しています。お気軽にご利用ください。

http://ringcube.jp/

東京都中央区銀座 5-7-2
三愛ドリームセンター　8F/ 9F (受付 9F)
開館時間：11:00 〜 20:00　(火曜日休館)
お問い合わせ：03-3289-1521

保証規定

1. 本製品が万一故障した場合はご購入日から満 1 年間無料修理いたしますので、お買い上げ店か当社修理受付窓口にお申し出ください。なお、お買い上げ店または当社修理受付窓口にご持参いただくに際しての諸費用は、お客様にご負担願います。
2. 以下の場合は、上記期間内でも保証の対象とはなりません。
   (1) 使用上の誤り（使用説明書以外の誤操作など）により生じた故障
   (2) 当社の指定する修理取扱い所以外で行われた修理、改造、分解掃除などによる故障
   (3) 火災、天災、地変、落雷、異常電圧などによる故障
   (4) 浸（冠）水、塩害、液体 (雨水、ジュース、酒類など）かぶり、落下、衝撃、砂（泥）入り、圧力などによる自然故障以外の故障
   (5) 保管上の不備（使用説明書に記載）や、電池などの液漏等、カビ発生、手入れの不備などによる故障
   (6) 裏面の保証書（以下、本保証書と記す）の添付のない場合
   (7) 販売店名、ご購入年月日などの記載がない場合、あるいはこれらを訂正された場合
3. 保証の対象となる部分は本体のみでストラップなどの付属品類及び本カメラに付帯している消耗品類（電池類）は保証の対象とはなりません。
4. 本カメラの故障に起因する付随的損害（記録・再生に要した諸費用及び、記録・再生により得べかりし利益の損失など）については補償しかねます。
5. 無償修理期間中であるか否かにかかわらず、本カメラの使用に関連するデータ損失、機会損失、利益損失、回復費用、第三者請求、その他付随的、間接的、あるいは二次的損害を始めとするあらゆる損害について当社は責任を負いません。
6. 保証期間内であっても、本カメラについて各部点検、精密検査などを特別に依頼された場合には、別途実費をお客様にご負担いただきます。
7. 保証書は日本国内においてのみ有効です。
   (This warranty is valid only in Japan)
   国外に持ち出して修理が必要になった場合は、日本にお持ち帰りの上、修理の手続きをお願いします。
8. 本保証書は再発行致しません。

ご注意

＊当製品の修理に関するお問い合わせは、販売店又は当社修理受付窓口までご連絡ください。
＊本保証書をお受け取りの際は、販売店名及び購入年月日等が記入されているかどうかをご確認ください。もし、記入もれがあった場合は、ただちにお買い上げ店へお申し出ください。
＊部品の保有期間等アフターサービスに関する事項については、「アフターサービスについて」をご覧ください。
＊保証期間経過後の修理等についてのお問い合わせは、当社修理受付窓口をご利用ください。
＊修理箇所によっては修理に日数がかかる場合がございます。
＊販売店が独自に設けている延長保証は、当保証規定には適用されません。
＊本保証書は上記の保証規定により無料修理をお約束するもので、これによりお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

お願い

1. 「リコー修理受付センター」ならびに「カメラサービスセンター」では、デジタルカメラの故障に関する事項、修理期間等のお問い合わせに限らせていただきます。
2. 修理以外の、製品に関する機能・性能、使用方法のお問合せは、「リコーお客様相談センター」までお願い申し上げます。
3. 修理に関する詳細につきましては、本使用書の「保証規定」ならびに、「アフターサービスについて」をご一読いただきますようお願いします。
4. 「リコー修理受付センター」ならびに各「リコーカメラサービスセンター」への修理のお申し込みは、日本国内のみ有効です。

「環境対応」から「環境保全」、そして「環境経営」へ。

リコーは地球環境に配慮した活動も積極的に推進し、かけがえのない地球の一市民として、環境保全活動も経営の重要課題として積極的に推進しています。



デジタルカメラについても環境負荷削減を目指し、「消費電力削減」、製品に含有される「環境影響化学物質削減」などに取り組んでいます。

ホームページによる情報提供

■ **製品情報**

http://www.ricoh.co.jp/dc/

■ **Ricoh Photo Style（活用＆コミュニティ）**

http://www.ricoh.co.jp/dc/photostyle/

■ **サポート総合案内**

http://www.ricoh.co.jp/dc/support/

■ **修理総合案内（修理料金概算などの修理全般の情報）**

http://www.ricoh.co.jp/dc/support/repair/

お困りのときは

使用説明書の「お困りのときは」をご覧ください。問題が解決しないときには、下記にてご確認ください。

■ **よくあるご質問（FAQ）**

製品の操作・活用について　http://www.ricoh.co.jp/dc/support/faq/
故障かなと思ったら　http://www.ricoh.co.jp/dc/support/repair/faqs/

■ **リコーお客様相談センター**

ホームページ受付　http://www.ricoh.co.jp/dc/support/contact/
0120 FreeDial 電話 0120-000475　FAX 0120-479417
受付時間：9:00 ～ 18:00（土、日、祝日を除く）
※なお、お問い合わせの内容は、対応状況の確認と対応品質の向上のため、ご相談内容を録音・記録させていただいております。

■ **「Irodio Photo & Video Studio」について**

株式会社ピクセラ　ナビダイヤル：0570-02-3500　電話：06-6633-2990
受付時間： 月曜日～日曜日 10:00 ～ 18:00
（年末年始、祝祭日、株式会社ピクセラ指定休日は除く）

修理受付

■ **ホームページ／電話による修理受付**

（梱包材と宅配伝票をお送りして修理品をお引き受けします）

リコー修理受付センター（リコーテクノシステムズ株式会社）
< ホームページ受付 > http://www.ricoh.co.jp/dc/support/repair/mail.html
0120 FreeDial < 電話受付 > 0120-053956　受付時間 9:00 ～ 17:00
（土曜、日曜、祝祭日、年末年始、夏期休暇はお休みさせていただきます）

■ **持ち込みによる修理受付**

（土曜、日曜、祝祭日、年末年始、夏期休暇はお休みさせていただきます）

リコー銀座カメラサービスセンター
〒 104-0061　東京都中央区銀座 6-14-7 第 3 リコービル 1 階
受付時間 9:30 ～ 17:00　電話 03-3543-4187

リコー新横浜デジタルカメラサービスセンター（リコーテクノシステムズ株式会社）
〒 222-0033　神奈川県横浜市港北区新横浜 1-2-1 新横浜ファーストビル 3 階
受付時間 9:30 ～ 18:00　電話 045-474-2586

リコー大阪カメラサービスセンター
〒 564-0053　大阪府吹田市江の木町 34-5 リコービル 7 階
受付時間 9:30 ～ 17:00　電話 06-6338-9092

株式会社リコー
〒 104-8222　東京都中央区銀座 8-13-1 リコービル
電話：0120-000475（フリーダイヤル）
2009 年 8 月

Jp JA Printed in China

L753 1971C